

美濃部博士(法學協會雜誌第三卷第八號再刊利餘金支出問題論)清水市村佐々木踏博士(答)ノ説

法律學ハ實際生活ノ學問ニシテ人類ノ實際生活ノ必要ヲ充タスコトヲ以テ法律學ノ任務トス法律學ヲ以テ單ニ論理ノ學問トスルコトハ法律學ノ目的ヲ根本的ニ誤レルモノナリ

上杉博士(第一三版憲法述義五四頁五五頁八三頁)ノ説

國家ノ結合統一ハ法ニ依ルノ結合統一テアル之レ國家ノ法學ノ研究ノ對象タル所以デアリマス……國家ノ構成ハ法的關係デアリ之ヲ研究スルハ法學デアル……法學ハ法ノ認識デアリマス其ノ國其ノ時代ニ於ケル實定ノ法ヲ分析シテ其ノ意義ヲ明ラカニスルノガ法學ノ目的職分デアリマス

### 第一項 國家

國家ナルモノハ普遍的性質ヲ有シテ世界中何レノ國家モ同質ノモノナラサルヘカラス馬ト牛ト異ナル如ク甲國ト乙國ト其性質ヲ異ニスルモノニ非ス故ニ日本モ英吉利モ皆同性質ノ國家タリ君主主體國ト貴族主體國ト其國家ノ性質ヲ異ニスヘキモノニ非ス

美濃部博士(太陽第一九卷第六號ノ近時ノ政界ニ於ケル憲法問題)ノ説

國家ナルモノハ日本ニ限ラス世界普通ノ現象ナルヲ以テ日本ニノミ特有ナル定義ヲ下スヘキモノニ非ス總テノ

國家ニ當ザルコトヲ得ル定義ヲ下ササルヘカラス

同博士(國家學會雜誌第二六卷第八號國家及政體論)ノ説

世界ニ國ヲ建ツルモノハ固ヨリ多シ其建國ノ體制國民ノ性情ハ各國皆異ナリト雖モ其國家タル性質ヲ有スルコトニ於テハ各國皆共通ナリトセハ國家ノ觀念及國家タルコトニ伴フ必然ノ性質ハ必ス又總テノ國家ニ共通ナルモノナラサザヘカラス

東洋ニ於テ古來國ト言ヘル語ハ領土ヲ指シ家ト言フ語ハ住居ヲ稱シ又系統家閥ヲ言ヒタルモノナリ其國ト家トヲ連結シテ之ヲ國家ト言フハ寧ロ近時ノコトニシテ國家ハ家ヲ擴大シタルモノト同一觀念ノ下ニ置カントスル考ヨリ起リタルモノナリ然レトモ此觀念ハ同一民族ヲ以テ組織シタル國家ニ於テ在リ得ルモノニ過キス現時用フル所ノ國家ナル語ハ *State*、*State*、ノ意義ナリ *State*、*State*、ハ其最初政治ノ意味ニ用ヒ後ニハ政治ノ區域又ハ權威ノ範圍ニ用ヒ又政治的集合體ニ用ヒタルモ現時ハ統治團體ノ意味ニ用フルナリ

アルンチエリ(國家論第一卷第二節)ノ説



- 國家ハ統治ヲ行フ爲メ一定ノ領土ニ於テ組織シタル人民團體ナリ  
オ、マイヤー(獨逸行政法論第一章緒論第一節)ノ說  
國家トハ最高權力即チ國家ノ下ニ國民ヲ結合セル行爲能力ヲ有スル一團體ナリ  
エリネツク(公權論總論第三節)ノ說  
國家ハ一定ノ領土ニ定住シ統一ノ體力ニ依リ支配セラルル國民團體ナリ  
グ、マイヤー(獨逸國法論緒論第二章第一節)ノ說  
國家ハ一定ノ領土ヲ基礎トスル人ノ共同團體ナリ  
ザイアール(巴國法論第一卷一七〇頁)ノ說  
國家ハ一定ノ土地ノ上ニ於ケル人類カ高キ意思即チ統治者ノ意思ノ下ニ團結シタルモノナリ  
同氏(一般國家學講演五頁)ノ說  
國家ハ統治權ニ服従スル土地及人民ナリ  
加藤弘之博士(國家ノ統治權一五頁—二〇頁二九頁三〇頁)ノ說  
國家ハ人類ノ共同團體ナリ  
穂積八束博士(憲法提要一頁)ノ說  
國家ハ一定ノ民族一定ノ領土ニ據リ獨立ノ主權ヲ以テ之ヲ統治スル團體ナリ  
美濃部博士(日本國法學四一頁)ノ說  
國家ハ一定地域ヲ基礎トスル法人ニシテ自己ニ固有ナル統治權ヲ有スルモノナリ

- 同博士(帝大行政法講義錄)ノ說  
國家トハ其土地ヲ基礎トスル人類團體ニシテ最高獨立ノ意思力ヲ有スルモノナリ  
寛博士(國家之研究二二五頁)ノ說  
國家ハ自主團體ナリ  
上杉博士(帝國憲法綱領一頁)ノ說  
國家ハ一定ノ土地ニ據在シ一定ノ多數人カ一定ノ主權者ニ依リテ統治セラルル團體ナリ  
同博士(帝國憲法述義二二頁)ノ說  
國家トハ一定ノ土地ヲ限リ一定ノ主權ノ下ニ一定ノ多數人類カ形成スル所ノ團體ナリ  
同博士(第一三版憲法述義一頁)ノ說  
國家トハ一定ノ多數ノ人類カ一定ノ土地ニ據在シ一定ノ主權ニ依リテ統治セラルル團體デアリマス  
清水博士(憲法篇四五頁)ノ說  
國家トハ一定ノ土地ノ上ニ統一的ニ組織セラレタル人民ノ團體ナリ  
同博士(第一〇版憲法篇三頁)ノ說  
國家トハ一定ノ土地ニ定着シ而カモ固有ノ統治權ニ依リ結合セラレタル人民ノ團體ヲ指稱ス  
織田博士(法學通論一〇〇頁)ノ說  
國家トハ一定ノ土地ニ於テ統治組織ヲ有スル人類ノ團體ナリ  
同博士(改訂法學通論一〇四頁)ノ說



同論

千賀博士(國際公法要義七三頁)ノ説

國家トハ一定ノ土地ト人民トヲ基礎トシテ起リタル政治的社團法人ニシテ且ツ主權ノ全部若クハ一部ヲ有スルモノナリ

市村博士(憲法要論四頁)ノ説

國家トハ一定ノ領土ノ上ニ於テ人類ノ多數カ最高意思ヲ有スル統治者ニ服従スル狀態ナリ

同博士(國家及國家論五〇頁)ノ説

國家ハ人格ナリ從ヒテ法人ナリ即チ統治權ノ主體ナリ

同博士(帝國憲法論一二頁)ノ説

同論

遠藤博士(國際公法要論五七頁)ノ説

國家トハ一定ノ領域ニ居住シ最高主權ノ下ニ統率セラレタル人類ノ政治的團體ニシテ永久の性質ヲ有スルモノナリ

同博士(明大平時國際法論講義錄三五頁—三七頁)ノ説

同論

井上博士(内外論叢第二卷第一號國家)ノ説

國家トハ統治權ノ下ニ一定ノ土地及複數人類カ統合セルモノナリ

同博士(同第二卷附錄憲法講義要錄二八頁)ノ説

同論

末岡博士(比較國法学二八五頁)ノ説

國家トハ何ソヤ曰ク一定ノ土地ヲ有シ統治ノ組織ヲ定ムル固有ノ權ヲ有シ又ハ統治權ノ全部若クハ一部ヲ固有スル團體ヲ爲ス人民カ統治ノ組織ヲ爲スモノナリ

小野塚博士(政治學大綱上卷一〇一頁)ノ説

國家トハ一定ノ土地ニ於テ統治組織ヲ有スル繼續的人類社會ナリ

立博士(平時國際公法二四頁)ノ説

國家トハ一定ノ領土、人民ヲ有スル主權ノ主體ニシテ永久の性質ヲ備フモノナリ

副島博士(日本帝國憲法論四頁)ノ説

國家ハ人類ノ領地的團體ニシテ統治權ノ主格ナリ

三浦博士(法學通論一八頁)ノ説

國家トハ社會ノ一體様ニシテ一個ノ主權ヲ戴キ一定ノ領土ニ據ルコトヲ以テ特徴トスルモノナリ

## 第二項 團體

近世憲法學者ノ多クハ國家ヲ以テ團體(Genossenschaft, Corporation)ナリト爲セ



リ伊藤公爵(帝國憲法義解三八頁)モ國家ヲ共同生存ノ目的ノ爲ニ存スルモノナリト論スル趣意ナルヲ以テ團體說ヲ認ムルモノノ如シ余モ國家ヲ團體ナリト認ムル者ナリ即チ國家ハ共同生存ノ團體ノ一ナリ然レトモ一般團體論者ノ如ク國家ヲ共同生存ノ目的ヲ以テ多數人類ノ結合シタル團體即チ其組成員カ生活ヲ共同ニ營ム目的ヲ以テ集合團結シタルモノナリト論スル者ニ非ス

エリホツク(組織論二五六頁二五七頁)ノ說

法人ノ共同意思カ其中心ヨリ發生スルモノナルトキハ社團ナリ

ローシ(團體法論四八團)ノ說

社團ハ結合シタル多數ノ共同目的及共同意思方單一ナル人格ノ目的及意思トシテ現ハルルモノナリ

穂積陳重博士(五人組制度第七章)ノ說

原人未開時代ニ在リテハ血族相結ヒ團體ヲ爲スニ止マルモ智識稍々發達スルニ從ヒテハ共同生活ノ利益ヲ自覺スルニ至リテ同地居住ノ關係ヲ以テ他族ノ者ト相依リテ地域團體ニ變移シ更ニ人智開發ノ程度ノ進歩スルトキハ人ノ相結ヒテ團結ヲ爲スモノ必スシモ血族ニ依ラス又必スシモ地域ニ基カス各其共同ノ目的ノ下ニ凝集團體ヲ成スモノナリ

穂積八束博士(憲法提要一頁)ノ說

團體ハ人ノ相依リテ合同ノ生存ヲ全クスルモノナリ合同生存ハ人ノ天性ナリ家ヲ成シ部落ヲ成シ國ヲ成シ以テ其合同ノ生存ヲ完フスルモノナリ

美濃部博士(日本國法學六頁)ノ說

多數人類カ集合シテ共同生活ヲ爲シ其全體ヲ以テ組織アル一體ヲ爲セルモノ即チ實體ナリ

同博士(憲法講話二頁)ノ說

團體トハ共同ノ目的ヲ以テスル多數人ノ結合ナリ多數人カ一致協力シテ其合同的ノ力ニ依リテ其目的ヲ達セントスル場合ニノミ之ヲ團體ト云フ

同博士(帝大行政法講義錄)ノ說

團體トハ共同ノ目的ヲ有スル多數人ノ繼續的結合體ナリ

同博士(國家學會雜誌第二六卷第八號國家及政體論)ノ說

共同目的ヲ有スル多數人ノ結合體ハ之ヲ團體ト謂フ共同ノ目的ハ全體ノ目的ナリ國家ヲ團體ナリト云フハ國家ヲ架空想像物即チ思想ノ產物ニ止マリ現實ノ存在ヲ有セサル無形ノ空想ナリト爲スヘカラス多數人カ共同シテ團體的生活ヲ爲セルコトハ現存ノ事實ナリ

同博士(太陽第一八卷第一〇號上杉博士ノ「團體ニ關スル異說」ヲ讀ム)ノ說

團體ハ目的ヲ同シクセル多數人ノ組織スル結合體ナリ

同博士(日本行政法五七一頁)ノ說

第二章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體



凡テノ法人ハ皆人類ノ團體ナリ凡テノ法人ノ中心點タルモノハ或一定ノ目的ニシテ此目的ノ爲ニ結合スル多數人類ノ集合カ即チ法人ナリ

市村博士(國家及國民論四八頁)ノ說

團體ト云フハ多數人類カ共同生活ノ目的ヲ以テ單位ニ結合シタルモノナリ

清水博士(第一〇版憲法篇三頁)ノ說

團體トハ目的ヲ同フスル多數人ノ結合ヲ云フ

上杉博士(第一三版憲法述論四九頁)ノ說

團體トハ多數ノ各人カ離レ離レノ各人ニ非スシテ秩序的ニ組織セラレ各人各々居ルヘキ地位ニ置カレ定マレル關係ヲ結ヒテ統一シテ一體ヲ成スコトヲ云フノテアル各人ト各人トノ間脈絡アリ全體ヲ通シテ秩序組織アリテ調和シテ統一體ヲ成シテ居ルノテアリマス

論者ノ論スル如キ團體モアルヘシ然レトモ凡テノ團體ハ必スシモ其組織員ノ共同意思即チ一致ノ意思ヲ以テ成立スルモノニ非ス一致ノ意思ヲ有セサルノミナラス氷炭相容レサル所ノ者ヲ緊結シテ組織シタル團體モアルナリ其故ニ法學上團體ナルモノハ團體員ノ一致結合シタルモノト團體員ノ一致結合シタルモノニ非サルモ他力ヲ以テ緊結シタルモノトノ二ア

リト謂フヘシ

穂積八束博士(憲法提要五頁)ノ說

團體ニニアリ一ハ各人平等ノ權ヲ以テスル自意投合ニ成ルモノニシテ之ヲ平等團體ト言ヒ他ハ強大ノ權力ノ在ルアリ衆多ノ之ニ服從スルニ由リテ成ルモノニシテ之ヲ權力團體ト言フナリ

余ハ其一致結合シタル團體ヲ一團體又ハ自成團體ト稱シ其他力ニ因リテ成ル所ノ團體ヲ強制團體又ハ他成團體ト稱ス其一致團體又ハ自成團體ト稱スルモノハ政黨、學會、會社、組合其他團體員ノ一致團結即チ自意投合ニ因リテ成リタル所ノ團結體ノ全部ニシテ其強制團體又ハ他成團體ト稱スルモノハ國家、公共團體其他法令ニ依リテ成リタル團結體ノ全部及法令ニ依ラスシテ個人間ニ在リテモ強者ノ強制ニ因リテ成リタルモノノ全部ナリ一致團體ハ一致即チ團體員ノ意思ノ離散セサル限り存在シ強制團體ハ強制力即チ緊結スル所ノ他力ノ存スル限り存在スルモノナリ其強制團體中ニハ偶然團體員ノ一致結合セルモノノ存在スルコトアルモ必スシモ常ニ



團體員ノ一致結合セルモノニ非ス若シ國家ヲ以テ國民ノ一致結合シタル一致團體タラサルヘカラサルモノトセハ其國家中國民ノ一致結合ノ意思ヲ有セサル者及離脱背反ノ意思ヲ有スル者ハ團體員ニ非ス從ヒテ國民ニ非スト爲ササルヘカラサルニ至ルヘシ他國ヲ併合シ又ハ他國領土ノ分割ヲ得タル場合ニハ其地上ニ在ル前國家ノ國民タル人類ハ決シテ併合國又ハ獲得國ノ國民ト一致結合スル意思ヲ有スルモノニ非ス却テ對敵恢復ノ謀意ヲ有スル者多シ此場合ニ在リテ國家ハ國民ノ一致結合ヲ要スルモノトセハ新領民ハ國民タルコトヲ得サルモノト謂ハサルヘカラサルニ至ルナリ又一國中或地域ニ在ル全國民カ分國又ハ謀反ノ意思ヲ生シタルトキハ當然國家ヲ分立シタルモノトセサルヘカラス其故ニ北米合衆國ハ英本國ニ對シテ獨立戰ニ勝タストモ獨立ノ意思ヲ生シタルトキハ一致結合ヲ缺キタルモノナルヲ以テ其獨立ノ意思ヲ生シタルト同時ニ一國ヲ建設シタルモノト爲ササルヘカラサルニ至ルナリ之レ國家ヲ一致結合ノ團體ト

爲スノ誤想ニ基因スルノ論結ナリ

一致團體ト多數團體トハ同一ニ非ス一致團體ハ全團體員ノ一致結合スルモノナルコトヲ要スルモ多數團體ハ團體員中ノ多數ノ者カ一致結合スレハ足レリ少數ノ者ハ一致結合ノ意思ヲ有セサルモ可ナリトスルモノナリ國家ヲ以テ多數團體ナリト爲ス者アリ然レトモ一致結合ノ意思ナキ者ハ如何ニシテ國民タルコトヲ得タリヤ生レナカラニ國家ノ一員タル者ハ誰ニ依リテ國家ノ一員トセラレタルモノナリヤ領土併合又ハ領土割讓ノ場合ニ於ケル新領民ヲ國民ト爲スニ付テハ如何ニシテ其一致結合ヲ得タリト爲スヤ又其自由意思ニ因リテ團體員トナリ國民トナリタル者モ國民タルコトヲ忌ミ離脱背反ノ意思ヲ生シタルトキハ一致結合ヲ切斷スルモノナルヲ以テ國家ヨリ離去シタルモノトセサルヘカラサルモ其之ヲ猶國民トシテ存在セシムルハ誰ノ行爲ナリヤ斯ノ如ク國民中ニハ一致結合ノ意思ナク生レナカラニシテ國民タル者アリ新領民ノ國民ト爲シタル者アリ



又離脱背反ノ意思ヲ有スル國民ノ存在スルコトアルヘシ其等ノ場合ニハ例外トシテ其一致結合ヲ要セスト爲スコトヲ得ルモノトセハ國家ヲ一致團體ナリト言フノ要ナク又國家ヲ一致團體ナリト言フヘキモノニ非ス殊ニ生レナカラニシテ國民タル者ハ國民中大多數ナルカ故ニ一致結合ノ意思ヲ以テ國民トナリタル者ハ眞ニ僅少ナリト言ハサルヘカラス從ヒテ國家ヲ多數團體ナリト言フモ非ナリ元來多數團體ナルモノハ團體員中多數ノ者カ一致結合ノ意思ヲ有スル場合ニハ少數ノ者カ一致結合ノ意思ヲ有セサルモ團體員ト看做スモノナルヲ以テ即チ強制團體タリ其故ニ多數團體ナルモノハ強制團體及一致團體ノ外ニ別在スルモノニ非ス強制團體ノ一種トシテ認ムヘキモノナリ領土ニ在ルノ故ヲ以テ國民ト爲スニ於テハ無國籍者タル在留人ハ凡テ國民ト爲ルニ至リテ國家ハ團體ナリト言フヨリハ在留者ノ全部ナリト言フノ至當ナルニ似タリ更ニ遡リテ建國ノ當初ヲ案スルニ其領有セントスル土地ノ上ニ居ル者ノ一致結合ヲ得サルヘカ

ラストセハ一一其意思ヲ確メサルヘカラス然ルニ實際ニ建國シタル事情ヲ見ルニ單ニ強者カ其領土内ニ居ル人類ノ意思ノ如何ヲ問ハス統治抑制スルモノナルコト恰モ臺灣及朝鮮ニ於ケルカ如シ其統治抑制ニ服從セサル者ハ彼ノ生蕃討伐暴徒討伐ノ如ク攻略シテ以テ國民ト爲スモノナリ其故ニ余ハ人類ヲ國民ト爲スハ建國前ニ在リテハ建國者ノ強力建國後ニ在リテハ統治權ノ行使ニ基クモノナリ其故ニ生レナカラ國民タルハ統治權ノ行使ニ基クシ歸化人及新領民ヲ國民ト爲スモ統治權ノ行使ニ成リ離脱背反ノ意思ヲ有スル者ヲ猶國民トシテ存續シ國民ノ義務ヲ免カレ得サラシムルモ統治權ノ行使ニ因ルモノト爲シ統治者カ國民分限ヲ定ムルニハ決シテ其意思ヲ問フコトナク又問ハスシテ定メ得ルモノナルヲ以テ國家ハ國民ノ一致團體ナリト言フハ非ナリ論者ハ日本ノ如ク國民ノ忠君愛國ノ念ニ堅ク團結セル状態ヲ見テ凡テノ國家ハ國民ノ一致團體ナリト言フニ在ルトキハ誤ナリ一致結合ハ或國家ノ偶生状態ニ外ナラス凡テノ國家



ハ一致團體ナラサルヘカラサルモノニ非ス國家ヲ以テ一致團體ナラサルヘカラサルモノトセハ世界中日本ヲ除キテハ殆ント國家トシテ存立シ得ルモノアラサルヘシ現時歐洲戰爭ノ状態ヲ見テ各國ハ何レモ一致團體ノ實相ヲ表明セリト爲スハ早計ナリ或國ハ偶然一致セルコトモアラン然レトモ其各國軍隊ノ結合動作ヲ爲スハ統治權ノ強大ニシテ能ク國民ヲ統合緊結セルニ基クモノナリ若シ統治權ノ劣弱ニシテ統合緊結スルコト能ハサルトキハ假令國民ノ一致結合アリトスルモ之ヲ保持スルコトヲ得サルニ至ルヘクシテ瓦解倒散ノ厄ヲ見ルヤ必セリ彼ノ諸國ニ屢屢勃興シタル革命ニ徴スルニ其一致結合ハ強キモノナレトモ多クハ之ヲ統合緊結スル所ノ強者ナキ爲メ離散霧消セルモノナリ國家亦然リ其軍隊ノ強勢ナルハ統治權ノ強大ニシテ國民ヲ統合緊結セルカ爲ナリ嘗ニ國民ノ一致團體タルノミニ因ルモノニ非ス

美濃部博士(國家學會雜誌第二六卷第八號國家及政體論)ノ說

團體ノ目的

國家ヲ組織スル總テノ人カ共同ノ目的ヲ有スト云フハ必スシモ其總テノ人カ初ヨリ其目的ヲ意識シ之ニ同意シテ其自由意思ニ依リテ其組織ニ加ハルコトヲ意味スルニ非ス國家ヲ組織スル人々ハ或ハ自由意思ニ依リ外國ヨリ歸化セル者アリ或ハ領土併合若クハ割讓ニ伴ヒテ之ニ加ハル者アレトモ其大部分ハ概ネ生レナカラニ國家ノ一員タルモノニシテ其國家ヲ組織スルノ一分子タルコトハ先天的ニ定マレルモノナリ

凡テ團體ニハ其存立ノ目的ナルカヘカラス從ヒテ國家タル團體モ亦其存立目的ノ存スルコトヲ要ス論者多ク國家ハ國民即チ團體員ノ共同生存ノ目的ヲ完成スル爲ニ存在スルモノナリト言ヘリ統治權ハ國家ヲ維持スル爲ニ發現シタルモノナルカ故ニ國家ハ國民即チ團體員ノ共同生存ヲ完成スル爲ニ組織シ存在スルモノナルコト明カナリ然レトモ國民即チ團體員カ凡テ共同生存ノ目的ヲ有シ其目的ヲ完成スル爲ニ國家ノ存在スルモノナリト言フハ事實ニ反スルコトアリ民族ヲ異ニシ種族ヲ異ニシ前國家ヲ異ニシテ生存ヲ共同スルコトヲ好マサル者アルニ拘ハラズ國家ハ國民ノ共同生存ノ目的ヲ達スル爲メノ團體ナリト稱スルハ甚誤レルモノナリ吾人人類ハ天則ニ從ヒテ生活スヘキ本分ヲ有ス天則ハ人類ノ智能ヲ開發



シテ向上シ人類ノ生存ニ必要ナル總般ノ行爲ヲ爲シ遂ケシムルニ在リ吾人カ天則ニ從フテ生活スルハ即チ道理ニ適合シタル生存ナリ道理ニ適合シタル生存ヲ爲スハ即チ人類生存ノ目的ナリ人類カ相互ニ生存ノ完成ヲ競争スルハ人智ヲ開發シテ向上スルモノナルヲ以テ天則ニ從フモノナルカ故ニ道理ニ適合シタル生存手段ナリト謂ハサルヘカラス然レトモ人類ノ生存競争ノ劇烈ニ亘リテ遂ニハ暴虐亂酷天則ニ違反シ他ノ動物ト選フ所ナキニ至ルナリ人類生存ノ目的ヲ達スルニハ暴虐亂酷ヲ防キ天則ヲ厲行スルノ外アルコトナシ余ハ人類ノ遵奉セサルヘカラサル其天則ヲ稱シテ之ヲ道德ト言ヒ道德ノ厲行カ即チ人生ノ目的ヲ完成スルモノニシテ國家ヲ要スル所以ナリト言フ

プラトーン(政治論第三卷)ノ説

國家ハ至高最上ノ善ナリ其故ニ國家ハ正義道德ノ形體ナリト謂フナリ

アリストテレス(政治論第三卷)ノ説

國家ハ道德ヲ完行スルコトヲ目的トシタル人類ノ結合體ナリ

チチエロー(アレンテューリ國家論第一卷第一節)ノ説

國家ハ人間至高ノ德義ニ由リテ創作シタルモノナリ

上杉博士(帝國憲法綱領一頁三頁)ノ説

國家ハ最高ノ道德ナリ道德發展シテ國家ト爲リ國家アリテ道德完タシ

同博士(帝國憲法述義二二頁)ノ説

國家ハ最高ノ道德ニシテ人類ノ道德的性質カ發展シテ最高ノ段階ニ至リタルモノハ即チ國家ナリ國家ニ依リテ

一切ノ道德ハ完成スルモノナリ

市村博士(國家及國民論三頁四頁四頁)ノ説

國家存在ノ理由ハ法律論ニテハ解ケサル問題ナリ法ハ國家ト共ニ生存スルモノ國家以前ニ無ケレハ國家ノ上ニモ

存在セス故ニ國家ヲ法律上ノ制度ナリト考フルハ誤ナリ國家存在ノ理由ハ倫理問題ナリ國家ハ人ナシテ人タラ

シムル唯一ノ條件タルノミナラス又實ニ一國ノ國民ナシテ公民タラシムル唯一ノ條件ナリ

團體ノ組織

國家ハ最強者カ道德ヲ厲行スル爲ニ作リタル戰鬥團體ナルカ故ニ國民ハ其戰鬥團體員トシテ奮勵スルハ其生存ノ目的ヲ達スル必要ナル行爲タルノミナラス道德上ノ本分ニシテ統治上ノ義務ナリ最強者カ道德ヲ厲行スル爲ニ國家ヲ作りタルモノナルカ故ニ其國家ヲ維持スル力ノ及フ領域ニ



於テ其領域ニ在ル無國籍者ヲ自國民ト爲シ統治即チ道德ヲ厲行スルモノナリ斯様ニ國家ヲ論スルトキハ茲ニ始メテ産兒ハ勿論一致結合ノ意思ナキ者離脱背反ノ意思アル者乃至新領民ヲ國民ト爲ス所ノ理由ヲ明カニシ得ルナリ從ヒテ事實上全國民ノ一致結合セサルモノヲ一致團體ナリト強辯スルノ要ナク又一一致團體ハ必スシモ全體員ノ自意投合ヲ要セス大部分ノ一致結合スルヲ以テ足レリト言フカ如ク弱キコトヲ論スルニモ及ハサルナリ要スルニ産兒一致結合ノ意思ナキ者離脱背反ノ意思ヲ有スル者乃至新領民ヲ自國民ト爲スハ國家カ一致團體ニ非サルコトノ確證タルノミナラス團體力ノ行動ニモ非サルコトヲ證スルモノナリ其故ニ國民カ一國家ノ團體員トシテ統治權ノ下ニ在ルトキハ全國民カ共同生存ヲ爲スモノナルコトハ事實ナリ然レトモ全國民カ共同生存ノ目的ヲ有シテ國家ヲ組成シタリト言フハ事實ニ非ス全國民カ斯ル目的ヲ有スルコトヲ要セス又全國民ニ斯ル目的ヲ有スルコトヲ望ムハ不可能ナリ其故ニ國家ハ

國家人格  
ノ由來

共同生存ノ團體ノ一ナレトモ全國民タル全體員ニ共同生存ノ目的ヲ有スルコトヲ要スル團體ナリト言フヘカラス

### 第三項 國家人格論

凡ソ權利ノ主體タルニハ人格ナカルヘカラス國家ヲ以テ統治權ノ主體ナリト論スルニハ國家ヲ以テ人格者ト爲ササルヘカラサルコトトナルナリ果シテ國家ニ人格アリヤ國家ノ人格ハ古代ヨリ之ヲ論シ中世伊太利ニ於ケル國家人格論カ漸次擴張シテ現時ノ國家人格論ヲ成スニ至リタリ

ボイダン(ゲ、マイヤー)獨逸國法論緒論第二章第二節引用國家論ノ說

國家ハ獨立セル人格者ナリ

ホップス(ゲ、マイヤー)獨逸國法論第三號引用國家論ノ說

國家ハ人格者ナリ

クロチユース(國際法論第一卷第三章第七節)ノ說

同論

第二章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體



憲法原論

アルブレヒト(ギョツチンゲン大學一八三七年度學報一四九三頁以下マウレンブレツヘルノ國法學原則ニ對スル  
論評)ノ説

同論

ベルナチツク(公法冊誌第五卷一六九頁以下)ノ説

同論

エリネツク(法律命令論一九二頁以下)ノ説

同論

同氏(公權論總論第三節)ノ説

同論

同氏(一般國家一三二頁)ノ説

同論

ケルバー(國家人格論二二五頁以下)ノ説

同論

ブルンチユリ(國家論第一卷第二節)ノ説

同論

フロイス(市町村國家及帝國一三七頁)ノ説

同論

デルンブルヒ(バンテクテン第一卷一三六頁)ノ説

同論

ラーバンド(國法學第一卷七八頁)ノ説

同論

ゲ、マイヤー(獨逸國法論緒論第二章第二節)ノ説

同論

穂積八束博士(憲法提要四二頁)ノ説

國家ハ法理上ノ觀念ニ於テ人格ヲ具有ス

一木博士(法令豫算論五五頁)ノ説

國家ハ無形人ナリ

美濃部博士(日本國法學四一頁)ノ説

國家ハ法人ナリ

同博士(帝大行政法講義錄)ノ説

同論

同博士(國家學會雜誌第二六卷第九號國家及政體論)ノ説

同論

上杉博士(法學協會雜誌第二九卷第一號國體及政體)ノ説

第二章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體



國家ハ人格ナリ

千賀博士(國際公法要義七三頁)ノ説

同論

立博士(内外論叢第二卷第四號井上博士ノ國家論ヲ讀ム)ノ説

國家ハ恆久的ニ存在スル人格ナリ

市村博士(國家及國民論五〇頁五二頁)ノ説

國家ハ人格ナリ

同博士(帝國憲法論一二頁)ノ説

同論

人格ノ表  
現體

國家ヲ以テ人格ヲ有スルモノナリトセハ國家ハ其人格ヲ表現セサルヘカ  
ラス國家カ其人格ヲ表現スルニハ國家ヲ成ス國民カ其表現體タラサルヘ  
カラス換言スレハ國民ハ國家ノ分子タルカ故ニ一舉一動一心一念國家行  
爲タラサルヘカラス斯ノ如クニシテ國民ヨリ成ル國家ニ人格アリト謂フ  
ヘキナリ

寬博士(國家之研究二五四頁)ノ説

各個人ハ普遍我(國家)ノ表現我タル根據ノ上ニ存在ス表現我トシテハ即チ普遍我ナリ

國家ノ人格ヲ表現スルモノハ國民ニ非スシテ君主ナリト論スル者アリ此  
説ハ表現ニ非スシテ代表ナリ代表ノ何ナリヤハ後ニ説ク所アルヘシ君主  
カ代表者ナルトキハ此説可ナリ然レトモ余ハ君主ヲ以テ代表者ニ非スト  
爲ス者ナリ又君主ヲ以テ國家ナリト爲ス者アリ君主ヲ以テ國家ナリトセ  
ハ國民ヲ以テ國家ノ組成要素ナリトスル説ヲ否定スルニ非サレハ矛盾ナ  
クシテ相容ルルコトヲ得サルモノナリ彼ノルイ第十四世カ朕ハ國家ナリ  
ト言ヒタルハ統治者ナリト言フ意味ニシテ國家代表者ノ意味ニ非スボル  
ンハツクノ君主ハ國家ナリト言ヒタルモ君主國ノ統治者ハ君主ナリト言  
フ意味ヲ表明シタルモノト解スルコトヲ得ル理由アリ君主其人ヲ以テ國  
家ナリト言ヒタルモノニハ非サルヘシ若シ果シテ君主カ國家ナリトセハ  
君主ハ國家ヲ代表スルモノニ非スシテ自己ヲ表現スルモノナリ

ホルンハツク(普國國法論第一卷六四頁六五頁)ノ説



國家ハ統治權ノ主體ナリ然レトモ君主國ニ於ケル統治權ノ主體ハ君主ナリ其故ニ國家ト君主トハ統治權ノ同一主體ナリ

穂積八束博士(憲法提要一九八頁二一三頁)ノ説

國家ノ意思ハ天皇ノ意思ナリ天皇ト國家ハ法理上合同一體ヲ成シテ分離スヘカラス天皇ハ即チ國家ナリ

寛博士(國家之研究一六頁)ノ説

天皇ハ其表現行爲ニ付テハ國家ナリ

上杉博士(帝國憲法述義一八九頁一九三頁)ノ説

我國ニ於テハ國家ハ天皇ナリ天皇ハ國家ナリト言フコトヲ得

岡博士(法學協會雜誌第二九卷第一號國體及政體)ノ説

國家トハ法律上統治權ノ主體タル抽象的人格ナリ此抽象的人格ヲ組織スル實體ハ自然人ナリ之ヲ統治權ノ總攬者ト云フ君主國體トハ一人ヲ以テ國家タル法律上ノ人格ヲ構成スル統治權ノ總攬者ト爲スモノナリ

岡博士(法學協會雜誌第三五卷第一號大學ヲ讀ム)ノ説

天皇ハ國家ナリ

岡博士(第一三版憲法述義三三四頁三三五頁)ノ説

我カ天皇ハ……統治權ノ主體デアリマス統治權ハ天皇ノ權力デアツテ統治權ノ目的ハ全部天皇ノ目的デアリマス此ノ意味ヲ示スカ爲ニ天皇即チ國家ナリト申スコトカ出來マス……我カ國ニ於テ國家ト云フノハ天皇ノ意味デアル

清水博士第一〇版憲法篇二六四頁)ノ説

我カ國ニ於テハ統治權ハ國家ニ歸屬スルト同時ニ天皇ニ歸屬シ國家ト天皇トハ此點ニ於テ相同化シ一アリテ二ナキモノニシテ統治權ノ主體ハ國家即チ天皇ナリトス

仁保博士(京都法學會雜誌第一二卷第一號國體ヲ論ス)ノ説

天皇即チ國家ナリ

人格ノ本質

國家ニ人格アリトセハ人格ノ本質ハ自然人ノ人格タルト法設人ノ人格タルト將タ國家ノ人格タルトヲ問ハス同一道理ノ支配ヲ受クルモノナラサルヘカラス即チ人格ハ統治關係ノ當事者タル資格ノコトニシテ統治者及被治者タル資格ヲ言フモノナリ國家人格ハ國家若シ統治者タルニ於テハ主體タル資格ヲ有シ國家若シ被治者タルニ於テハ客體タル資格ヲ意味スルコトトナルナリ其何レニ在ルニセヨ其人格ハ如何ニシテ之ヲ有スルモノナリヤ國家人格ヲ認ムル論者ハ國家ヲ以テ法律上ノ人格者即チ法律ニ依リテ人格ヲ有スル法人(Juristische Person, Artificial Person, Legal Person)ナリト言ヘリ



ホップス(ゲ、マイヤー)獨逸國法論第三號引用國家論ノ説

國家ハ法律上人格ヲ有スルモノナリ

ホール(國際公法第一編第一章第一節)ノ説

同論

ブルンチユリー(國家論第一卷第二節)ノ説

同論

クロチユース(國際法論第一卷第三章第七節)ノ説

同論

ベルナチツク(公法冊誌第五卷一六九頁以下)ノ説

同論

アルブレヒト(ギョツチンゲン大學一八三七年學報一四九二頁以下マウレンブレツヘルノ國法學原則ニ對スル論

評)ノ説

同論

エリネツク(法律命令論一九二頁)ノ説

同論

同氏(公權論總論第三節)ノ説

同論

同氏(一般國家學一三二頁)ノ説

同論

ゲルバー(國家人格論二二五頁以下)ノ説

同論

同氏(獨逸國法概論附錄二二五頁)ノ説

同論

デルンブルヒ(バンテクテン第一卷一三六頁)ノ説

同論

プロイス(市町村國家及帝國論一三七頁)ノ説

同論

ライバンド(獨逸國法論第一卷七八頁)ノ説

同論

同氏(公法雜誌第一八卷七頁以下論文)ノ説

同論

ゲ、マイヤー(獨逸國法論第三號)ノ説

同論

ステーベル(公法雜誌第一卷第四冊六三七頁)ノ説

同論

第二章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體



憲法原論

國際法上權利義務ノ主體タル人格ヲ認メラレタルモノハ國家ナリ

穂積八束博士(憲法提要四二頁)ノ説

國家ハ法理上ノ觀念ニ於テ人格ヲ具有ス

一木博士(法令豫算論一一頁)ノ説

國家ハ一ノ法人ナリ

美濃部博士(日本國法學四一頁)ノ説

國家ハ一定ノ地域ヲ基礎トスル法人ナリ

同博士(帝大行政講義録)ノ説

國家ハ法人ナリ

同博士(憲法講話一六頁)ノ説

同論

同博士(國家學會雜誌第二六卷第九號國家及政體論)ノ説

同論

上杉博士(法學協會雜誌第二九卷第一號國體及政體)ノ説

國家トハ法律上統治權ノ主體タル抽象的人格ナリ

織田博士(法學通論一〇三頁一五五頁)ノ説

法學上國家ハ法人格ヲ有ス

國家人格  
ノ發因

國家ヲ法律上ノ人格者ナリト論スル者ノ數ハ眞ニ多クシテ算フルニ違ナ  
シ之ヲ大別スレハ天產論アリ法產論アリ又法認論アリト雖モ未タ之ヲ正

同博士(改訂法學通論一〇七頁)ノ説

國家カ個人ノ團體タルコトハ論ヲ俟タサレトモ其團體タルヤ單純ノ集合ニ非スシテ獨立ノ存在ト永遠ノ生命ト  
ヲ保有スヘキ一箇ノ組織體ヲ成スモノナルヲ以テ學理上此事實ニ基ツキ抽象的見解ニ依リテ其法律上ノ人格ヲ  
認メ個人ト相對シテ法律關係ノ上ニ立ツモノトスルハ蓋シ最モ當テ得タリト謂フヘシ

千賀博士(國際公法要義七三頁)ノ説

國家ハ社團法人ナリ

市村博士(國家及國民論五〇頁)ノ説

國家ハ法人ナリ

同博士(帝國憲法論一二頁)ノ説

同論

梅博士(民法原理總則論卷ノ一、一七七頁)ノ説

國家ノ法人タルハ毫モ疑ヲ容レズト信ス

清水博士(第一〇版憲法篇二八頁三二頁)ノ説

國家ハ公法人ナリ



確ニ解答シタル者ノ在ルコトヲ聞カス

穂積八束博士(憲法提要四二頁四三頁三六二頁以下)ノ説

人格トハ法ノ認メテ保護スル自主ノ生存ノ主體タルモノナリ肉體個人ニ人格アルコトト國家ニ人格アルコトトハ其理毫モ異ナルコトナシ二者共ニ自主ノ生存アリ且ツ法上認知保護アレハナリ要スルニ人格ハ抽象的法上ノ觀念ナリ

美濃部博士(帝大行政法講義録)ノ説

國家ハ法律上承認セラレテ法人トナルナリ一個人ハ法律上出生スルト共ニ當然其人格者タルモ國家ハ當然ニ意思力ノ主體タリ目的ノ主體タルコトヲ認メラルルモノニ非ス團體中最モ強固ナルカ故ニ法律上特ニ承認セラレテ法律上ノ人格者トナルナリ

同博士(國家學會雜誌第二六卷第九號國家及政體論)ノ説

法律上ニ於テ人ト云フハ利益ノ主體タリ意思ノ主體タルモノヲ云フ國家ハ一ノ團體トシテ自己ノ目的ヲ有シ自己ノ意思力ヲ有ス國家ヲ法人ナリト云フハ其實在現象カ法律上ニ認識セラレタルニ外ナラサルコトハ尙各個人カ法律上ニ利益ノ主體トシ意思ノ主體トシテ認識セラレタルト異ナルコトナシ

寛博士(國家之研究二二頁二三頁二三五頁二四八頁五九頁)ノ説

普淵我(國家)ハ獨立シタル大我ナリ本來自然ノ人格者ナリ

市村博士(國家及國民論九五頁)ノ説

國家ヲ法人ト言フハ法律カ勝手ニ製造シタル人ト言フ意味ニ非ス國家ニ關スル現象ヨリ抽象シ國家カ國家トシテ權利ヲ有シ義務ヲ負フト言フ事實ヨリ抽象シテ之ヲ法律上ノ人格ト言フナリ

同博士(帝國憲法論二三頁以下)ノ説

人格ハ凡テ法ニ依リテ認メラルルニ至リテ初メテ存在スルモノナリ其故ニ國家ノ人格モ亦法ニ依リテ認メラルルニ至リテ存在スルモノナリ

同博士(行政法原理八頁九頁)ノ説

法人ハ法律ニ依ルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス民法第三十三條ニ斯ク規定セリト論スル者アルモ之ヲ國家ニ適用スルハ不當ナリ現ニ憲法第六十二條同第六十七條其他民法民事訴訟法等各種ノ法規ニ國ヲ法人ト看做セリ之レ國家ノ法人タルコトヲ證スル所以ナリ

國家ノ法人タル効果ハ法認ニ因リテ生シ法認ハ國家自認ナリトスル論者アリ併シナカラ其自認ヲ爲ス手段タル法ハ國家ノ制定シタルモノタラサルヘカラス從ヒテ國家自認ハ國家ノ先ツ存在スルコトヲ思考セサルヘカラス否ラサレハ自認スルコトヲ得サル道理ナリ然ラハ國家カ國家ヲ自認スル迄ノ國家ハ法人タル法律上ノ効果ヲ生セサルモノナリ加之法認ヲ以テ國家人格ノ法律上ノ効果ヲ生スルモノトセハ法認セサル國家ハ其人格



ノ法果ヲ生スルモノニ非ス從ヒテ國家ニシテ自認セサルモノアルトキハ  
 其人格ノ法果ヲ生セサル國家ノ存在スルコトヲ得ルモノト言ハサルヘカ  
 ラス此論結ハ國家人格ノ法理論者ノミナラス法產論者ト雖モ同様ニ歸着  
 スルモノナリ即チ國家ノ法人人格ハ法ニ依リテ附與セラレテ始メテ生ス  
 ルモノトスルトキハ其法ハ國家ノ制定シタルモノナルヲ以テ其法ニ依リ  
 テ人格ヲ附與スル迄ノ間ハ法人人格ヲ有セサル國家ノ存在シタルモノト  
 言ハサルヘカラス從ヒテ古ク國家ノ存在スルモ未タ其法人人格ヲ附與セ  
 サルモノアルトキハ法人人格ヲ有セサル國家ノ現存スル道理ナリ又認知  
 効ハ法學上人格者ノ行爲ニ因リテ生スルモノナリ未タ人格ヲ有セサ  
 ル國家ノ認知行爲ハ法律行爲タラサルヲ以テ認知効ヲ生スルコトナシ

穂積八束博士(憲法提要四二頁)ノ說

國家ハ法ノ認知スル法人ナリ法ノ認知ハ國家自認ノ義ナリ

國家ハ國家前又ハ國家ト同時ニ生シタル法ニ依リテ人格ヲ有スト論スル

者アリ其所謂法ハ自然法ニシテ國家ハ自然法ニ依リテ人格ヲ享有スルコ  
 トトナルナリ余ハ後章ニ於テ論スル如ク法ハ統治者ノ國家統治ノ手段ニ  
 設ケタルモノトスル說ヲ有スル者ナルカ故ニ統治者ノ制定セサル法ナル  
 モノヲ認メス統治者ハ國家ト同時ニ生スルモノナルカ故ニ國家前ニ統治  
 者ノ無キヲ以テ法ヲ制定シ得サルハ勿論國家ト同時ニ生スル統治者カ自  
 己ト同時ニ生スル法ヲ自己ノ制定シ得サルハ當然ノ天理ナリ余ハ此天理  
 ニ基キテ國家ハ國家ト同時ニ生スル法ニ依リテ法人人格ヲ具有スト言フ說  
 ヲ否定ス

美濃部博士(日本國法學三八頁)ノ說

國家ト法トノ關係ハ先ツ國家カ成立シテ然ル後ニ法アルモノニ非ス國家ト法トハ互ニ離ルヘカラサル關係ニ在  
 ルモノニシテ苟モ國家ノ成立スルトキハ法モ亦同時ニ存在ス國家ハ其法ニ依リテ法人タルナリ

リネツク(公權論總論第二節)ノ說

國家ハ凡テノ法規ノ制定者ナリ

鶴澤博士(法律ト道德トノ關係一六六頁)ノ說

第二章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體



法律ハ事實トシテ國家ニ後レテ發生シタル社會力ナリ茲ニ物アリテ則アリ斯ノ如ク法律モ亦國家アリテ然ル後其發生ヲ見タルモノナリ

上杉博士(第一三版憲法述義五四頁一四〇頁)ノ說

國家ノ結合統一ハ法ニ依ルノ結合統一テアル之レ國家ノ法學ノ研究ノ對象タル所以テアリマス……主權者ノ成立ト根本法ノ成立ト國家ノ成立トハ同時ニシテ同シ事テアリマス主權者ノ自定ハ國家根本法ノ確定テアル即チ國家ノ成立テアリマス

國家ノ單一體

國家ハ個個ノ人類ヨリ成ルカ故ニ其人類ノ全體ヲ以テ國家ト爲スヤ又ハ國家ハ個個ノ人類ヨリ成ルモ國家カ成立シタル後ハ個個ノ人類ヨリ離レテ全然別個ノ一體ヲ成スモノナリヤ之レ現時法學界ニ於ケル一大問題ナリ國家ヲ以テ個個ノ人類ヨリ成立スト言ヒナカラ國家ハ其分子タル個個ノ人類ヨリ離レテ獨立ナル單一體トナリテ存在スト爲ス論者アリ國家ハ人類ヨリ成立スルモノトセハ人類ヨリ離レテハ存在スルコトヲ得サル道理ナリ人類ハ多數ノ細胞ヨリ成立スルモノナルカ故ニ其細胞ノ全體カ人類ヲ組成スモノナルヲ以テ人類ハ細胞ヲ離レテ存在スルコトヲ得サルヤ

明カナルコトナリ國家モ之ト同理ニ於テ國家ヲ組成スル分子タル人類ノ全體カ國家ヲ組成スモノナルカ故ニ其組織分子タル人類ヲ離レテ存在シ得サル譯ナリ然ルニ國家ハ國民ヨリ離存スル所ノ單一體タル性質ヲ有スルモノナリト言フハ如何ナル理由ニ基クモノナリヤ國家ヲ單一體ナリト論スル根由ハ國家ハ國民ノ共同生存ノ目的ニ因リテ一致結合シタル團體ナリ團體ハ恰カモ一個人體ノ如ク一體ヲ成スモノナリト言フニ在リテ國家ハ團體ナルカ故ニ單一體ナリト言フニ歸ス國家ヲ單一體ナリトスルハ國家ヲ一致團體ナリトスルニ非サレハ生セサル論結ナリ國家ノ一致團體タラサルヘカラサルモノニ非サルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ一致團體ト雖モ其組成分子タル團體員ヲ離レタル單一體ニ非サルナリ

エリネツク(公權論總論第三節)ノ說

國家ハ人類ノ單一體ナリ一體トハ之ヲ客觀的ニ言ヘハ外界ニ於テハ空間ヲ占メテ分割スヘカラス内界ニ於テハ意思感覺カ意識上ノ唯一不可分ノ作用ヲ爲スモノナリ之ヲ主觀的ニ言ヘハ場所、時間及心理ニ於テ互ニ別在セル數個ノ物ヲ吾人ノ意識上ニ綜合シ一團體ナリトシテ思考スルモノナリ軍隊ハ隊員ノ交迭アルモ永遠ニ同軍



際ト思考シ都市ハ都市ノ住民ノ常ニ生死交替スルモ永遠ニ同一都市ト思考シ河川ハ河水ノ一刻モ留マラスシテ流去ルモ猶同一河川ト思考スルナリ多數人類モ其個個ニハ交替アルモ目的ノ連結ニ依リテ一體トシテ思考シ國家モ國民ノ絶ヘス交替スルニ拘ハラズ永久一體ヲ成セル國家ナリト思考スルナリ

加藤弘之博士(國家之統治權一八頁)ノ説

國家ハ單細胞體ヨリ成リタル吾人ノ複細胞體ノ相集合團結シテ形成セル複細胞體ナリ之ハ實ニ自然物ニシテ吾吾人間ト同一ノ有機體ナリト認メサルヘカラス

美濃部博士(日本國法學六頁七頁)ノ説

國家ハ團體ナリ團體ハ單一體ナリ人ハ多數ノ細胞ヨリ成ルト雖モ細胞ノ集合力即チ人ナルニ非ス其全體ヲ以テ獨立ノ單一體ヲ爲ス如ク國家モ其分子タル多數人類トハ離レテ獨立ナル單一體トシテノ存在ヲ有ス

岡博士(國家學會雜誌第二六卷第八號國家及政體論)ノ説

國家ヲ組織スル多數ノ人間ハ其全體ヲ以テ單一體ヲ成スモノナリ

莫博士(國家之研究二〇七頁二〇八頁二〇九頁)ノ説

國家ハ多數ノ人ト領土ヲ以テ其組織要素トシ其要素ト離ルモノニ非サレトモ之等ヲ統一シタル特殊ノ存在ヲ爲ス自主的普遍我ナリ普遍我トハ本來ノ一心同體ト言フコトナリ詳シク之ヲ言ヘハ時間的及空間的ニ存在スル上下多數ノ各個人ニ普ク存在スル唯一ノ大生命ナリ

立博士(内外論叢第二卷第四號井上博士ノ國家論ヲ讀ム)ノ説

土地人民ヲ有形ノ德國家ノ組織要素ト爲スモノニ非スシテ國家ハ恒久的ニ存在スル人格ナリ

團體ノ單一體ナルコトハ感官ノ認識シ得ルモノニ非ス思想界ニ於テ獨心眼ノ觀テ以テ其存在ヲ知ルモノナリト言フ者アリ一致團體其モノカ其組成分子タル團體員全體ヲ以テ單一體ナリト觀念スルコトハ不可能ノコトニ非ス然レトモ團體カ其組成分子タル團體員ヲ離レテ單一體ヲ成スト言フハ全ク空想ナリ之レ宛カモ靈魂カ吾人ノ肉體ヲ離レテ存在スト言フ説ト同一ニシテ唯物論者ハ勿論唯心論者ト雖モ信仰スル外觀念スルコトヲ得サルモノナリ心眼ヲ以テ觀ルコトヲ得ルニハ心證シ得ルモノナラサルヘカラス心證ハ自己經驗ノ概念ニ依ルニ非サレハ之ヲ得ルモノニ非ス如何ニ心眼ト雖モ心證シ得サルモノハ之ヲ觀ルコトヲ得サルモノナリ心證ナクシテ觀念スルコトヲ得ト言フハ眞理ニ非ス法學ハ眞理ヲ究明スルノ學問ニシテ魔力ヲ有スルコトナシ團體ハ團體員ヲ以テ組織シ團體員ハ團體ヲ組織スル所ノ成體要素ナルヲ以テ團體ト其成體要素タル團體員トヲ取離シテ團體ヲ單一體ト爲シ得ルモノニ非ス雨水ハ點滴ナレトモ其集合



スルトキハ大量トナリテ河海ヲ成ス其水力ハ偉大ナルモノナリ其河海ハ雨滴ト別在シテ單一體ヲ成スモノニ非ス同在スルカ故ニ大團結シテ河海ヲ成シタルモノナリ其偉大ナル水力ハ雨滴ノ水力ノ總和ナリ雨滴ノ水力ハ別ニ存スルモノニ非ス河海ハ雨滴ト別在シテ單一體ヲ成スモノトセハ雨滴ハ何處ニ別在スルヤ又河海ノ水力ハ雨滴ノ水力ト別存活動スルモノトセハ雨滴ノ水力ハ何處ニ存在スルモノト爲スカ此理ハ移シテ以テ人類ノ團體ヲ説明シ得ヘシ元來一致團體ハ所謂意識團體ニシテ心念ノ結合即チ意思ノ投合體ナルカ故ニ意思ト意思トノ連結體ナリ換言スレハ意思ト意思トノ連結ニ因リテ個個ノ人類カ團體ヲ成スモノナリ其故ニ團體員ハ個個ニ別在スル如キモ其意思ノ連結ニ因リテ同在集結セルモノナリ論者多ク此道理ヲ辨セスシテ團體員ノ個在セルヲ以テ團體員ト別在セル單一體ナリト論スルハ迷想ナリ否ラサレハ法學ノ萬能力ヲ夢ミテ無ヲ有ト爲シ得ルモノト信スル者ノ思考スルコトナリ

斯ノ如ク一致團體ハ團體員ノ一致結合即チ意思連結ニ因リテ生シタル人類ノ團體ナルカ故ニ團體員全體カ團體ニシテ團體員全體ヲ離レテ單一體ナルモノノ別在シ得ルモノニ非ス若シ別在スルモノトセハ其成體要素タル人類ハ團體員ニ非ス又團體員タル人類ハ成體要素タルモノニ非ストセサルヘカラス其故ニ國家ハ假リニ一致團體ナリトスルモ一致團體ハ團體ノ分子タル各員ヨリ離レタル單一體ニ非サルヲ以テ國家モ亦單一體トシテ國民ヲ離レテ別在スルモノニ非ス況ンヤ國家ハ一致團體ニ非スシテ強制團體ナルカ故ニ論者ノ論法ヲ以テスルトキハ團體員ノ共同目的ナルモノヲ存セサルニ因リ單一體ヲ結成スルモノニ非ス從ヒテ團體員タル國民ヲ離レテ別在スルコトヲ夢想スルニ詮ナシ

ローレン(國體法論四八頁)ノ說

團體ハ結合シタル多數ノ共同目的及共同意思カ單一ナル人格ノ目的及意思トシテ表現スルモノナリ

エリホック(組織論二五六頁二五七頁)ノ說

法人ノ共同意思カ法人ノ中心ヨリ發現スルモノナルトキハ其法人ハ團體ナリ



同氏(公權論總論第三節)ノ説

共同目的ヲ共同力ニ依リテ遂行スル多數ノ人類ヲ單一體ト思考スルト同一ノ思考ハ國家ノ單一體タルコトヲ認メサルヲ得サルヤ當然ノ結果ナリ

ギルケー(獨逸私法論第一卷四七〇頁四七一頁)ノ説

官能ニ依リテ認識シ得ルモノハ唯肉眼ニ映スル人類ナリ實力ニ依リテ來ルヘキ個人並ニ社會生活ノ中心ハ內的經驗ニ依リテ鍊磨シタル心眼ニ於テ始メテ達觀シ得ルナリ即チ官能ヲ超越シタル單一體ヲ並列配置シテ一面ニ孤立方法ニ依リ各人カ自己ノ存在ヲ根據トシテ立チタル單一體ヲ認メ他面ニハ集合方法ニ依リテ多數人類カ共同存在トシテ行動スル單一體ヲ識リ以テ本體ノ概念ニ到達シテ個人人格及團體人格ノ法境ノ區別ヲ爲シ得ルモノナリ

美濃部博士(太陽第一九卷第六號近時ノ政界ニ於ケル憲法問題)ノ説

元來國家ハ目ニ見フル具體的實體ヲ有スルモノニ非ス

同博士(國家學會雜誌第二六卷第八號國家及政體論)ノ説

國家ノ單一體ナル所以ハ實ニ共同ノ目的ヲ有スルニ在リ

國家ノ單一體説ハ國家ハ單一體ナルカ故ニ人格ヲ有ス人格ヲ有スルカ故ニ統治權ノ主體タルコトヲ得又國家ハ其組成分子タル國民ヨリ離レテ單一體タル人格者ナルカ故ニ國家ヲ統治スルコトヲ得ト言フニ在リ然レト

モ國家ハ決シテ其組成分子タル國民ヨリ離レテ別在スルモノニ非ス假令國家カ其組成分子タル國民ヨリ離レテ單一體ト爲ルモノナリトスルモ單一體ナルカ故ニ人格ヲ有スト言フ論據アルコトナシ

ザイデル(一般國家論七頁四一頁)ノ説

國家ハ人格ヲ有セス故ニ法人ニ非ス

同氏(巴國國法論第一卷三五二頁以下)ノ説

同論

同氏(獨逸帝國年報一八七六號六四一頁)ノ説

同論

レーム(獨逸帝國年報一一八五年七八頁)ノ説

同論

エ、マイヤー(獨逸帝國年報一八八八年五五〇頁以下)ノ説

同論

上杉博士(第一三版憲法述義三七四頁)ノ説

國家ト云フ法律上ノ人アリト云フハ結局假構ノ思想テアル



余カ國家ヲ以テ人格者ニ非ス法人ニ非スト爲スハ統治權ノ主體タル人格者ニ非ス法人ニ非スト言フニ在リテ如何ナル場合ニ於テモ人格ヲ有セスト言フニハアラス統治者カ國家統治ノ必要上各種ノ法人ヲ設ケテ行爲又ハ財産ノ主體タラシムルコトアルト同一理由ニ因リ國家ニ人格ヲ附與シテ行爲又ハ財産ノ主體タラシムルコトヲ得ルナリ其故ニ此意味ニ於ケル國家法人ハ公法私法ノ當事者トナルモノニシテ法人格維持權ヲ有シ其公法ノ當事者トナル場合ニハ統治者ニ對シテ統治行爲ヲ要求シ又服從ノ義務ヲ負ヒ其私法ノ當事者トシテハ自然人又ハ他ノ法人ト相伍シテ私法行爲ヲ爲シ得ルモノナリ統治者ハ統治行爲ノ外ニ爲スコトナキナリ統治者ハ公人ニシテ私人タルコトナシ統治行爲ハ公事ニシテ私事タルコトナシ統治者ハ統治行爲ヲ爲シテ私事ヲ爲スコトナシ國家法人ハ統治者ニ非サルカ故ニ私事ヲ爲スコトアルモ統治行爲ヲ爲スコトナシ其人格ハ自然人人格及他ノ法人人格ト同シク個人人格タリ各國ノ憲法ニ於テ統治權行使

ノ豫算ヲ國家ノ豫算ト爲シ徵稅權ヲ國家ノ權利ト爲シ又其他ノ公法及私法ニ於テ國家ヲ公法行爲及私法行爲ノ當事者ト爲シ又國家ヲ財產權ノ主體ト爲シ又國家ヲ訴訟ノ當事者ト爲ス所ノ規定ヲ存シ恰カモ統治者トシテ斯ノ如キ規定ヲ設ケタル感ヲ起サシメ又立案者ハ其意ヲ以テ規定シタルモノアルヘキヲ以テ然カ解釋スル者モアレトモ大ナル誤ナリ其規定中統治權ノ行使ニ關スルモノハ假令國家ナル文字ヲ存スルモ之ヲ統治者ト約讀スヘク其被治者ニ關スルモノハ被治者タル國家法人ト約讀セサルヘカラス否ラサレハ不道理ヲ極メタル論結ヲ生スヘシ

#### 第四項 國家ノ組織要素

國家ハ統治權ノ及フ範域内ニ基在セル人類ヲ以テ統合シタル一體即チ強制團體ナリ其故ニ(一)國家ノ建設者ハ社會ノ強者タリ(二)國家ハ強者カ統治ノ目的ヲ以テ建設シタルモノナリ(三)國家ハ強者カ統治スル所ノ目的タル



人類ノ統合體ナリ(四)國家ハ強者カ強力ヲ以テ緊結シタル統合體ナリ(五)國家ハ統治セラルル人類ノ全體ニシテ土地ハ國家ヲ成スモノニ非ス統治ノ本據タル場所ナリ其故ニ國家ノ組成要素ハ強者ノ統合シタル人類ノミナリ(六)國家ハ人類ノ團體ナリ何レノ主體國ニ於テモ法人ハ人類ニ非サルヲ以テ國民ニ非ス從ヒテ國家ノ組織要素タルコトナシ

ホーガン(ゲ、マイヤー)獨逸國家論第一號引照國家論ノ説

最高權ハ國家成立ノ要素ナリ

ギルケー(國家學會雜誌三〇四頁)ノ説

主權ハ國家ノ成立要素ナリ

ザイデル(獨逸帝國憲法註釋二頁)ノ説

同論

ウイツ(政治學原論四四頁)ノ説

同論

アルンチユリー(國家論五六頁)ノ説

同論

ケルバー(獨逸國法概論第八節)ノ説

同論

ツアハリエー(獨逸國法及聯邦法論第一卷第一二節)ノ説

同論

ツオレン(獨逸國法論第一卷六三頁)ノ説

同論

ホルンハツク(國家學九頁一〇頁)ノ説

同論

トライチケー(聯邦及帝國論五二六頁)ノ説

同論

ツエブル(國法學第一卷第八節)ノ説

同論

ヘーネル(獨逸國法論第一卷九六頁)ノ説

國家構成ノ要素ハ機關ト國民ナリ

伊藤公(帝國憲法義解四頁)ノ説

土地ト人民トハ國ノ以テ成立スル所ノ元質ナリ

穂積八束博士(憲法提要一〇頁一一頁)ノ説

第二章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體



- 國家構成要素ハ一定ノ民族、一定ノ領土及獨立ノ主權ノ三トス  
 美濃部博士(日本國法學一三頁)ノ說  
 國家ハ國民、領土及統治權ノ三要素ヨリ成立ス  
 笈博士(國家之研究三頁三〇頁以下二〇七頁二一〇頁二四三頁二五一頁二五二頁二六四頁)ノ說  
 國家ハ多數ノ人ト領土ヲ其組織要素トス  
 上杉博士(憲法述義五七頁二二二頁二三二頁)ノ說  
 主權、領土及臣民ハ國家存立ノ缺クヘカフサル要素ナリ  
 同博士(第一三版憲法述義一三七頁)ノ說  
 主權者ト臣民ト領土トハ國家構成ノ要素デアリマス  
 織田博士(法學通論一〇〇頁一〇一頁)ノ說  
 國家成立ノ要素ハ人類、一定ノ土地及統治權ノ三ナリ  
 小野塚博士(法學協會雜誌第二一卷第五號六三二頁)ノ說  
 土地ト人類トハ國家形成ノ要素ナリ  
 立博士(平時國際公法二四頁)ノ說  
 國家タルニハ一定ノ領土、一定ノ人民及主權ノ三要素ヲ有スルコトヲ要ス  
 市村博士(憲法要論一一七頁)ノ說  
 我帝國ハ天皇ト臣民ト一定ノ領土トヨリ成ルモノナリ

成立要素  
組織要素

- 同博士(國家及國民論四八頁)ノ說  
 國家ノ要素ハ一定ノ領土、多數ノ人類及統治關係ノ三ナリ  
 清水博士(憲法篇一一九頁)ノ說  
 國家ハ權力者、土地及人民ヨリ成立ス  
 同博士(第一〇版憲法篇三〇頁)ノ說  
 國家ハ人民土地及統治權ノ三者カ不可分のニ結合シタル統一の團體ナリ  
 高橋博士(平時國際法論二六五頁)ノ說  
 國家成立要素ハ人民、版圖及主權ノ三ナリ  
 遠藤博士(明大平時國際法論講義錄一二四頁)ノ說  
 國家ハ一定ノ領域ヲ其成立要素ト爲ス  
 井上博士(内外論叢第二卷附錄憲法講義要錄二八頁)ノ說  
 國家ノ要素ハ一定ノ土地、複數人類及統治權ナリ  
 凡ソ要素ナルモノハ成立要素ト成體(組織)要素トノニアリ魚ノ成立スルニ  
 ハ河海モ必要ナル原素ナレトモ河海ハ魚體ヲ組成スル要素即チ成體要素  
 ニ非ス人ノ成立スルニハ土地ノ存在スルコトヲ要素トスレトモ土地ハ人  
 體ヲ組成スル要素即チ成體要素ニ非ス斯ノ如ク成立ニ必要ナル原素ハ必



スシモ成體要素タルモノニ非ス余カ茲ニ國家ノ要素ヲ論スルモノハ成立要素ニ非スシテ成體要素ノコトナリ國家ノ要素ヲ論スル者カ兎角此區別ヲ爲ササルコトノアルモ亦其誤ヲ招ク原因ノ一タルヘシ(一)多クノ學者ハ土地ヲ以テ國家ノ要素トスレトモ土地ハ國家ノ成立存在ニ必要ナルコト吾人人類ノ生存ニ土地ヲ必要トシ魚類ノ生存ニ河海ヲ必要トスルト同シキモノナリ然レトモ土地ハ國家ヲ組成スルモノニ非ス前ニ一言シタル如ク土地ハ強者カ道德厲行即チ統治ヲ爲ス本據タル場所ナリ昔時ハ土地ヲ以テ國ト稱シタルモノナレトモ法學ノ智識ノ發達ニ伴ヒテ其誤ナルコトヲ覺知シ土地ヲ以テ國家ノ成體要素ト爲スハ進歩シタル法學ノ認メサル所ナリ(二)一定ノ民族ヲ以テ國家ノ成體要素ト爲ス者少カラスト雖モ其ハ原始時代ニ於ケル國家狀態ノ觀察論ニシテ現時ノ國家ニハ一定ノ民族ヲ以テ國家ヲ組成セルモノ殆ントアルコトナシ日本ノ如キモ多少ノ歸化外國人アルノミナラス臺灣ヲ獲得シ朝鮮ヲ領有シタル爲メ千數百萬人ノ他

民族ヲ混容セリ此ニ於テ一定ノ民族ヲ以テ國家ノ要素トスル論者ハ民族ヲ異ニスル國家若クハ國民ヲ併領スルコトヲ得サル論結ニ陥ルヲ以テ同化説ヲ唱ヘテ其ノ説ノ謬點ヲ補正セントスルモ同化説ヲ唱フルニ於テハ國家ノ要素ニ民族ヲ一定スルノ要ナキノミナラス却テ其甚不可ナルヲ覺フルナリ(三)統治機關ヲ以テ國家ノ要素ト爲ス者アレトモ統治機關ハ國家統治ニ必要ナルノミニシテ國家ノ成體要素タルモノニ非ス(四)統治者、統治權、領土又ハ國民等ヲ以テ國家ノ成體要素ト爲ス者アレトモ統治者、統治權、領土又ハ國民等ハ國家ヲ組成スルモノニ非ス國家ヲ組成スルトキハ國家ト共ニ生スル所ノモノナリ即チ其統治者ト言フハ國家前ニ在リテハ強者ニシテ國家ノ成立ト共ニ統治者トナルモノナリ統治權モ國家前ニ在リテハ強力ニシテ國家ノ成立ト共ニ統治權トナルモノナリ領土及國民モ國家前ニ在リテハ土地及人類ニシテ國家ノ成立ト共ニ領土及國民トナルモノナリ其故ニ統治者、統治權、領土又ハ國民等ヲ以テ國家ノ成體要素ト爲スハ



誤ナリ

寛博士(國家之研究二二三頁)ノ説

新附ノ人民ノ如キ者モ客觀論トシテ漸次ニ同化セラレツツアルモノニシテ健全ナル普遍我(國家)ノ當然ナル擴張ノ途行ニ外ナラス

成體要素タルモノハ構成シテ一體ヲ成スモノナラサルヘカラス又其組織前ニ於テ現存スルモノナラサルヘカラス又成體シタルトキハ之ヲ分解シテ歸元スルモノナラサルヘカラス例ヘハ水ハ酸素ト水素トノ化成分物ナリ其化成前ニ於テハ酸素ト水素トナリ其化成後水ヲ分解スレハ酸素ト水素トニ歸元スルモノナリ國家ノ成體要素モ國家ノ組成前ニ現存シ分解シテ歸元スルモノナラサルヘカラス國家前ニ存在セス分解シテ歸元セサル統治者統治權領土又ハ國民ハ國家ノ成體要素タルコトナシ既ニ屢屢論シタル如ク國家ハ人類ノ統合體即チ團體ナリ又殆ント何人モ國家ヲ團體ナリト言ハサル者ナキカ如シ國家ノ團體ナルコトヲ認ムル以上ハ團體ハ人類

ノ成團ナルコトヲ否定シ得サルヘシ團體ヲ以テ人類ノ成團ナルコトヲ否定シ得サル以上ハ國家ハ人類ノ團體ナルコトヲ認メサルヘカラス道理ナリ國家ヲ以テ人類ノ團體ト爲ス以上ハ國家ハ人類ヨリ組成スルモノニシテ國家ノ成體要素ハ人類ナリ然モ人類ハ唯一ノ成體要素ナリト言ハサルヘカラス然ルニ國家ヲ以テ人類ノ團體ナリト論シナカラ他ノ異物ヲ以テ國家ヲ混成セントスルハ國家團體ヲ否認スルモノシニテ矛盾ノ極ナリ

・ エリネツク(公權論總論第三節)ノ説

國家ハ國家ト稱スル人類團體ノ形體ナリ即チ一定ノ領土ニ定住シ統一ノ權力ニヨリ支配セララルル國民ナリ

オ、マイヤー(獨逸行政法第一卷第一章)ノ説

國家ハ國權ノ下ニ國民ヲ結合セル團體ナリ

ク、マイヤー(獨逸國法論緒論第二章第一節)ノ説

國家ハ一定ノ領土ヲ基礎トスル人ノ共同團體ナリ

穂積八束博士(憲法提要三五頁五五六頁)ノ説

自然個人ハ法ノ構成單位ナリ國家ハ團體ナリ法ノ單位ノ合衆シテ更ニ個人以上ニ複雜ナル組織體ヲ成スモノナリ

美濃部博士(日本國法學六頁)ノ説

第二章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體



憲法原論

- 國家ハ多數人類ノ集合ヨリ成ル一ノ團體ナリ
- 同博士(帝大行政法講義録)ノ説
- 國家トハ土地ヲ基礎トスル人類團體ナリ
- 同博士(憲法講話二頁)ノ説
- 國家ハ團體ナリ團體トハ共同ノ目的ヲ以テスル多數人ノ結合ナリ
- 同博士(國家學會雜誌第二六卷第八號國家及政體論)ノ説
- 國家ハ共同目的ヲ有スル多數人ノ結合體ナルカ故ニ一ノ團體ナリ
- 上杉博士(帝國憲法述義二二頁)ノ説
- 國家トハ一定ノ土地ヲ限リ一定ノ主權ノ下ニ一定ノ多數ノ人類カ形成スル所ノ團體ナリ
- 同博士(我が國第一六二號我カ立憲ノ精神)ノ説
- 大日本帝國ハ天皇ノ主權ノ下ニ於ケル日本國民ノ團體ナリ
- 同博士(第一三版憲法述義一頁)ノ説
- 國家トハ一定ノ多數ノ人類カ一定ノ土地ニ據在シ一定ノ主權ニ依リテ統治セララルル團體デアリマス
- 市村博士(國家及國民論四六頁四八頁二七五頁二八三頁)ノ説
- 國家ハ國民ヨリ成立シタル團體ナリ
- 同博士(帝國憲法論七頁)ノ説
- 國家ハ人類ノ團體ナリ

遠藤博士(國際公法要論五七頁)ノ説

國家トハ一定ノ領域ニ居住シ最高主權ノ下ニ統率セラレタル人類ノ政治的團體ナリ

同博士(明大平時國際法編講義録三六頁)ノ説

同論

編田博士(法學通論一〇〇頁)ノ説

國家トハ一定ノ土地ニ於テ統治組織ヲ有スル人類ノ團體ナリ

同博士(改訂法學通論一〇四頁)ノ説

同論

清水博士(憲法篇四五頁)ノ説

國家トハ一定ノ土地ノ上ニ統治的ニ組織セラレタル人民ノ團體ナリ

同博士(第一〇版憲法篇三頁)

國家トハ一定ノ土地ニ定着シ而カモ固有ノ統治權ニ依リ結合セラレタル人民ノ團體ヲ指稱ス

國家ハ人類ヲ以テ其成體要素ト爲スモノナレトモ其成體要素トナルモノハ強者ノ力ニ因リテ緊結シタル所ノ人類ナリ從ヒテ緊結セラレサル人類ハ假令其統治ノ領域ニ在リト雖モ成體要素トナルコトナシ其緊結セラレ



タル人類全體即チ統合體カ國家ナルヲ以テ其統合體タル國家ヲ成ス所ノ其分子ハ即チ國民ナリ換言スレハ國家ハ國民ノ總額タル一體ナルカ故ニ國家ト國民國民ト國家ハ緊結一體ニシテ離在獨存スルコトヲ得ルモノニ非ス其統合體ヲ以テ國民ヨリ離在獨存スル單一體ナリトスル說ハ國家ハ人類ヲ以テ國家ノ分子即チ國家ノ成體要素ト爲ス說ヲ否定スルニ非サレハ矛盾ナク成立スルコトヲ得サルモノナリ何トナレハ一定ノ人類ヲ緊結シテ統合シタル一體即チ其緊結セラレタル國民ノ全體ヲ以テ國家ト爲ストキハ人類ハ國家ノ成體要素タルモノナレトモ國家ヲ以テ國民ト離在獨存セル單一體ナリト爲ストキハ人類ハ國家ニ何等因縁ナキヲ以テ國家ノ成體要素ナリト言フコトヲ得サレハナリ國素ハ人類ヨリ組成スルモ組成後ハ單一體トナリテ國民ト離在獨存スルモノナリト言フハ恰カモ人類ヲ以テ家屋建築ニ於ケル足場材ノ如クニ思考シ家屋ノ落成シタルトキハ足場材ノ不用ニ歸スルモノナル如ク人類ハ國家建立ノ足場材タルモノナレ

ハ國家建立後ハ不用ノ長物ナリトスルニ在リ抑モ法學ハ法學化シ得ル實在現象ニ就キ宇宙ニ天存スル眞理ヲ究明スルニ在リ團體ハ一致團體ナルニ於テハ其團體員タル人類相互ノ意思ノ連結ニ因リテ關係セル全人類ヲ結合シテ團體ヲ成シ強制團體ナルニ於テハ強力ヲ以テ關係セル全人類ヲ緊結シテ團體ト爲スモノナルカ故ニ團體ナルモノハ意思又ハ強力ニ因リテ結合シタル人類ノ全體ナルコト明カニシテ其結合セル關係人類ノ合體カ實在セル現象ナリ法學ハ此實在現象ニ就キ宇宙ニ存在スル天理ヲ論究スルモノナリ人類ヲ以テ國家ノ成體要素ト爲シナカラ其要素ニ因リテ成體シタル國家カ單一體トナリ其成體要素タル國民ト離レテ獨存シ宇宙ニ漂在スト言フカ如キハ架空ノ想作ニシテ實在セル現象ニ非サルヲ以テ法學化セサルモノナルカ故ニ法學ノ論題タルコトヲ得サルモノナリ試ミニ例ヲ設ケテ論者ノ一考ヲ乞ハンニ巨巖ヲ運送スルノ目的ヲ以テ壯丁十人力ヲ合セテ其目的ヲ遂行スル者アリトセヨ其壯丁十人ハ共同目的ノ爲ニ結



合シタル一致團體ナリ其巨巖ヲ運送シタル者ハ壯丁十人ノ全體ニ非スシテ其壯丁ト離在獨存セル無形ノ單一體ナリトセンカ法學ニテハ解ク能ハサル問題ナリ

斯ノ如ク國家ハ團體ニシテ團體員ナル人類ヲ以テ組成シタルモノナルカ故ニ國家ハ其成體要素ト離レテ存在スルコトヲ得ルモノニ非ス其團體員タル國民ノ合同力カ國家力タルモノナリ統治權ハ此合同力ナル國家力ヲ養成シ之ヲ行用シテ内外統治ヲ爲スモノナリ

國家ト國民トヲ離在獨存セシムルトキハ國家ノ利益ト國民ノ利益トハ之ヲ別個ニ算定スヘシ國家ト國民トヲ同在一體トセハ國家ノ利益ハ國民ノ利益ナリ國家ノ利益ト國民ノ利益トハ同一ニシテ二アルコトノナキハ國家存在ノ理由ノ當然ナル道理ナリ

一本博士(法令豫算論二頁)ノ說

國家ハ人民ニ賴テ生存シ人民ハ國家ニ賴テ生存ス國家ノ利益ト人民ノ利益トハ結局ニ於テ二アルコトナシ

國民ト團體員

國家ハ人類ヲ統合シタル團體ニシテ其團體員ハ凡テ之ヲ國民ト言フナリ換言スレハ國民ハ凡テ國家ナル團體ノ分子ナリ從ヒテ國民ニシテ國家團體員ニ非サル者ナシ其故ニ國民ニ團體員ト非團體員トノ區別アルコトナシ

市村博士(國家及國民論二八三頁二八四頁)ノ說

國家ハ國民ヨリ成立シタル團體ナリ國民ニ團體員ト非團體員アリ參政権ヲ有スル者ハ團體員ニシテ參政権ヲ有セサル者ハ非團體員ナリ朝鮮臺灣ハ團體員ナキヲ以テ帝國ノ構成分子ニ非ス然ルニ我政府力之ヲ憲法ノ治下ニ在ルモノト解スルハ不明ナリ

第五項 國家ノ定義

國家ハ人類ヲ以テ組成シタル團體ナリ然レトモ一致團體ニ非スシテ強制團體ナリ其何レノ團體ナリトスルモ單一體トシテ團體ノ組成分子タル國民外ニ別在獨存スルモノニ非ス假ニ單一體トシテ別在獨存スルモノトスルモ統治權ノ主體タル人格ヲ有スルモノニ非ス國家ニ國家力ヲ存スルモ



國家力ハ統治權ニ非ス統治權ニ依リテ行用セラルルモノナリ然ラハ余ノ見ル所ノ國家ハ如何ナル意義ノモノナリヤト言フニ余ハ左ノ如ク定義スヘシ

國家トハ一定ノ土地ニ基在シ統治ノ目的タル人類ノ統合體ナリ

### 第六項 國家力ノ主體ト統治權ノ主體

統治權ハ既ニ屢屢論述シタル如ク國家ヲ維持スル所ノ力ナルカ故ニ國內ニ對シテハ支配權タリ國外ニ對シテハ對抗權タルモノナリ國民カ統治權ニ依リテ支配セラルルモノナル以上ハ支配ハ對人行爲ナルコトノ明カナルヲ以テ支配者ノ別存スルモノナルコトハ當然ノ道理ナリ若シ強ヒテ國家ナル團體ヲ以テ統治權ノ主體ナリトセハ國家ハ人類ヨリ組成セルモノナルヲ以テ其主體モ亦人類ヨリ組成セルモノナルカ故ニ國家ノ分子タル國民ハ亦統治權ノ主體タル分子ナリト言ハサルヘカラサル結果ニ到着ス

ルモノナリ想フニ國家主體論者ハ團體力即チ國家力ト統治權トヲ混同セルモノナルヘシ國家力ハ既ニ論シタル如ク團體員即チ國民ノ生存力ノ總和タル合同力ナリ國家力ノ強大ナルコトハ對外競争行爲ニ必要ニシテ對內生存行爲ヲ完成スルモノナルカ故ニ國家存在ノ目的ヲ達成スルニ缺クヘカラサルモノナレトモ統治權ニ非ス統治權ハ國家力ヲ養成シ之ヲ行用スル所ノ力ニシテ國家力ノ強大ナルニ至ルハ統治權ノ行動ノ良シキニ適スルカ爲ナリ斯ノ如ク國家力ト統治權トハ全然別物ナルニ拘ハラス之ヲ混同シ國家力ヲ以テ統治權ト爲シ統治權ノ主體ハ國家ナリト言ヘリ國家力ヲ以テ統治權ナリトセハ國家ヲ以テ統治權ノ主體ナリトスル論ハ眞ニ其當ヲ得タルモノナレトモ統治權ハ國家力ニ非サルモノナルカ故ニ國家ヲ以テ統治權ノ主體ト爲スハ實ニ甚シキ謬說ナリ

### 第七項 國家主體說否定



統治ハ人格關係ニシテ對人行爲ナルカ故ニ統治者ト被治者トハ別體タラサルヘカラス國家ハ國民ノ團體ニシテ國民ハ被治者タルモノナリ國民ハ被治者タルモノナルカ故ニ其被治者タル國民ノ集團セル國家カ統治者タルコトヲ得ル道理ナシ從ヒテ國家カ統治權ノ主體タルコトヲ得ル道理ナシ統治權ハ統治權ノ內生存有スル所ノ實體ニ存在スルモノナリ國家ハ被治者タル國民ノ集團ナルカ故ニ統治權ノ內生存有スル所ノ實體タルコトヲ得ルモノニ非ス統治權ハ權利ナルカ故ニ其主體タル實體ハ人格者ナラサルヘカラス國家ハ人格ヲ有セス又人格ヲ有スルコトノ不可能ナルモノナルカ故ニ統治權ノ主體タルコトヲ得ルモノニ非ス

ザイアル(一般國家論七頁四一頁)ノ說

國家ハ人格ヲ有セサルカ故ニ統治權ノ主體タルコトヲ得ルモノニ非ス

同氏(巴國國法論三五二頁以下)ノ說

國家ハ人格者ニ非サルヲ以テ統治權ノ主體タルコトナシ

同氏(獨逸帝國一八七六年報六四一頁)ノ說

同論

レーム(獨逸帝國一一八五年報七八頁)ノ說

同論

ホルンハック(普國國法論第一卷第一二八頁)ノ說

國家ハ統治權ノ主體タルモノニ非ス

エ、マイヤー(一八八八年報五五〇頁以下)ノ說

同論

#### 第四款 君主主體

##### 第一項 概論

前來度論シタル如ク統治權ハ強者カ人類生存ノ天則タル道德ヲ履行スル所ノ生存力ニシテ國家ヲ維持スル強力ナリ其國家團體員タル國民ハ其統治權ニ依リテ道德遵守即チ統治行爲ニ依ル支配ヲ受クルモノナルカ故ニ支配即チ統治行爲ヲ爲ス所ノ強者ナカルヘカラス換言スレハ道德ヲ屬



行スル者即チ統治者ト道德ノ厲行ヲ受クル者即チ被治者トノ對立スルモノナカルヘカラス其統治者ト被治者トノ關係カ統治關係ナリ統治關係ハ對内關係ニ在リテハ支配ト服従トノ關係ナリ其支配ヲ爲スハ統治權ノ表現ニシテ強力ノ行用ナリ其強力ノ内生シ其強力ノ存有スル所ノ本體カ統治者ニシテ即チ統治權ノ主體タリ余カ前ニモ論シタル宇宙諸多ノ力ニ本體アルト同理ニ因リテ統治權ナル力ニモ本體アルナリ其本體ハ統治權ノ内生シ存有スル所ノ實體ナラサルヘカラス然モ治者トナリテ統治スル所ノ人格者ナラサルヘカラス國家ハ統治權ヲ内生シ存有スルコトヲ得ル實體タルモノニ非ス又人格者ニ非サルヲ以テ統治權ノ主體タルコトヲ得ルモノニ非ス神モ亦人格者ニ非サルヲ以テ統治權ノ主體タルコトナシ國民ハ被治者タルモノニシテ統治權ノ主體タルモノニ非ス其故ニ統治權ノ主體タルコトヲ得ル者ハ人類中ノ最強者ニシテ統治ノ實力カ内生存有スル所ノ人類タラサルヘカラス即チ事實上眞ニ道德ヲ厲行スル所ノ統治力ヲ

有スル者ナラサルヘカラス其統治ノ實力ヲ有スル者ハ或ハ一人タルコトアリ或ハ數人タルコトアリ其一人ノ力ヲ以テ國家ヲ統治スルモノナルトキハ之ヲ君主主體 (Monarchy, Monarchie) ト稱シ其數人ノ力ヲ合セテ國家ヲ統治スルモノナルトキハ之ヲ貴族主體 (Aristocracy, Aristokratie) ト稱ス統治權ハ統治者ノ繼承者ヲ選定シ得ル權利ヲ有スル者ニ屬スト論スル者アリ統治者ノ繼承者ヲ選定スル行爲ハ統治權ノ行使ナルヲ以テ統治者ニ非サレハ之ヲ爲シ得サルハ當然ノコトナリ乍併主體ハ選定ニ因リテ生スルモノニ非ス

マリオット(英國憲法政治論第一章)ノ說

主權ハ實際ニ於テ主權主體ノ繼承者ヲ選定シ得ル權利ヲ有スル者ニ屬ス

## 第二項 君主ノ意義

君主ハ統治ノ實力ヲ有スルモノナリ統治ノ實力ヲ有スルモノナルカ故ニ



君主ト言フナリ君主 (Monarch) ナル語ハ統治者 (Herrscher, Sovereign) ト言フ義ナリ Herrscher, Sovereign (統治者) ナル語ハ monarch (君主) ナル義ナリ其故ニ君主トハ統治者ト言フコトナリ余ハ茲ニ君主ヲ以テ統治權ノ主體トスルハ君主カ統治權ヲ有スト爲スカ爲ナリ人類生存ノ天則タル道德ヲ履行スル力即チ國家ヲ維持スル所ノ力カ君主ニ生シ君主カ之ヲ有シ君主カ之ヲ行フモノナルコトヲ認ムルニ因リ君主ヲ以テ統治權ノ主體ト爲シタルモノナリ其故ニ假令君主ノ名稱ヲ有スルモ其實統治權ヲ有スルモノニ非サルトキハ君主ニ非ス之ニ反シテ君主ノ名稱ヲ有セサルモ其實統治權ヲ有スルモノナルトキハ君主タリ曩ノ支那ニ於ケル袁世凱ハ大總統ノ名稱ヲ有スルニ過キサレトモ其實ハ統治權ヲ有シタルノ状態ニ在リタルヲ以テ余ハ袁世凱ヲ君主タリシ者ト爲シ當時ノ支那國體ヲ君主主體ナリト言ハントス各國ニ皇帝ト稱シ王ト稱シ又ハ侯ト稱スル者少カラスト雖モ其皇帝ト稱シ王ト稱シ又ハ侯ト稱スル者カ凡テ君主ナリト言フコトヲ得ストスルハ迂ナリ

ザイデル(一般國家論四頁、七頁、四一頁)ノ説

君主ハ統治權ノ主體ナリ

岡氏(巴國憲法論第一卷一七〇頁三五二頁以下)ノ説

同論

岡氏(一八七八年獨逸帝國年報六四一頁)ノ説

同論

リソグ(一般國家論實驗的研究一四頁)ノ説

同論

レーム(一八八五年獨逸帝國年報七八頁)ノ説

同論

第二章 統治權ノ主體 第二節 主體ノ實體



エ、マイヤー（一八八八年報五五〇頁以下）ノ説  
同論

### 第三項 君主ト公人

統治ハ天下ノ公事ナルヲ以テ統治者タル君主ハ公人ナリ自然人ハ皆私人格ヲ有ス君主ヲ組成スル實體モ亦自然人タリ自然人タル以上ハ個人ナリ私人格ヲ有スルモノナリ其自然人カ君主ヲ組成スルトキハ自然人タル天質ヲ沒滅スト言フ理アルコトナシ統治ハ公事ナレトモ君主タル人ノ行爲ハ統治行爲タルト否ヲ問ハス總テ公事ナリト言フ理アルコトナシ又君主タル人ノ行爲ハ何事ニテモ總テ統治行爲トナル理モアルコトナシ統治ハ人類生存ノ天則タル道德ヲ厲行スル行爲即チ國家ヲ維持スル行爲ナリ君主ノ此行爲以外ノ行爲ハ統治行爲タルコトナシ統治行爲ハ公事ナレトモ統治行爲ニ非サル行爲ハ公事ニ非ス君主ニ公私ノ別ナシト言フ論者アリ

其ハ君主ノ萬能ヲ説カン爲ノ前提ナレトモ君主ノ萬能ハ君主タル行爲即チ統治ニ付テ之ヲ言フヘキモノナリ統治ハ其目的ノ範圍ニ在リテハ君主ハ萬能タリ統治以外ニ在リテハ君主ノ萬能ナルモノアルコトナシ君主タル人ト雖モ人間ナルカ故ニ統治行爲ノミヲ爲スモノニ非ス統治行爲ノ外人間ニ必要ナル生存行爲ヲ爲スモノナリ從ヒテ財產ヲ有シ財產ノ得喪行爲ヲ爲シ其他統治ニ關セサル諸多ノ行爲ヲ爲スモノナリ君主ハ公人ナルカ故ニ私事ナケレトモ君主ヲ組成スル實體タル人ハ私人ナルカ故ニ幾多ノ私事アルナリ論者ハ又神聖不可侵ノ前提トシテ君主タル人ノ行爲ヲ舉ケテ統治行爲ナリ私事アルコトナシト言フモ大ナル誤ナリ後ニモ述フル如ク統治行爲ノ不可侵ナルコトハ統治權ノ本質上然ルヘキコトニシテ特ニ條規ヲ俟ツノ要ナシ憲法ニ特ニ不可侵ヲ規定シタル所以ハ君主即チ統治者ノ地位ヲ尊重スル爲ニ君主タル人ノ公私ノ行爲ヲ問ハス之ヲ無責任ト爲シタルモノニシテ自ラ別問題ナリ斯ノ如ク君主ニハ私事ナケレトモ



君主ヲ組成スル實體タル人ニハ私事アルナリ君主ニ私事ナキヲ以テ君主カ統治權ヲ有スト言フモ君主カ統治權ヲ私有スト云フ結果ヲ生スルコトナシ君主カ宇宙ニ立チ其力ノ及フ域内ニ於テ多數ノ人類ヲ緊結シ人類生存ノ天則タル道德ノ厲行即チ國家ヲ統治スルコトハ其有スル力ノ發現ナルヲ以テ君主カ統治權ヲ有スト言フハ當然ノ理ナリ聊カ虛妄ノ言ニ非ス

穂積八束博士(憲法提要二〇四頁二〇五頁)ノ説

抑モ天子ニ公私ノ別ナシ神聖不可侵ノ性格ハ絕對ニ其一身ニ存ス官吏ノ其公益ニ付特別ノ保護榮典ヲ享有スルカ如キニハ非サルナリ故ニ天皇ノ身位ニ關シ公私ノ別ヲ立テ憲法ノ保護ハ專ラ其公ノ資格ニ關シ私ノ資格ニ於テハ臣民ト同シク法律ニ服從スル者ナリト説ク者アルハ我國體ノ法理ニ合ハサルナリ

美濃部博士(憲法講話六六頁六七頁)ノ説

君主ヲ統治權ノ主體ナリトセハ統治權ハ君主ノ一身上ノ利益ノ爲ニ存スル權利ナリト云フ意味ニ歸ス

岡博士(國家學會雜誌第二六卷第一〇號國家及政體論)ノ説

天皇カ御一身上ノ權利トシテ統治權ヲ保有シ給フト爲スハ之レ統治權カ上御一人ノ爲ニノミ存スト爲シ又統治ノ凡テノ作用ヲ以テ天皇ノ御一身ノ意思行爲ナリト爲スモノニシテ其非理ナルコト明瞭ナリ

上杉博士(憲法綱領四九頁)ノ説

凡ソ天皇一身ノ私事アルコトナシ天皇ノ事ハ皆公事ナリ

岡博士(第一三版憲法述義三一七頁)ノ説

同論

#### 第四項 受益者ト統治權ノ主體

統治ハ國民ノ生存ヲ保護スル爲ニ行フ國家ノ維持行爲ナルカ故ニ統治權ノ行使ニ依リテ利益ヲ受クル者ハ眞ニ多シ人類ハ其國民タルト領土ニ在ル國民外ノ人類タルトヲ問ハス利益ヲ受クルモノナリ殊ニ君主ハ道德ノ厲行ヲ以テ君主生存ノ要素タリ又大ナル榮譽ト爲スモノナルヲ以テ最大利益ヲ有スルモノト言ハサルヘカラス權利ハ利益ノ主體ニ屬スト言フ説ヲ是認ストスルモ國家ハ如何ナル利益ノ主體タルカ故ニ統治權ハ國家ニ屬スト爲スカ國家カ國民ヨリ離在獨存スル單一體ナルカ故ニ其單一體タル國家ヲ以テ利益ノ主體トシテ統治權ヲ有スルモノトセハ何時ニ同一ノ



論法ニ因リ國民ヨリ離在獨存スル單一體タル君主ヲ以テ利益ノ本體トシテ統治權ヲ有スルモノトセサルヲ君主タル人格ヲ統治權ノ主體トスルトキハ君主ハ統治權ヲ私有スルコトトナルヲ以テ不可ナリトセハ國家タル人格ヲ統治權ノ主體トスルトキモ亦國家ハ統治權ヲ私有スルコトトナルカ故ニ不可ナリトセサルヘカラス國家人格ハ公人格ナルカ故ニ統治權ヲ私有スルコトナシトセハ君主人格モ亦公人格ナルカ故ニ統治權ヲ私有スルコトナシトセサルヘカラス若シ夫レ國家ノ利益ハ國民ノ利益ナリ國民ノ利益ハ國家ノ利益ニシテ二アルコトナシト言フ論法ノ下ニ國家ヲ統治權ノ主體ナリトスルトキハ國家ハ國民ノ團體ニシテ國民ハ統治權ノ主體タル團體ヲ組織スル分子ナルカ故ニ結局國民ハ統治權ノ主體トナリテ自家ノ權利ノ支配ヲ受クルト言フ奇妙ナル現象ヲ見ルコトトナルナリ

美濃部博士(國家學會雜誌第二六卷第一〇號國家及政體論)ノ說  
權利ハ法ノ保護スル利益ノ主體ニ屬スルモノナルカ故ニ統治權ハ國家ノ利益ノ爲ニ存ス

### 第五項 君主ノ目的ト臣民ノ目的

國家ハ君主ト臣民トヲ以テ組織スルモノナルトキハ君主ト臣民トハ共ニ國家ノ組織員ナルカ故ニ其目的ヲ共同スルモノナリ權利主體ト權利客體トハ目的ヲ共同スルモノニ非ス然レトモ臣民ハ國家ノ組織員ナレトモ君主ハ國家ノ組織員ニ非ス團體タル國家ハ強者カ緊結統合シテ成立シ存在スルモノナルカ故ニ強者タル君主ハ國家外ニ在ルモノナリ又君主ト臣民トハ目的ヲ共同スルモノニ非ス君主ハ人類生存ノ天則タル道德ノ厲行即チ統治ヲ以テ目的ト爲スモ臣民ハ其統治ヲ受ケテ生存スルヲ以テ目的ト爲スモノナルカ故ニ權利主體ト權利客體トノ矛盾ヲ生スルコトナシ假リニ國家ヲ以テ統治權ノ主體ト爲サンカ國家ノ目的ト其客體タル國民ノ目的トハ同一ナルヲ以テ權利主體ト權利客體トノ矛盾ヲ免カレサルナリ

美濃部博士(國家學會雜誌第二六卷第八號國家及政體論)ノ說



君主モ國民モ國家團體ノ組織員ナルカ故ニ共同ノ目的ヲ有スルモノナリ其共同ノ目的ヲ有スル君主カ統治權ノ主體ニシテ臣民カ其客體ナリト言フハ非ナリ法律上ノ觀念ニ於テ權利主體ト權利客體トハ決シテ目的ヲ共同スルモノタルヲ得ス

### 第六項 統治者ト認知

統治權ハ統治者ニ内生有スルモノナルカ故ニ統治者ノ固有スルモノニシテ何人ヨリモ授權セラレルモノニ非ス又認知セラレルモノニモ非ス余ハ意思ノ働カ君主ニ屬スルカ故ニ君主ヲ以テ統治權ノ主體ナリト爲スモノニ非ス意思ノ有無ヲ問ハス統治權ナルカ君主ニ生シ君主カ之ヲ有スルモノナルカ故ニ君主ヲ以テ統治權ノ主體ト爲スナリ若シ認知ニ因リテ統治權ノ主體カ定マルモノトセハ其認知者ハ君主以上ノ強者ナリト爲ササルヘカラス然ルニ余ハ其強者ヲ發見スル能ハサルナリ國會裁判所及政府ハ意思ヲ有スルモノニ非ス國會ノ立法協賛豫算議定裁判所ノ判決及政府ノ行政ハ機關ノ作用ニシテ意思ノ行動ニ非ス其故ニ意思主體ヲ以テ權

利主體ト爲ス說ヲ是認スルモ國會裁判所及政府ハ意思主體ニ非サルカ故ニ權利主體タルコトナシ

美濃部四士(國家學會雜誌第二六卷第一〇號國家及政體論)ノ說

君主ヲ統治權ノ主體ナリト爲ス見解ハ其權利カ自己ノ爲ニ認メラルルト否トナ問ハス苟モ意思ノ働ノ屬スル所カ即チ權利ノ主體ナリト爲スノ思想ニ唯一ノ根據ヲ有スルモノナリ斯ノ如キ思想ヲ前提トスルトキハ國會ハ立法協賛豫算議定權ノ主體ナリ裁判所ハ司法權ノ主體ナリ行政官廳ハ行政權ノ主體ナリト言フコトヲ認メサルヘカラサルニ至ルナリ

### 第五款 貴族主體

#### 第一項 貴族ノ意義

統治權ノ主體タル貴族ノ意義ハ複數ノ強者タルコトナリ複數ノ強者カ其力ヲ合同シテ國家ヲ統治スルモノナルトキハ其合同力ハ即チ統治權ナリ其統治權ハ各強者ノ生存力ノ總和ナルヲ以テ其主體ハ全強者ノ團體ナリ法學上其團體ヲ稱シテ貴族主體ト言フナリ



現代獨逸皇帝ハ事實上統治權ノ主體タルモ獨逸聯邦ヲ組織シタル當初ニ在リテハ其各邦ノ元首タリシ者カ相團結シテ合同力ノ團體ヲ作り以テ獨逸帝國ヲ統治シタルモノナルカ故ニ其各邦ノ元首タリシ者ハ貴族ニシテ其團體ハ貴族主體タリシモノナリ

國會議員タル複數ノ強者カ其合同力ニ依リテ國家ヲ統治スルモノナルトキハ其集團タル國會カ統治權ノ主體ニシテ貴族主體タルモノナリ

ダイシー(英國憲法論三七頁)ノ説

英國ニ於テハ國會ハ主權者ナリ

ブラツクストーン(英國憲法論一五三頁)ノ説

同論

統治權ハ唯一不可分ナリ貴族主體ヲ認ムルトキハ統治權ノ唯一不可分ノ性質ヲ破壞スルコトナキヤト言フニ各貴族カ各自獨立シテ國家ヲ統治スルニ於テハ統治權ノ唯一不可分ノ性質ヲ害スルニ至ルモノナリ然レトモ各貴族カ集團シテ一體ヲ成シ各貴族ノ強力ヲ合同シテ合同力ヲ作り以テ

國家ヲ統治スルモノナルカ故ニ決シテ統治權ノ唯一不可分ノ性質ヲ破壞スルコトナシ

## 第二項 貴族主體ト人格

貴族主體ニ於ケル貴族ハ國家ヲ統治スル力ヲ有スルモノナルヲ以テ國民ヲ支配スル地位ニ立ツモノナリ從ヒテ貴族ハ被支配者タル國民ニ非ス國民ニ非サルカ故ニ國家ナル團體員タルコトナシ本來貴族ハ統治者タルヲ以テ君主ノ性質ヲ具有スルモノナリ從ヒテ君主ニ關スル説明ノ大部分ハ移シテ以テ貴族ノ説明ト爲スコトヲ得ヘシ然レトモ君主ハ唯一人ノ統治者ノコトナルヲ以テ複數統治者ヲ君主トハ言ハサルナリ

權利ハ人格者ニ非サレハ之ヲ有スルコトヲ得サルハ權利ノ本質上當然ノ事理ナリ貴族主體ノ統治權ハ各貴族ノ強力ヲ綜合シテ強大ナル一個統治權ヲ成シタルモノナリ貴族主體ナル團體ハ團體員タル貴族カ結合セルモ



ノナレトモ組織員タル貴族ヲ離シテ獨存スルモノニ非サルヲ以テ當然獨立シタル一個人格ヲ成スモノニ非ス其團體タル貴族主體ノ統治權ハ其全團體員タル全貴族ノ統治權ナリ其故ニ貴族團體カ統治權ノ主體タリト言フハ貴族全體カ合同シテ統治權ヲ有スト言フコトナリ貴族全體カ合同シテ統治權ヲ有スト言フコトハ共同人格者カ統治權ヲ合有スト言フコトナルカ故ニ統治權ノ主體カ人格者タルコトヲ失ハサルナリ

### 第三項 貴族主體ト共和政體

統治權ノ主體ノ鮮明ナル國ト不鮮明ナル國トアリ統治權ノ主體ノ不鮮明ナル國ハ君主主體國ニ少クシテ貴族主體國ニ多シ其不鮮明ノ國ニ在リテハ一定ノ主體ナク恰カモ國民カ申合セノ上ニテ統治ヲ爲スノ感アラシムルナリ茲ニ於テ斯ル状態ノ國ヲ稱シテ共和政體ノ國ナリトシ或ハ民主主體ノ國ナリトセリ定數ノ貴族カ合同シテ統治權ノ主體タルコトヲ稱シテ

共和政體ナリト言フ者アリ然レトモ其單ニ語ヲ異ニスルマテノコトナルヲ以テ強ヒテ之ヲ咎ムルノ要ナケレトモ國民全體カ共同和衷以テ國政ヲ行フモノトスルニ在ルトキハ極力論擊セサルヘカラス既ニ屢屢論シタル如ク國家カ統治權ノ主體タルコトヲ得サルハ勿論被支配者タル國民カ統治權ノ主體タル如キ矛盾ノ在ルヘキ理アルコトナシ論者北米合衆國ハ勿論英吉利ノ主體ヲ稱シテ民主主體ナリトセリ然ラハ北米合衆國民及英吉利國民ハ全部其政治ヲ行フモノナリヤト言フニ國會議員ヲ選舉スル資格ヲ有スル者スラ眞ニ微微タルモノニシテ其大部分ハ政治上何等ノ意思ヲモ有スル者ニ非ス論者之ヲ辯シテ英米ノ如キハ直接民主政治ニ非スシテ間接民主政治ナルカ故ニ其大部分ハ直接政治ニ參與セサルモノナリ全國民カ直接政治ヲ爲サストモ代表者ニ依リテ政治ヲ爲ストキハ民主主體ニ缺ク所ナシト言ハン然レトモ其ハ論者ノ說ノミ又斯ノ如キ說ヲ悅フ者ノ言ノミナリ眞理ハ之ヲ認ムルモノニ非ス如何ニ強辯スルモ被支配者タル



國民カ支配權ヲ有スト爲スハ鹿ヲ馬ト爲サントスルノ類ニシテ人間ノ爲シ能ハサル業ナリ然ラハ英吉利及北米合衆國其他主體ノ何者タルカノ不鮮明ナル國ノ主體ハ如何ニシテ之ヲ定ムルヤト言フニ其ハ各國ニ就テ之ヲ審究スルノ外ナキモ余ハ單ニ法學上ノ見地ヨリ之ヲ論明スル者ナリ國家ハ強者カ道德ヲ厲行スル爲ニ其力ノ及フ範域内ニ於テ人類ヲ緊結シテ作リタル成團ナリ統治權ハ其道德ノ厲行即チ成團タル國家ヲ維持スルノ力ニシテ國民ニ對シテハ支配ノ力ナリ其力ノ内生シ其力ヲ存有スル者カ即チ其力ノ有者ニシテ統治權ノ主體タリ其力ヲ多數ノ者ニテ有スル國ニ在リテハ誰カ其力ノ特定有者ナリヤ不鮮明ナルコトアルモ其ハ主觀的ニ認識シ得サルマテニシテ事實上其力ヲ有スル者ノ存スルコトハ確實ナリ

### 第六款 日本ニ於ケル統治權ノ主體

我日本ノ國體ヲ案スルニ統治權ハ天皇ニ生シ天皇之ヲ有セラルルコト眞

ニ明カニシテ日月ノ輝ケルカ如ク一點ノ疑ヲ存スルコトナシ其故ニ天皇ハ正ニ君主ニシテ統治權ノ主體タルコト微蘆異論ヲ挿ムヘキ餘地ヲ存セサルナリ日本ノ文化隆盛ニ天皇ノ統治權ニ淵源セサルモノナシ國司能ク其職ヲ行ヒ國民能ク勵精スト雖モ國司能ク其職ヲ行ヒ國民能ク勵精スルモノハ凡テ天皇ノ統治權ニ根由スルカ爲ナリ換言スレハ國家力ノ富強ナルハ天皇ノ統治權ニ依リテ養成セラレタルモノナリ虚心平氣ニ默考スルモ統治權カ天皇外ニ在ルコトヲ發見シ得サルナリ余ハ之ヲ以テ天皇ハ君主ニシテ統治權ノ主體タルコトヲ斷言スルモノナリ

天皇ノ統治權ノ主體タルコトヲ否定スル論者ハ或ハ國民ヲ以テ統治權ノ主體ト爲シ或ハ國家ヲ以テ統治權ノ主體ト爲スニ在ルモ其非ナルコトハ既ニ論駁シタル所ナリ然ルニ彼等否定論者中ニハ日本憲法第一條ニ「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」ト規定シテ統治權ノ行使ヲ規定シタルモ統治權ノ主體ヲ規定シタルモノニ非ス又同第四條ニ「天皇ハ國ノ元首



ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フト規定シテ天皇ヲ國ノ元首ト規定シタルモ統治權ノ主體タルコトヲ規定セサルノミナラス天皇ハ統治權ヲ總攬スルコトヲ規定シテ統治權ヲ有スルモノナルコトヲ規定セサルカ故ニ天皇ハ統治權ノ主體タルモノニ非スト論スル者アリ然レトモ憲法ハ統治權ノ主體ヲ定ムルモノニアラス又統治權ノ主體ハ憲法ヲ以テ創定スルコトヲ得ルモノニアラス日本憲法第一條ハ天皇カ統治權ノ主體ナルカ故ニ大日本帝國ヲ統治スルモノナルコトヲ明示シタルモノナリ蓋シ統治權ノ主體ニ非サレハ統治權ヲ有セス統治權ヲ有セスシテ統治シ得ルモノニ非サレハナリ同第四條ハ第一條ノ解示ニシテ天皇ハ國ノ元首即チ統治權ノ主體ナリ統治權ハ唯一不可分ナル故ニ分割スルモノニ非サルコトヲ明規シタルモノニ過キスシテ盡ク論者ノ謬説ナルコトヲ明カニスルコトヲ得ルナリ

憲法ノ最高解釋ハ天皇ノ外ニ爲シ得ル者ナシ憲法發布勅語ニ「國家統治ノ大權ハ朕力之ヲ祖宗ニ承ケ之ヲ子孫ニ

傳フル所ナリ」トアリテ天皇カ國家統治權ヲ承有スルコトヲ明示シ以テ天皇ハ統治權ヲ有スルモノナルカ故ニ大日本帝國ヲ統治スルモノナルコトノ最高解釋ヲ爲シタルモノナリ

伊藤公（帝國憲法義解六頁）ノ説

天皇ハ統治權ノ主體ナリ

加藤弘之博士（國家之統治權三四頁）ノ説

同論

穂積八束博士（憲法提要一八三頁二六頁）ノ説

同論

上杉博士（帝國憲法綱領四一頁四八頁五〇頁五一頁）ノ説

同論

同博士（帝國憲法述義一八六頁）ノ説

同論

同博士（第一三 憲法述義三二二頁三三二頁）ノ説

同論

同博士（甲中央公論第三六五號國體ノ精華ヲ發揮スルノ秋）ノ説

我國體ハ憲法第一條カ示ス如ク萬世一系ノ天皇カ主權者タルニ在ル事ハ天孫ノ建國ト共ニ定マリ永久不變則チ所謂天壤ト共ニ窮リ無ク億兆ノ仰キ見ル以テアツテ明カナルコト日星ノ如ク今更余輩ノ説明ヲ俟ツマテモナイ



ノテアル

清水博士(憲法篇九頁)ノ説

同論

岡博士(第一〇版憲法篇二六四頁)ノ説

我カ國ニ於テハ統治權ハ國家ニ歸屬スルト同時ニ天皇ニ歸屬シ國家ト天皇トハ此點ニ於テ相同化シ一アリテニナキモノニシテ統治權ノ主體ハ國家即チ天皇ナリトス

市村博士(憲法要論一七一頁)ノ説

同論

吉野博士(中央公論第三二九號予ノ憲政論ノ批評ヲ讀ム)ノ説

我國ノ國法上天皇カ最高權力者ノ地位ニ在ラセラルルコトタケハ明カナリ

三浦博士(法學通論二四頁)ノ説

同論

天皇機關  
説ト忠君

機關トハ後ニモ説論スル所アル如ク人格ヲ有スルモノニ非ス國家又ハ國民ヲ以テ統治權ノ主體ト爲シ天皇ヲ以テ其機關ト爲ス説ハ天皇ノ人格ヲ否定スルモノナリ天皇ノ人格ヲ否定スル結果ハ忠君ヲ否定スルコトトナ

ルナリ或ハ言ハン忠君ハ道德學ノ論題ニシテ法學上ノ問題タルモノニ非スト然レトモ統治及道德ノ何タルヲ知ラサル者ノ言ナリ統治ハ道德ノ權現ナリ統治ノ本義ト道德トハ同一天則ノ兩面ヲ成スモノナリ殊ニ君主ハ國家前ニ存在セスシテ國家ト同時ニ發生シタルモノナルカ故ニ道德ニハ隱在スルニ止マリ統治ニ出現シタルモノナルヲ以テ道德面ニ在ルモノニ非スシテ統治面ニ存在スルモノナリ從ヒテ忠君ハ道德面ニ在スルモノニ非スシテ統治面ニ在ルモノナリ然ラハ忠君ノ本質ハ道德學ノ論題タルモノナレトモ忠君其モノハ道德學ニ屬セスシテ法學ノ領分タルモノナリ教育ハ統治行爲ナリ明治大帝ノ教育勅語ニ云云我カ臣民克ク忠ニ云云トアリ統治機關タル學校ニ依リテ大ニ忠君ノ教育ヲ施セリ臣民ハ教育勅語ヲ奉シテ忠君ヲ行フヘキ義務ヲ負フモノナリ其義務ハ後ニモ説述スル所アル如ク臣民ノ統治權ニ對スル義務ナリ

グナイスト(英國行政法論一五四頁)ノ説

國王ハ國家意思ヲ執行スル所ノ一切ノ機關ニ首長タルモノナリ



ブルンチエリ（國家論第四章第二章）ノ説

君主ハ國家ノ最高機關ナリ

ゲ、マイヤー（獨逸國法論第一二一號）ノ説

皇帝ハ帝國ノ主權者ニ非ス帝國ノ國權ニ對シテ無形上ノ參與權ヲ有スル特權アル一員ニ過キササル最高機關ナリ

エリネツク（公權論第一章第一〇節）ノ説

君主ハ國家ノ最高機關ナリ

同氏（法律命令論三七三頁）ノ説

憲法ハ國家ノ機關ノ權限ヲ定ムルトキハ憲法ハ唯其機關ノ憲法上ノ權利アルコトヲ認ムルノミナリ假令國王ノ

權利カ昔時ヨリ由來スルモ憲法ハ立憲國ノ國王ノ外ニ憲法制定前ノ國王ヲ認ムルコトナシ

一本博士（法令豫算論一一〇頁）ノ説

君主ハ獨行政ノ中樞タルノミナラス亦立法機關ノ首長タルモノナリ君主ハ國家ノ機關ナリ

美濃部博士（日本國法學一一七頁）ノ説

我國ニ於テハ君主ハ國家ノ最高機關ナリ共和國ニ於テハ國民ハ國家ノ最高機關ナリ

同博士（憲法講話六五頁）ノ説

天皇ハ君主ニシテ日本帝國ノ最高機關ナリ

副島博士（日本帝國憲法論一四九頁一五八頁）ノ説

天皇ハ國家ノ最高機關ナリ

君主機關  
説ト君主  
固有權

織田博士（大陽第一九卷第八號國體ト民政）ノ説

天皇ハ統治權ノ總攬機關ナリ

市村博士（行政法原理四頁——八頁）ノ説

統治權ノ總攬者ヲ以テ國家ノ機關ナリトス天皇ハ統治權ノ總攬者ナリ

同博士（帝國憲法論二八一頁）ノ説

天皇ハ統治權ヲ總攬スル國家最高ノ機關ナリ

織田博士（改訂法學通論二〇九頁）ノ説

我國家ノ統治者タル至尊ヲ天皇トシ其萬世一系タルヘキコトハ建國以來既定ノ大法ニシテ憲法ハ唯之ヲ表彰シ

タルニ過キス而シテ其國家ノ元首トシテ統治權ヲ總攬スルハ即チ其國家ノ最高機關タル所以ナリ

君主機關説ニ就テ疑問ノ解スル能ハサルモノアリ君主ハ國家ノ最高機關  
ニシテ獨立固有ノ權利ニ因リ其地位ニ在リト言ヘルコト之レナリ機關ハ  
人格ヲ有スルモノニ非サルヲ以テ權利ノ主體タルコトヲ得サルハ既説ノ  
如シ然ルニ君主タル機關カ權利ヲ有スト言フハ甚會得シ難キ事ナリ爾カ  
モ君主タル機關ハ何人ヨリモ委任ヲ受ケス固有權ヲ有スト言フニ至リテ  
ハ益迷疑ノ念ニ堪ヘサルナリ統治權ナルモノハ統治者カ國家ヲ組織スル



ト同時ニ其統治スル力カ統治ノ性質上當然統治權ナル權利トナリ他ノ權利ハ統治者ノ認與ニ因リテ生スルモノニシテ其他ニハ權利ノ發生原因ナルモノアルコトナシ然ルニ機關タル君主カ固有權ヲ有スト言ヘリ機關タル君主ハ如何ニシテ其權利ヲ固有スルモノナリヤ法學ノ解シ得サル難問ナリ或ハ言ハシ機關タル君主カ其權利ヲ固有スルニ非スシテ君主タルヘキ人カ其固有權ニ基キテ君主ノ地位ニ即キ又ハ權限ヲ有スルモノナリト其ニシテモ其君主タル人カ如何ニシテ君主ニ即ク權利ヲ固有シタルカ其固有原因ノ説明ヲ望マサルヲ得ス機關タル君主カ君主權ヲ固有スト言フコトヲ以テ憲法ニ依リテ有スト言フ者アリ此言ヲ眞ナリトセハ決シテ君主タルヘキ人カ君主權ヲ固有スルモノニ非ス他ニ統治者アリテ統治者カ豫メ憲法ヲ以テ特定ノ人ヲ機關タル君主ニ任命スルコトヲ定メ其特定セラレタル者カ其規定ニ基キテ機關タル君主ノ地位ニ即クモノニ過キス其特定セラレタル者カ機關タル君主ノ地位ニ即クコトハ權利ノ行使ナリヤ

斯ル君主ノ地位ニ即ク人モ官吏トナル人モ共ニ機關ヲ組成スルモノニシテ單ニ有格者タルニ外ナラス資格カ權利ニ非サルコトハ既ニ説論シタル所ノ如シ統治者カ特定ノ有格者ヲ君主タル機關ニ用フルモ或有格者ヲ國務大臣其他ノ官吏タル機關ニ用フルモ共ニ統治者カ機關ヲ構造スルモノニシテ其登用ハ任命ナリ被登用者ニ權利アリテ之ヲ行使スルモノニ非ス法定ノ資格ヲ具備スル爲メ任命セラレタルモノナリ等シク機關組織ノ要素タルモノニシテ君主ヲ組織スルモノト官吏ヲ組織スルモノトニ依リテ其本質ヲ變スルノ理アルコトナシ機關タル君主ハ其實官吏ノ一ナリ官吏ノ登用カ權利ノ行使ニ非サルカ故ニ等シク官吏タル君主ノ登用モ亦權利ノ行使ニ非サルコト明カナリ

ベルナチツク(共和國體ト君主國體論二九頁)ノ説

君主國ニ於テハ國家ノ最高機關カ其機關タル地位ニ對シテハ自己ノ權利ヲ有ス

コーラー(法學通論一〇九頁)ノ説



同論

トライチケイ(政治學第二卷八頁)ノ説

同論

美濃部博士(憲法講話六六頁)ノ説

君主ハ何人ノ委任ニ依ルニ非ス固有權ニ基キ當然皇位ニ即クモノナリ

市村博士(國家及國民論一一五頁)ノ説

統治權ノ總攬者タル最高機關ハ何人ヨリモ委任セラレス又承諾セス自己固有ノ權トシテ統治權ヲ行ヒ得ル地位

ニ在ル者ヲ言フ

同博士(帝國憲法論二八三頁)ノ説

統治權ノ總攬者ハ其國家機關タル地位ヲ固有ス其權限ハ彼カ他ノ國家機關ノ何レヨリモ繼承シタルニアラスシ

テ自己固有ノ權トシテ有スルモノナリ

グ、マイヤー(獨逸國法論第八三號第八四號)ノ説

君主ハ憲法ニ依リテ直接ニ其地位ニ即ク權利ヲ有スルモノナリ

### 第七款 國家ト非國家

君主主體國ニ於テハ議論ナケレトモ貴族主體國ニ於ケル其共同主體タル

ヘキ者ノ不鮮明ナルトキハ實際ニ統治力ヲ有スル者ノ何人ナルカヲ知ルニ難キコトアリ若シ何人モ統治力ヲ有スル者ナク國民全體カ共同シテ生存スル團體ニ過キサルトキハ其團體ハ群獸ノ生活ニ同シク國家ナルモノニ非ス未タ國家ヲ成ササルモノナリ人類未タ國家ヲ成ササルトキハ人類相互ニ世話ヲ爲シ合ヒテ共同生存ヲ爲スモノニシテ原始時代ハ勿論現代ニ在リテモ遠島未タ國家ヲ成ササル人類ノ生活ハ皆之ナリ斯ノ如ク人類カ如何ニ大ナル集團ヲ成シ如何ニ文化ニ浴シ國家以上ノ理想生活ヲ爲スコトアリト雖モ統治者ノ存在セサル集團ハ統治權ヲ以テ之ヲ維持スルモノニ非サルカ故ニ國家ニ非サルナリ

### 第三節 主體ノ繼承

主體ノ繼承ハ憲法ニ之ヲ皇位ノ繼承ト言フ憲法第二條憲法ニ皇位トアルハ統治權ノ主體ト言フ意義ニシテ天皇タル資格又ハ地位ト言フ意義ニ非

義繼承ノ意



ス從來位ナル文字ハ之ヲ資格又ハ地位ノ意義ニ用フルト雖モ皇位ト言ヘ  
ルハ資格又ハ地位ノ意義ニ非スシテ統治權ノ主體即チ統治者タル意義ナ  
リ  
統治權ハ統治者ニ存シ統治者カ統治權ヲ有スル間ハ永久ニ統治權ノ主體  
タリ既ニ論シタル如ク統治權ハ個人ノ之ヲ私有スルモノニシテ公人タル  
統治者ノ公有スルモノナリ統治者ハ統治者ヲ組織スル者ニ交替アルモ統  
治權ノ存續スル間ハ一體トシテ永久ニ存在スルモノナリ法學上統治者ハ  
英吉利ニ於テ言フ所ノ國王ハ法人ナリト言フコトヲ認メサルモ國王ハ死  
セスト言フ眞理ヲ認ムルモノニシテ統治權ナル國家維持力ノ存續スル間  
ハ統治者ナル統治權ノ主體ハ不滅ナリジエームス一世ト二世トハ異ナレ  
トモ統治者ハ唯一ナリ日本ニ於テハ神武天皇ヨリ聖上ニ至ル迄百二十二  
世ニ達シ即チ百二十二ノ交替アリタルモ統治者ハ唯一體ナリ即チジエ  
ームス一世モ二世モ統治者ヲ組織シテ一體ヲ成シ神武天皇ヨリ聖上ニ至

ル迄百二十二世ノ人人ハ順次統治者ヲ組成シテ永ク一體ヲ成シタルモノ  
ナリ將來モ亦其統治權ノ存續スル間ハ皇統連續シテ統治者ヲ組成シ以テ  
永久無窮ニ至ルモノナリ之レ即チ統治者ノ本質ニシテ世界ノ何處ニ在リ  
テモ變ハルコトノナキ道理ナリ此道理ハ君主主體タルト貴族主體タルト  
ニ依リテ異ナルモノニ非ス貴族主體タル統治者ヲ成ズ各貴族ニハ世襲的  
ノ者アリ定期ノ者モアルヘシ其世襲的タルト定期的タルトヲ問ハス相繼  
キテ貴族トナリ以テ統治者ヲ組成スルモノナルトキハ統治者ノ一體タル  
コトヲ失ハスシテ永久ニ存續スルモノナリ昔時佛蘭西英吉利及獨逸ニ於  
テハ君主ヲ選舉シタルモノナリ之ハ定期的貴族ト同一理ニ因リテ主體ノ  
一體ヲ成スモノナリ國會カ統治者タル場合ニ在リテモ同シキコトナリ即  
チ國會議員ハ定期ニ於テ變替アルモ新舊相繼キテ統治者ヲ組成スルトキ  
ハ統治者ハ滅没セス始終一體ヲ成シテ永存スルモノナリスノ如ク定期的  
他統交替ノ統治者カ前後一體ヲ成スモノナルカ故ニ同統連續シテ唯一體



ノ統治者ヲ成スノ理ハ眞ニ明カナルコトナリ  
 抑モ皇位繼承ト言ヒ又ハ主體繼承ト言フ所ノ其繼承ナル語ハ當ヲ得タル  
 モノニ非ス統治者ハ永久一體ニシテ延長連存スルモノナリ各世繼承スル  
 モノニ非ス繼承ナル語ハ相續觀念ヨリ出テタルモノナルヘシト雖モ全然  
 相續ノ意義ヲ有スルコトナシ余カ茲ニ主體繼承ナル語ヲ用フルハ慣例ニ  
 從フモノニシテ其意義ハ主體ノ延長連存ヲ言フモノナリ

穂積八束博士(憲法提要二二三頁二三四頁)ノ説

皇位ハ祖宗ノ靈位ナリ皇位ノ繼承ハ統治主體ノ永遠長久ノ大義ヲ彰表ス現世ノ天皇ハ天祖ノ身ノ延長ニシテ皇  
 位ノ繼承ハ皇位ノ延長ナリ

清水博士(憲法篇八八頁八九頁)ノ説

皇位トハ統治權ノ主體タル天皇ノ地位ヲ指スモノナリ皇位ニ在ル所ノ自然人ニ變更アルモ皇位ナルモノハ過去  
 現在將來ヲ通シテ一位ナリ

同博士(第一〇版憲法篇二七〇頁)ノ説

統治權者タル天皇ノ意思ナルモノハ個々ノ天皇ノ自然ノ意思ヲ云フニアラスシテ萬世一系ノ天皇ノ自然ノ意思  
 カ過去現在及ヒ未來ニ通シテ結合セルモノ即チ天祖ノ意思カ後來ノ天皇ノ自然ノ意思ニ結合シ過去現在及ヒ未

來ニ通シテ一體ヲ爲セルモノヲ云ヒ而シテ統治權ノ主體タリ國家タル天皇即チ余輩ノ所謂統治權ノ主體トシテ  
 ノ天皇ハ如此意思ノ主體ヲ指稱セルモノニ外ナラス之ヲ以テ統治權ノ主體トシテ天皇ハ決シテ生死ノ運命ニ支  
 配セラルルモノニアラス其生死ノ運命ニ支配セラルルモノハ自然人トシテノ天皇ノミ自然人トシテノ天皇ハ崩  
 御スルコトアルモ統治權ノ主體トシテノ天皇ハ崩御スルコトナシ統治者タル天皇ハ自然人タル天皇ノ交代ニ拘  
 ハラス萬世ニ涉リテ不易ナルモノナリ

織田博士(改訂法學通論二一〇頁)ノ説

皇位ヲ繼承スルハ統治權ヲ繼承スル所以ナリ

實博士(國家之研究三二九頁)ノ説

天皇ハ不滅ナリ肉體ノ何々陛下ト申上ケル御方ハ崩御セララルルカモ知レサルモ天皇ト申上ケルトキハ無量壽ナ  
 リ又天皇ハ過去現在未來ヲ通シテ現在シテ御在テニナルナリ

上杉博士(憲法述義二〇六頁)ノ説

天皇ハ天祖ノ遺靈ヲ承ケ之ヲ一身ニ體得ジテ天祖今モ猶在スカ如ク國ヲ知ロシ召サルナリ天皇ヲ仰グコト祖  
 宗ヲ仰グト異ナル所ナシ天祖ノ靈魂ハ永久亡ヒス今モ猶生活シ活動シ給フモノナリ皇位繼承ノ意味ハ茲ニ在リ  
 歷代ノ天皇在リト雖モ上一貫シテ天祖ノ遺靈ナリ

岡博士(第一三版憲法述義三八六頁)ノ説

同論

市村博士(帝國憲法論三一頁三二頁)ノ説

第二章 統治權ノ主體 第三節 主體ノ繼承



我國法上ノ觀念トシテハ皇位ヲ繼クハ天祖ノ位ヲ承ケルモノナリ天ツ日嗣ハ一アリテニ無キハ神代以來ノ確信ニシテ爾來傳ヘテ今ニ至リ未タ嘗テ國土ヲ分割シテ數子ニ分チシコトナク又皇位ヲ分チテ二トセル例ヲシ之レ統治權ノ性質トシテ當然ナリト雖モ又實ニ祖宗ノ位テフ不可分ノ地位ヲ繼承スルノ觀念カ偶然統治權不可分ノ觀念ト一致シテ一矢紊レサリシニ因ラスンハアラス

日本ニ於テハ皇位ハ天祖統治者ノ延長連存ナルコト人間生命ノ一體延長ナルト同シキコトニシテ皇位ニ在リタル所ノ人人ニ變更アリタルモ皇位ハ正シク一體ノ延長連存ヲ成シテ天壤無窮ノ繁榮ト國運ノ隆盛トヲ致セリ君臣ノ幸福此上ナキコトナリ併シナカラ皇位即チ統治者ノ一體ナルコトハ統治者ニ關スル普遍真理ナルヲ以テ獨日本ノ特有ニ非ス日本ノ世界ニ冠タリト誇ル所ノモノハ太古建國ノ時ヨリ三千年ノ久シキニ互リテ統治者ノ延長一體ヲ成シ未來永久ニ變替ナキ確固タル實象ヲ表ハセルコトヲ言フモノナリ

統治者不  
崩御繼承  
爲ト統治行

君主タル統治者ヲ組成スル人人ニ交替アルモ君主タル統治者ハ永久一體ナルカ故ニ君主タル統治者ヲ組成スル人ノ崩御スルモ君主タル統治者ハ

崩御スルモノニ非サルヲ以テ君主タル統治者ノ統治行爲ハ君主タル統治者ヲ組成スル人ノ崩御ニ因リテ其効力ヲ失フモノニ非ス即チ君主タル統治者ヲ組成スル人カ統治權ヲ有スルモノニ非スシテ君主タル統治者カ之ヲ有スルモノナルカ故ニ君主タル統治者ヲ組成スル人ニ崩御アルモ君主タル統治者ハ永久不滅ニシテ一體ナリ從ヒテ其統治行爲ハ永久ニ失効スルコトナシ

美濃部博士(國家學會雜誌第二六卷第一〇號國家及政體論)ノ說

統治權ヲ以テ君主ノ權利ナリトセハ統治權ニ基ク行爲ハ皆君主ノ意思行爲トシテノミ其効力ニ存シ國家行爲トナラスシテ君主行爲トナリ其結果君主崩御シ給フトキハ其行爲ハ其効力ヲ失フコトトナルナリ

繼承法

憲法第二條ニ「皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス」トアリ皇室典範第一條ニ「大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス」トアリ天祖ノ神勅ニ瑞穗國是吾子孫可王之地宜爾皇孫就而治焉行矣寶祚之隆當與天壤無窮矣トアリ和氣清麿還奏ノ言ニ我國家開闢以來君臣



繼承順序

分定矣以臣爲君未之有也天之日嗣必立皇緒トアリ眞ニ然リ然レトモ法學上ニ於テハ統治權ノ主體ハ統治力ノ現有本體ノ延長連存ヲ以テ皇位ノ繼承即チ主體ノ一體ト説クヘキモノナリ皇位ハ男系ニ傳ハリテ女系ヲ除キタルハ建國以來ノ繼承ノ大義ヲ重シタルニ在ルナリ

皇位ハ直系ニ下ルヲ順當本則トスルモノナルカ故ニ先ツ以テ皇長子ニ傳フ(典範第二條)皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ(同第三條前段)ト爲セリ之レニ又古今ノ常典ニシテ舉國ノ法ナリ皇長子及其子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其子孫ニ傳ヘ以下皆之ニ例ス(同條後段)直系盡クルトキハ不得已ニ依リ傍系ニ入り皇兄弟及其子孫ニ傳フ(同第五條)皇兄弟及其子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其子孫ニ傳フ(同第六條)皇伯叔父及其子孫皆在ラサルトキハ其以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ(同第七條)ト爲セリ傍系ノ繼承ニ付テモ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニスルハ正法ナリ(同第八條後段)

同親等ノ繼承ハ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニスルハ神武天皇庶長子手研耳命ヲ措

胎中天皇

テ綏靖天皇ヲ立テサセ給ヒタルニ始マリ皇室典範ニモ皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル(同第四條)皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニス(同第八條前段)ト爲セリ

民法ニ於ケル相續ハ親等ノ同シキ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニスルモノト爲セリ(民法第九七〇條)

胎兒ハ人格ヲ有セサルカ故ニ統治權ノ主體タルモノニ非ス昔時應神天皇ハ胎中天皇タリシコトアリタレトモ皇室典範ニハ主體原理ニ基キ胎中天皇ノ規定ヲ爲スコトナシ

民法第九百六十八條第一項ニハ胎兒ハ家督相續ニ付テハ既ニ生レタルモノト看做シ相續ヲ爲スモノト爲シタレトモ皇位繼承ハ相續ニ非サルヲ以テ胎兒ハ皇位ヲ繼承スルコトナシ

繼承順序  
變換

皇位ハ以上ノ順序ニ依リテ繼承スルモノナレトモ繼承不可能ノ事情ヲ存スルトキハ其順序ヲ變換スルノ不得已事ナリ即チ皇嗣精神若クハ身體ニ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得(典範第九條)ト爲セリ皇位ノ繼



皇嗣

承順序ヲ變換スルコトハ國家ノ重大事ナルヲ以テ慎重ニ之ヲ定ムヘキモノナルカ故ニ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ定ムルモノナリ  
 前示ノ順序ニ依リテ順位ノ定マリタル方ハ即チ之ヲ皇嗣ト稱ス皇子カ皇嗣タルトキハ之ヲ皇太子ト稱シ皇孫カ皇嗣タルトキハ之ヲ皇太孫ト稱ス  
 皇太子皇太孫ハ當然皇太子皇太孫タルモノニシテ特ニ立太子式立太孫式ヲ舉クルノ要アルコトナシ立皇太子立皇太孫ハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス(同第一六條)ト規定セルモ之レ唯形式ニ過キス其詔書ノ公布ニ因リテ皇太子皇太孫トナルモノニ非ス祖宗ノ神器ハ皇位ヲ繼承シタル者即チ天皇カ之ヲ承ケラルルモノナレトモ祖宗ノ神器ヲ承ケタル後ニ天皇トナラセラルル義ニ非ス

踐祚ト即位

皇位ノ繼承ハ天皇ノ崩御ニ因リテ生スルモノナルカ故ニ昔時ノ如ク讓位ニ因ル皇位ノ繼承ナルモノアルコトナシ  
 皇嗣皇位ヲ繼承セラルルトキハ即チ踐祚アラセラルルモノナリ太古ハ踐

即位ノ禮

祚ト即位トハ同一事ニシテ踐祚即チ即位ナリシモ天智天皇カ皇位繼承後仍皇太子ト稱シ七年後ニ即位ノ禮ヲ行ヒ給ヒタルコトアリテ爾後踐祚ト即位トヲ區別スルニ至リタリ即チ踐祚ヲ皇位繼承ト爲シ即位繼承ノ禮式ト爲スニ至リタルモノナリ

皇位繼承ノ禮式即チ即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ(典範第一一條)京都ニ於テ之ヲ行フハ秋冬ノ間ニ於テ之ヲ行フ(登極令第四條第一項)大嘗祭ハ即位ノ禮ヲ訖リタル後續テ之ヲ行フ(同條第二項)諒闇中ハ即位ノ禮及大嘗祭ヲ行ハス(同第一八條)

大嘗祭ハ神武天皇紀元元年以來歷代天皇ノ即位大典トナリ天祖及天神地祇ヲ請饗セラルルノ禮ニシテ一世一度行ハセラルルモノナリ

改元

踐祚即チ皇位ヲ繼承セラルルトキハ改元スルモノニシテ元號ハ一世再改セサルモノト定メラレタリ(典範第一二條)

孝德天皇ノ世ニ大化ノ元號ヲ建テラレタルヲ以テ元號ノ建始トス



### 第四節 皇室

#### 皇室ノ意

皇室ハ總皇族ノ一團タル家ト言フ義ニシテ各皇族ハ各所ニ居住セララルモ皆一家ノ家族ナリ各皇族ニハ宮號ヲ用ヒラルモ家名又ハ氏ヲ有セララルコトナシ宮號ハ單ニ其續合ヲ明カニスル爲メノ稱號ニ外ナラス斯ノ如ク皇室ハ總皇族ノ一團タル家ノコトナルカ故ニ皇室ヲ以テ法人ナリト論スル學者モアリ

美濃部博士(國家學會雜誌第三二卷第一號皇室ノ大權)ノ說

我カ皇室ノ國法上ノ地位ニ付テハ吾輩ハ皇室カ一ノ法人テアルト解スルコトカ最モ能ク我カ皇室法及ヒ國法ノ精神ヲ得タモノテアルト信スル

#### 家長

皇室ハ總皇族ノ一團タル家ナルカ故ニ家長ナカルヘカラス天皇ハ即チ其家長ニシテ國家ノ統治者ナリ國家ノ統治者タル天皇カ皇室ノ家長タルハ皇室ハ統治者タル天皇ノ出現スル根基ニシテ天皇ハ天祖ノ直系表現者ニ

#### 皇族

在シマスカ爲ナリ(典範第三五條)

總皇族ヲ一家ニ集團スルハ皇位即チ統治權ノ主體ノ延長連存ヲ健全確實ニスルノ必要ニ出ツルモノナリ

皇族ト稱スルハ太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、親王、親王妃、內親王、王、王妃、女王ヲ謂フ(典範第三〇條)

皇族ハ天皇系即チ天祖ノ系統ナルカ故ニ同血統タラサルヘカラスナルモノナレトモ妻タル者ハ他統タルモ入りテ皇族ニ列スルモノナリ其故ニ男性ノ皇族タル者ハ必ス天祖ノ系統タラサルヘカラス決シテ他統ヨリ入ルコトヲ得ス又女性ト雖モ妻タル者ノ外ハ他統ヨリ入ルコトヲ得ス從ヒテ皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス(典範第四二條)

皇族ハ大寶令ニ依レハ五世以下ヲ皇親ト爲スノ限リニ非サレトモ皇室典範ハ此制ヲ採ラサル爲メ幾世ニテモ皇族タルヘキモノナリ然レトモ皇位繼承ノ關係上親等ノ遠近ヲ明カニスルノ要アルカ故ニ皇子ヨリ皇立孫ニ



至ルマテハ男ヲ親王、女ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ王、女ヲ女王トス(典範第三一條)ト定メ、天皇支系ヨリ入りテ大統ヲ承ハルトキハ皇兄弟姉妹ノ女王タル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス(同第三二條)ト定メラレタリ。典範制定ノ際其前ニ親王ノ號ヲ宣賜セラレタル者ハ仍其號ヲ保有セシム然レトモ皇位繼承ノ順序ハ實系ニ依ルモノナリ(典範第五七條第五八條)皇族ハ幾世ノ後マテモ皇族タリト雖モ皇族ニシテ臣籍ニ入りタル者ハ固ヨリ皇族ノ列ヲ去ルモノナリ

皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但特旨ニ依リ仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ(典範第四四條)王ハ勅旨又ハ情願ニ依リ家名ヲ賜ヒ華族ニ列セシムルコトアルヘシ(同増補第一條)親王内親王女王ハ華族ニ列セラルルコトナシ王ハ勅許ニ依リ華族ノ家督相續人トナリ又家督相續ノ目的ヲ以テ華族ノ養子トナルコトヲ得(同第二條)從ヒテ親王、内親王、女王ハ華族ノ養子トナルコトヲ得ス右第一條第二條ニ依リ臣籍ニ入りタル者ノ妻直系卑屬及其妻ハ其家ニ入ル(同第三條本文)典範第五二條ノ規定ニ依リ特權ヲ剝奪セラレタル皇族ハ勅旨ニ由リ臣籍ニ降スコトアルヘシ(同第四條第一項)其者ノ妻ハ其家ニ入ル(同條第二項)

一度臣籍ニ入りタル者ハ皇族ニ復スルコトヲ得ス(典範増補第六條)一度臣

皇族婚嫁

籍ニ入りタル女子ノ婚姻ニ因リテ皇族ニ列スルコトヲ禁シタルモノニ非ス。皇族ノ婚嫁ハ皇室典範第三十九條ノ規定ニ依レハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ルコトトナルヲ以テ朝鮮ニ於ケル王族又ハ公族ト結婚スルコトヲ得サルモノナリシカ大正七年十一月二十八日皇室典範ヲ増補シテ皇族女子ハ王族又ハ公族ニ嫁スルコトヲ得ト定メラレタルカ故ニ皇族女子ハ朝鮮ニ於ケル王族又ハ公族ト結婚ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタリ

朝鮮ニ於ケル王族及公族ハ日韓併合ノ詔勅ヲ以テ定メラレタルモノニシテ其詔勅ハ左ノ通りナリ  
王族ニ對スル分

朕天壤無窮ノ不基ヲ弘クシ國家非常ノ禮數ヲ備ヘムト欲シ前韓國皇帝ヲ册シテ王ト爲シ昌德宮李王ト稱シ嗣後此ノ降錫ヲ世襲シテ以テ其ノ宗祀ヲ奉セシメ皇太子及將來ノ世嗣ヲ王世子トシ太皇帝ヲ太王ト爲シ德壽宮李太王ト稱シ各其ノ僮僕ヲ王妃太王妃又王世子妃トシ並ニ待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ特ニ殿下ノ敬稱ヲ用キシム世家率循ノ道ニ至リテハ朕ハ當ニ別ニ其ノ軌儀ヲ定メ李家ノ子孫ヲシテ奕葉之ニ賴リ福履ヲ増綏シ永ク休祉ヲ享ケシムヘシ



茲ニ有衆ニ宣示シ用テ殊典ヲ昭ニス

公族ニ對スル分

朕惟フニ李瑁及李暹ハ李王ノ慈親ニシテ令夙ニ彰ハレ權域ノ瞻望タリ宜ク殊遇ヲ加錫シ其ノ儀稱ヲ豊ニスヘシ  
茲ニ特ニ公ト爲シ其ノ配匹ヲ公妃トシ並ニ待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ殿下ノ敬稱ヲ用キシメ子孫ヲシテ此ノ榮錫ヲ  
世襲シ永ク寵光ヲ享ケシム

法律新聞第一四六六號皇族結婚ト皇室典範參照

皇后

皇后ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス(典範第一六條)然レトモ天皇ト  
結婚セラルルトキハ詔書ノ公布ナクトモ結婚ト同時ニ皇后トナリ天皇ノ  
踐祚前結婚セラレタルモノナルトキハ踐祚ト同時ニ皇后トナルモノニシ  
テ詔書ノ公布ハ單ニ其形式タルモノニ外ナラス換言スレハ詔書ノ公布ハ  
皇后トナラセラレタルコトヲ公表セラルルモノニシテ皇后タルノ成立要  
件ニ非サルナリ

第五節 統治者ノ義務

統治ハ强者カ人類生存ノ天則タル道德ヲ履行スルニ在リテ其之ヲ履行ス  
ルモ亦天則ナリ其故ニ强者タル統治者カ天則ニ違反スルコトナク其行爲  
カ道德ノ履行タラサルヘカラス統治者カ其天則ヲ守リ道德ヲ履行スルコ  
トハ統治者ノ義務ナリ換言スレハ統治者ハ統治ノ目的ヲ完行スル所ノ義  
務ヲ有スルモノナリ統治者カ統治ヲ爲ス所ノ力ハ統治權ナリ統治ヲ爲ス  
ハ統治權ノ實行ナルヲ以テ統治ヲ爲スニ義務ノ存スルモノニ非サルカ如  
キモ其義務ハ統治權ヲ完行スルノ義務ナリ統治者カ社會ノ最高地位ニ在  
リテ道德ヲ履行シ人類ヲ支配スルハ統治者タル强者ノ私慾ヲ逞クスル爲  
ニ非ス又強力ノ恣食ニモ非ス人類ヲシテ天則ノ下ニ生存セシムルニハ之  
ヲ履行スル所ノ强者ナカルヘカラス其履行者タル强者ノ存在スルコトモ  
亦宇宙ノ天則ナリ各人カ天則ヲ守ルト同シク强者モ亦天則ヲ守ラサルヘ  
カラス斯ノ如ク强者タル統治者ハ天則ニ依リテ統治ヲ爲スヘキモノナル  
カ故ニ統治權ヲ完行スル所ノ義務ヲ有スルモノナリ其故ニ統治者ハ君主



專制タルト君主立憲制タルトヲ問ハス又貴族專制タルト貴族立憲制タルトヲ問ハス統治ノ目的ヲ完行スルコトニ努メサルヘカラス歐羅巴ニ於テハ古來統治者ノ權利アルコトヲ知リテ其義務アルコトヲ知ラス其權利ハ萬能無限ニシテ苟モ人力ノ爲シ得ル行爲ハ凡テ統治行爲ナリ王者ノ權利ナリト稱シテ或ハ憎愛ニ因リテ重臣ヲ上下シ或ハ私慾ヲ計リテ重税ヲ苛徵シ或ハ私怨ニ因リテ刑罰ヲ濫行シタル等專恣亂行ヲ極メ遂ニ衆怨ノ府トナリテ追ハルルニ至リタル歴跡枚舉ニ遑アラサルナリ之レ全ク統治者タル者カ其義務ノ存在ヲ知ラサリシ結果ナリト言ハサルヘカラス東洋ニ在リテハ古來王道ト稱シテ統治者ニ統治權完行ノ義務アルコトヲ認メ殊ニ日本ニ於テハ歷代ノ天皇之ヲ能ク守ラセラレタル爲メ統治權ノ目的ヲ完行シ君民相親ミ國家隆盛以テ今日ノ強大ヲ爲シタル所以ナリ古來海外ニ於テ國家ノ滅亡シタルモノノ多クハ統治者カ其義務ヲ守ラサリシ爲ナリ其故ニ何國ニ於テモ立憲制度ヲ採リテ憲法ヲ設ケ統治權行使ノ本則ヲ

定メタル以上ハ統治者ハ立憲ノ本義ニ悖ラス憲法ノ條規ヲ無視セス以テ統治權ヲ行使スルコトハ統治者ノ統治權完行ノ義務ナリ寵臣ナルカ故ニ立憲ノ本義ニ悖リタル者即チ輔弼ノ大任ヲ盡ササリシ者ノ責任ヲ看過スト云フカ如キコトアリテハ統治權完行ノ義務ニ違フコトトナリテ民心ニ與フル惡影響ハ眞ニ寒心ニ堪ヘサル恐ルヘキコトナリ君寵ヲ辱クスル者ハ大ニ心ヲ用ヒテ君主ヲ黨争ニ引入ルルカ如キ不忠ノ行爲アルヘカラス自己又ハ自黨ノ利ヲ謀ル爲メ統治者ノ義務ニ違ヒ君德ヲ紊ルコトトナルモ之ヲ顧ミスト言フカ如キコトアリテハ不忠ノ大罪此上アルコトナシ古來何國ニ於テモ不忠ノ臣ナキニ非サレトモ其ハ殆ント個人的行爲ニシテ單ニ君意ニ反ストカ君主ノ機嫌ヲ損シタリト言フニ止マリ君主ヲシテ自己又ハ自黨ノ利益ヲ圖ル爲メ其統治權完行ノ義務ヲ悖ラシメタル者ハ未タ其多クアラサルナリ假令其非難者カ小數ナル敵黨ナリトスルモ又國民ノ幾小部分ニ過キストスルモ斯ル行爲ノ民心ニ惡影響ヲ及ホスコトハ將



來漸次君民ノ親和ヲ害スルノ虞ナシトセサルカ故ニ非常ノ留心ヲ要スヘキコトナリ論者アリテ統治者ハ統治權ヲ行フ爲ニハ憲法ヲ廢シ憲法ノ施行ヲ中止シ其他憲法及法律ノ規定ニ異リタル行爲ヲ爲スモ其自由ナリト論スルコトアレトモ是亦統治者ニ權利アルコトノミヲ知リテ義務ノ存在スルコトヲ識ラサル者ノ言ナリ統治者ハ憲法ヲ廢シ又ハ憲法ノ施行ヲ中止スルハ固ヨリ其自由ナリ然レトモ統治者ハ統治ノ目的ヲ達スル爲メニ存在スルモノナルカ故ニ統治權ヲ完行セサルヘカラス統治權ヲ完行スルハ統治ノ目的ヲ達スルコトナリ統治ノ目的ヲ達スル行爲ニ非サレハ統治權ヲ完行スルモノト言フヘカラス統治權ヲ完行スルニ非サレハ民心ハ歸向スルモノニ非ス憲法ヲ廢シ又ハ憲法ノ施行ヲ中止スルニハ統治ノ目的ヲ達スルニ必要ナル理由ナカルヘカラス統治ノ目的ヲ達スルニ必要ナル理由ナクシテ憲法ヲ廢シ又ハ憲法ノ施行ヲ中止スルコトアランカ管ニ民心ノ歸向セ

サルノミナラス大ニ離反シテ騷亂スルコトノナキヲ計レス權利ノミヲ實行シテ義務ヲ行ハサル行爲ハ決シテ統治權ヲ完行スル所以ノモノニ非ス統治者カ統治ノ目的ヲ達スルニハ統治權ヲ完行セサルヘカラス統治權ヲ完行スルニハ統治者ノ義務ヲ行ハサルヘカラス統治者カ其義務ヲ行フニ因リテ統治權ヲ完行シ得ルモノナリ統治權ヲ完行シ得ルニ因リテ統治ノモノナリ目的ヲ達スル

統治權ハ統治者ニ固有ナル如ク統治者ノ義務モ亦統治者ノ固有ノモノニシテ何人ヨリモ負擔セシメラレタルモノニ非ス又何人ニ對シテモ負擔スルモノニ非サルナリ統治者ノ此義務ヲ有スルハ宇宙ノ天則カ統治者ナル強者ヲ要シタル結果ナリ歐羅巴ノ君主カ即位式ニ當リテ天神ニ對シ統治者ノ義務ヲ履行スヘキ宣誓ヲ爲スハ其義務ノ存在ヲ認ムルモノナルモ天神ニ對スル義務ナリトセハ統治者ノ本質ヲ誤ルモノト言ハサルヘカラス

プルンチユリ（國家論第三章第六章）ノ說



君主ハ民意ニ注視シ公益ヲ計ラサルヘカラサル統治義務ヲ負フモノナリ若シ其務ムヘキ義務ヲ怠リ自然ノ發達ニ背戻シ時勢ニ逆フカ如キコトアルニ於テハ實ニ民庶ノ不滿ヲ招ク虞アルノミナラス不測ノ邊界ニ驅逐セラルルコトノナキヲ保セス

伊藤公(帝國憲法義解五七頁)ノ説

國權ハ危難ノ時機ニ際シ國家及國民ヲ救済シテ其存立ヲ保存スル爲ニ唯一ノ必要方法アリト認ムルトキハ斷シテ法律及臣民權利ノ一部ヲ犧牲ニシテ以テ其最大目的ヲ達セサルヘカラス之レ元首ノ權利ナルノミナラス又最大義務ナリ

### 第六節 神聖不可侵

神聖不可侵 (Unverletzlichkeit, is sacred and inviolable) ト言フハ神聖即チ無責任ナルカ故ニ不可侵即チ論難侵瀆スヘカラスト言フ義ナリ

神聖不可侵ノ意義  
神聖不可侵ノ理由

市村博士(憲法要論一八九頁一九〇頁)ノ説

神聖トハ人力ヲ以テ侵スヘカラサル職ナリ不可侵ト同義ナリ

岡博士(帝國憲法論二九二頁)ノ説

神聖トハ不可侵ノ限度ヲ示シタルモノナリ不可侵トハ一ハ天皇ノ行爲ノ無責任ニシテ他ノ一ハ天皇ニ對シ其神聖ヲ干瀆スヘカラサルコトナリ

清水博士(第一〇版憲法篇三二四頁)ノ説

「神聖」トハ法律上何等ノ意味ナシ「不可侵」トハ尊嚴ヲ害スル如キ法律上ノ責任ヲ負ハシムルヲ得サルヲ云フ上杉博士(第一三版憲法述義三八一頁三八三頁)ノ説

憲法第三條ニ「天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス」トアリマス天皇ハ惟神至聖ニシテ臣民群類ノ臣表ニ在リ欽仰スヘクシテ干犯スヘカラサルヲ示スノテアリマス其法律上ノ意味ハ何等法律上ノ責任ヲ負ハレスト云フコトヲアリマス……無責任ト云フハ憲法違反ノ行爲アルモ別ニ之レニ對スル制裁ヲ加フルト云フ如キ法律上ノ結果ヲ負ハシメサルノ謂テアル

既ニ論シタル如ク統治者ハ統治權完行ノ義務ヲ有スルモノナリ從ヒテ之ヲ法律的ニ論スルトキハ其義務違背ヨリ生スル責任ヲ問フト言フ論結ヲ生スル譯ナリ然レトモ法學ノ見地ヨリ之ヲ論スルトキハ凡ソ統治關係ニ於テ責任ヲ問フ者ハ自己ヨリ强者ナラサルヘカラス統治關係ニ於ケル强者ハ統治者ナリ其故ニ統治關係ニ於テ問責權ヲ有スル者ハ統治者ニシテ統治者ノ外ニ在ルコトナシ之レ統治權ハ最高權ニシテ統治者ノ外ニ之ヲ有スル者ナケレハナリ其故ニ統治者ハ統治權完行ノ義務ヲ有スルモ義務



違背ノ責任ヲ生スルモノニ非ス然レトモ統治者ハ自然人ヲ以テ組織スルモノニシテ統治者ノ智能ハ自然人ノ智能ナリ如何ニ明君智主タリト雖モ時ニ統治ノ過誤ナキヲ保セス又機宜ノ失策ナキヲ圖ラレス其過誤失策ヲ以テ之ヲ法律的ニ論シ君主ノ統治權完行ノ義務違背ヨリ生スル責任アリト爲ス者ナキニ非ス民主主義論者及國家主義論者ハ之ヲ論シ又之ヲ實現シテ大戰亂ヲ惹起シタル事實ハ歐羅巴ノ歴史上少カラサルナリ斯ノ如ク法律的ニ君主ノ責任ヲ論スル者ハ民主主義論者及國家主義論者ニシテ君主ヲ以テ統治機關ト爲ス前提ヨリ生スル論結ナリ

君主ノ無責任ヲ以テ政策ニ歸ストノ說ヲ爲ス者アリ此說ハ全然其當ヲ得タリト言フコトヲ得サレトモ亦之ヲ蔑視スヘキモノニ非ス英吉利ニ於テハ何人モ國王ハ惡事ヲ爲ス能ハス(The King can do no wrong)ト言ヒ傳ヘリ諸國ノ憲法ニ於テ君主ノ神聖不可侵ナルコトヲ規定セリ其ニハ幾多ノ理由アルナリ(一)法學上統治者カ統治上ノ責任ヲ有セサルハ當然ナレトモ之ヲ

明確ニスル爲メ規定ヲ設クルニ在リト爲シ(二)法學上君主ハ統治機關ナルカ故ニ責任ヲ有スルヲ以テ之ヲ免除スル爲メ規定ヲ設クルニ在リト爲シ(三)君主カ統治行爲ニ付テ責任ヲ負ハサルハ言フヲ待タス君主タル統治者ヲ組織セル自然人ノ私行爲ニ付テモ責任外ニ在ルモノト爲セリ余ハ各國憲法ニ於テ統治者ノ神聖不可侵ヲ規定シタル理由ハ(一)ニ非スシテ(三)ノ政策ニ在リト爲ス者ナリ蓋シ統治ニ甚必要ナルモノハ統治者ノ尊嚴ナリ又統治者ニ最必要ナルモノハ君民ノ親和ナリ統治行爲ニ付テハ統治者外ニ問責者ナキヲ以テ問責スルコトヲ得サルハ當然ナルカ故ニ規定ノ要ナキモ統治者ヲ組成スル自然人ノ私行爲ニ付テハ或ハ私人行爲ニ關スル法規ニ依據シテ論難抗擊ヲ爲ス者ナキヲ保セス斯クテハ統治者ノ尊嚴ヲ害シ君民ノ親和ヲ缺キ國家ノ存在ヲ危殆ナラシムル虞ナシトセサルヲ以テ憲法ニ依リ君主ヲ一切ノ責任外ニ在ルモノト爲スコトヲ規定スルノ要アリ君主ハ公人ニシテ君主ヲ組成スル人ハ私人ナリ從ヒテ君主ニ統治行爲



アレトモ私行爲ナク君主ヲ組成スル人ニ私行爲アレトモ統治行爲ナシ君主カ自己ヲ組成スル人ノ私行爲ヲ問責スルトキハ遂ニハ統治者ヲ組成スル人ヲ失ヒテ統治者ヲ滅没スル所ノ結果ヲ生スルカ否ラサレハ問責力ヲ失フニ至ルヘキモノナルカ故ニ神聖不可侵ノ規定ヲ設ケテ君主ヲ組成スル人ノ私行爲ニ付テモ君主ヲ責任ノ外ニ在ルモノト爲スヲ必要トスルモノナリ君主ヲ組成スル人ノ私行爲ニ付テ君主ヲ責任ノ外ニ在ルモノトスト言フハ君主カ君主ヲ組成スル人ノ私行爲ノ責任ヲ問ハスト言フ義ナリ

清水博士(第一〇版憲法篇三三三頁)ノ説

憲法第三條ニ天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラストアリ本條ノ天皇トハ統治權ノ主體タル天皇ヲ指スモノニアラスシテ一個人トシテノ天皇ヲ指スモノナリ

ブルンチユリー(國家論第四卷第二章)ノ説

現今ノ君主ヲ以テ無責任ナリト爲スハ政略上頗ル重要ナルモノナレトモ理論上ニ在リテハ必要ニアラス

統治者ノ統治行爲ニ於ケル神聖不可侵ハ法學上規定ヲ要セスシテ當然ノ事ナルハ既ニ説論シタル所ナレトモ統治者ニ非サル國王ノ統治作用ニ於

ケル神聖不可侵ハ法學上規定ヲ要スルコトナルヲ以テ諸國憲法ノ神聖不可侵ノ規定ハ其多クハ統治行爲及私行爲ノ兩面ヲ網羅スルモノナリ

佛蘭西一七九一年憲法第五八條

國王ハ神聖ニシテ冒瀆スヘカラス

同一八一四年憲法第一三條

國王ハ冒瀆スヘカラサルモノニシテ神聖ナリ

奧地利憲法第四篇第一章

皇帝ハ神聖ニシテ侵スヘカラス又實ニ任スルコトナシ

白耳義憲法第六三條

國王ノ身體ハ侵スヘカラス

瑞典憲法第三條

國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵スヘカラス責任アルコトナシ

西班牙憲法第四二條

國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵スヘカラス又責任ヲ負フコトナシ

和蘭憲法第五三條

國王ハ侵害スヘカラス

第二章 統治權ノ主體 第五節 統治者ノ義務



伊太利憲法第四條

國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

丁抹憲法第一二條

國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵スヘカラス國王ハ責任ニ任セス

普魯西憲法第四三條

國王ノ身體ハ侵スヘカラス

統治者カ統治行爲ニ就キ國民ニ對シテ責任ヲ負サルハ國民カ統治者ニ對スル羈束者ニ非サルカ爲ニシテ法ノ結果ニ非ス神聖不可侵ヲ論スル者多シト雖モ其等ノ人ノ説ニ依ルトキハ統治者ハ法律上ノ責任ヲ負ハスト言フニ在ルカ故ニ法律上ノ責任ヲ負ハサレトモ法律外ニ於テハ責任ヲ負フト言フコトニナルヲ以テ法律外ニ於テハ統治關係上當然責任ヲ負フモノナリト云フ論結ヲ生スヘシ統治者ハ統治權ヲ完行スヘキ義務ヲ負フモノナレトモ國民ノ羈束スルコトヲ得ル義務ニ非サルヲ以テ國民ニ對シテ責任ヲ負フモノニ非ス從ヒテ統治者ハ統治行爲ニ就テハ法律ニ依リテ責任

ヲ負ハサルノミナラス統治關係上當然無責任即チ神聖ナリ統治者ヲ組成スル所ノ自然人ノ私行爲ニ就テハ自然人タル責任ヲ有スルモノナルカ故ニ法ヲ以テ其責任ヲ除却スルニ非サレハ無責任即チ神聖トナルモノニ非ス憲法ハ實ニ統治者ヲ組成スル自然人ノ私行爲ニ關スル責任ヲ除却シテ神聖不可侵ト爲シタルモノナリ

伊藤公(憲法概論五頁)ノ説

天地剖判シテ神聖位ヲ正ス蓋天皇ハ天縱惟神至聖ニシテ臣民群類ノ表ニ在リ欽仰スヘクシテ干犯スヘカラス故

ニ君主ハ固ヨリ法律ヲ敬重セサルヘカラス而シテ法律ハ君主ヲ責問スルノ力ヲ有セス獨不敬ヲ以テ其身體ヲ干

瀆スヘカラサルノミナラス併セテ指斥言議ノ外ニ在ル者トス

穂積八束博士(憲法提要二〇四頁)ノ説

天皇ノ身位ハ即チ天祖ノ靈位ナリ統治ノ大權ハ即チ天祖ノ威稜ナリ天縱惟神萬世相承ケ一系易ラス至神至聖仰

クヘク犯スヘカラス民族ノ之ヲ崇拜スル其始祖ノ在スカ如シ國體正ニ此ニ在ス

上杉博士(帝國憲法述義二〇四頁二〇五頁)ノ説

憲法第三條ハ天皇ハ主權者ナルカ故ニ當然法律上ノ責任ヲ負ハサルコトヲ明ニシタルモノニシテ歐洲君主諸國

ノ如ク本來君主ハ責任ヲ負フモ其責任ヲ盡サシムルトキハ國家自體ヲ危カラシムルニ至ル虞アルヲ以テ免除シ

タルモノトハ異ナルナリ



以上論シタル如ク統治者ニ對シテハ問責權ヲ有スル者ナキヲ以テ統治者  
カ統治權完行ノ義務ニ違フコトアリト雖モ責任ヲ生スルモノニ非ス責任  
ヲ生スルモノニ非ストセハ何人モ統治者ニ對シテ其失政ヲ批議論駁スル  
コトヲ得サルモノナリ國民及領土在留人類ハ統治者ニ對シテ服從ノ義務  
アリ殊ニ國民ハ忠君ノ義務アリ責任ナキ君主ノ行爲ヲ批議論駁スルハ服  
從殊ニ忠君ト相容ルルモノニ非ス之ヲ以テ余ハ國民及領土在留人類ハ君  
主ノ失政ヲ論難スルコトヲ得スト爲スモノナリ

凡ソ統治行爲ノ過誤ニ基ク政治論ハ統治行爲ノ過誤ヲ前提トシテ統治機  
關ノ輔弼責任ヲ論スルモノナリ又統治機關ノ輔弼責任ヲ論スルニハ統治  
行爲ノ過誤ヲ前提スルニ非サレハ能ハサルコトナリ其故ニ政治論ヲ爲ス  
ニハ統治行爲ノ過誤ヲ前提トスルコトヲ得ルモ之ヲ以テ統治者ノ神聖不  
可侵ヲ破ル批議論駁トナル所ノ行爲アルヘカラス

統治者カ自己ノ統治行爲ニ就テ臣下ニ自由論評ヲ許容シタリトセハ臣下

ハ自由ニ統治者ノ統治行爲ノ當否ヲ論評スルコトヲ得サルニ非サレトモ  
未タ斯ル論評ヲ許容シタルコトヲ聞カス統治權ノ性質上斯ル論評ヲ許容  
シ得ルモノナリヤ之ヲ許容シ得サルモノナリトセハ言論ノ自由ヲ束縛ス  
ルモノニ非ス言論ノ自由ナキモノナリ論者ハ統治行爲ハ國家行爲ニシテ  
君主行爲ニ非サルヲ以テ統治行爲ニ就テ論評スルモ君主行爲ヲ論評スル  
モノニ非サルカ故ニ差支ナシ君主行爲ニ就テハ論議スヘカラスト言フモ  
余ハ統治權ノ性質上服從者ハ統治者ノ統治行爲ヲ論評スルコトヲ得スト  
爲スモノナルカ故ニ假令統治者カ其論評ヲ許容スルコトアルモ其論評ハ  
忠君ノ義務ト容レラレサルヲ以テ臣民ハ努メテ之ヲ避ケサルヘカラスト  
論スルモノナリ論者ノ說ノ如ク國家カ統治者ニシテ君主カ其機關ナリト  
セハ余ハ其所謂國家行爲ニ就テハ論評スルコトヲ得サルモ機關作用ニ就  
テハ論評スルコトヲ得ト爲スモノニシテ論者ト全然立論ノ根據ヲ異ニス  
ルモノナリ從ヒテ其所謂國家行爲ニ就テ論評スルコトヲ得サルハ統治權



ノ本質ヨリ生スル結果ナルヲ以テ論評禁制ノ規定ヲ要セサレトモ機關作用ノ論評禁制ハ規定ヲ要スルナリ然レトモ余ハ國家ヲ以テ統治權ノ主體ト爲サス君主又ハ貴族ヲ以テ統治權ノ主體ト爲スモノナルカ故ニ其統治者タル君主又ハ貴族ノ統治行爲ニ就テハ服從者ハ論評スルコトヲ得スト論スルモノナリ假令論者ノ論スル如ク君主ノ大權ノ行動カ國家行爲ト爲ルモノトスルモ其所謂國家行爲ノ當否ハ君主ノ大權ノ行動ノ當否ニ因ルヲ以テ其國家行爲ノ當否ヲ論評ハ取モ直サス君主行爲ノ當否ヲ論評スルコトナリ君主行爲ノ當否ヲ論評スルコトヲ得トセハ君主ニ責任アルコトヲ前提セサルヘカラス論者カ君主ノ大權ノ行動ニ就テハ之ヲ論評シ得ルモ君主ノ一身ニ於ケル私行爲ニ就テハ之ヲ論評スルコトヲ得スト言ヘルハ君主ハ大權ノ行動ニ就テハ責任ヲ有スレトモ其一身ノ私行爲ニ就テハ神聖ナリト言フコトニ歸シ余ト大ニ其見ル所ヲ異ニス君主ノ大權行爲ハ今モ述ヘタル如ク統治權ノ本質上服從者ノ論評スルコトヲ得サルモノナ

ルヲ以テ君主タル統治者ニ責任ナキモ君主ノ私行爲ニ就テハ君主ヲ組成スル所ノ個人ノ行爲ナルヲ以テ其君主ヲ組成スル所ノ個人ハ其責任ヲ有ス從ヒテ何人モ其個人行爲ニ對シテ服從關係ヲ有セサルカ故ニ之ヲ論評スルハ其自由ナル筈ナリ然レトモ其個人ハ君主ヲ組成スル所ノ個人ナルヲ以テ統治者ト其統治者ヲ組成スル所ノ個人トハ一體兩面ヲ成ス不可分關係ニ在ルモノナルカ故ニ其個人ノ行爲ヲ論難抗擊スルコトハ統治者ノ尊嚴ヲ冒瀆シ君臣ノ親和ヲ缺キ以テ統治ノ妨害ヲ爲ス虞アルカ故ニ其論評ヲ禁制スルノ要アリ之ヲ禁制スルニハ統治者ヲ神聖不可侵トシ一切ノ責任ノ外ニ在ルモノト爲スニ在リ其神聖不可侵トシ一切ノ責任ノ外ニ在リト爲スニハ其行爲カ統治行爲ト異ナルヲ以テ當然其効力ヲ有スルモノニ非サルカ故ニ法規ヲ要ス各國憲法ニ君主ノ神聖不可侵ヲ規定シタルハ之カ爲ナリ

憲法第三條ニ天皇ノ神聖不可侵ノ規定ヲ爲シナカラ別法ニ於ケル天皇ノ統治行爲論評者ニ對スル制裁規定ノ不完



備ナルハ輔弼機關ノ不心得ナリ

美濃部博士(憲法講話九三頁九四頁)ノ説

神聖不可侵ハ憲法ノ明文ヲ待タズ古來國民ノ確信ナリ憲法ハ之ヲ表明シタルニ過キス憲法ノ「天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス」トハ職解ニモ言ヘル如ク「指斥言議ノ外ニ在ル」ト言フ意ナリ即チ天皇ハ無責任ナリト言フコトナリ天皇御自身ニ對シテハ何人モ之ヲ非議難スルコトヲ得ス天皇ヲ非難スルコトハ許スヘカラサル不敬ノ罪ナリ

同博士(太陽第一九卷第六號近時ノ政界ニ於ケル憲法問題)ノ説

若シ君主ノ大權ニ就テハ臣下カ喉ヲ容レルコトヲ得ス批評スルコトヲ得ストセハ一切ノ政治上ノ議論ハ全ク禁遏セラレテ言論ノ自由ハ絕對ニ束縛セラレルコトナルナリ大權ノ行動ハ凡テ君主カ國家ヲ代表セラレテノ行動ニシテ即チ國家ノ行動ニ外ナラス國家ノ行動ハ至尊ノ御一身ノ行動トハ明ニ區別セサルヘカラス至尊ノ御一身ノ行動ハ固ヨリ臣下ノ論議シ得ヘキ所ニ非ス國家ノ行動ハ專ラ國民福ニ適合セサルヘカラサルモノナルヲ以テ論評シ得ルコトヲ憲法ニ於テ公認セリ

神聖不可侵ノ範圍

統治者ノ無責任タル私行爲ハ獨刑事行爲ノミニ非ス民事其他一切ノ人間行爲ヲ包容スルモノナリ私行爲ヲ無責任トシテ統治者ヲ神聖不可侵ト爲ス所以ハ前ニモ述ヘタル如ク君主ヲ組成スル個人カ私行爲ノ爲ニ責任ヲ負フトキハ累ヲ統治者ニ及ホシ統治者ノ尊嚴ヲ冒瀆シ君臣ノ親和ヲ缺キ

統治ノ妨害ヲ爲スヘキ虞アルニ因ルナリ然ルニ君主ヲ組成スル個人カ刑事行爲ニ付キテ責任スルトキハ斯ル虞アルモ民事其他ノ行爲ニ付テ責任ヲ負フモノトスルモ斯ル虞アルコトナキカ故ニ君主ノ神聖不可侵ハ刑事行爲ニ付テノミ之ヲ言フモノナリト爲ス者多シ

凡テ責任ハ強行ヲ伴フモノナリ君主ヲ組成スル個人カ刑事責任ノ強行ヲ受クルハ君主タル統治者ノ尊嚴ヲ冒瀆スルモ民事責任ノ強行ヲ受クルハ君主タル統治者ノ尊嚴ヲ冒瀆スルコトナシトスル論據ヲ存セス事實上統治者ヲ組成スル個人ニシテ民事義務ノ不履行者又ハ不法行爲者タル者ナカルヘシト雖モ法學上ヨリ見タルトキハ統治者ヲ組成スル個人タリトテ義務ノ不履行者タリ得ヘク不法行爲者タリ得ルモノナリ其場合ニ於テ其統治者ヲ組成スル個人ニ對シ強制スルコトアルモ果シテ統治者ノ尊嚴ヲ冒瀆スルコトナシトスルカ論者ハ責任ト義務トヲ混スルモノニ非スヤ統治者ト雖モ義務ヲ免カルルコトヲ得ルモノニ非ス統治者ハ統治權完行ノ



義務ヲ有スルモノナリ其統治者ヲ組成スル個人ハ刑罰法ニ觸レサルコトヲ努ムル義務アリ又民事其他ノ行為ヨリ生スル義務ヲ有スルハ當然ナリ責任トハ其義務ヲ破リ若クハ其義務ヲ怠リタル場合ニ強行ヲ受クルコト即チ服從セサルヘカラサルコトノ義務ヲ言フモノナリ統治者ヲ組成スル個人カ民事其他ノ行為ヨリ生スル義務ヲ破リ又ハ義務ヲ怠リタル場合ニ強行ヲ受クルモノトセハ結局統治者ハ服從ノ義務ヲ負フト言フ奇態ヲ呈シ且ツ統治者ノ尊嚴ヲ冒瀆シテ統治ノ妨害ヲ來タスコト少少ニ非サルナリ

フリーバント(獨逸國法論第二卷四八頁)ノ説

君主ノ不可侵ハ刑事ニ止マリ民事ニ及ハス

ザイテル(巴國國法論第一卷一七一頁一八四頁)ノ説

同論

フランケン(獨逸私法論八四頁)ノ説

同論

シユルツェー(獨逸國法論第一卷八三頁)ノ説

同論

グ、マイヤー(獨逸國法論八四頁)ノ説

同論

美濃部博士(憲法講話九七頁)ノ説

君主ノ無責任ハ民事關係ニ及ハス皇室財産令ニ規定アリ又外國ニ於テモ皆之ヲ認ム

清水博士(憲法篇七四頁)ノ説

民事責任ハ天皇ノ尊嚴ヲ害スルコトナキヲ以テ不可侵ノ外ニ在リ

同博士(第一〇版憲法篇三二六頁)ノ説

君主ハ民事上ニ於テモ無責任ナリト考ル人アリト雖モ之レ誤ナリ……民事上ノ責任ハ憲法第三條ノ適用ヲ受ケルモノニアラサルナリ

ウコツツエル(通常民事訴訟手續論三九號)ノ説

君主ハ民事裁判ヲ受クルモノニ非ス

上杉博士(第一三版憲法述義二八四頁)ノ説

天皇ハ民法、商法、刑法其他臣民ニ適用セラルヘキ法規ノ適用ノ外ニ在リマス

皇室財産令第三條ノ規定ニ依レハ「民法第一編乃至第三編商法及附屬法令

第二章 統治權ノ主體 第五節 統治者ノ義務



ハ皇室典範及本令其他ノ皇室令ニ別段ノ定ナキトキニ限り御料ニ關シ之ヲ準用ス「トアリ」準用「トアル」ヲ以テ憲法第三條ノ神聖不可侵ノ規定ニ牴觸スル規定ヲ除外セサルヘカラス同令第二條ノ規定ニ依レハ「御料ニ關スル法律上ノ行爲ニ付テハ宮内大臣ヲ以テ其當事者ト看做ス」トアルヲ以テ宮内大臣カ御料ニ關シテ當事者トナルハ法律上ノ行爲ニ限ルモノナルカ故ニ天皇ヲ組成スル個人ノ責任行爲ノ當事者トナルモノニ非サルコト明カナリ宮内大臣ヲ組成スル個人ノ責任行爲ハ其個人トシテ當事者トナルモノナリ從ヒテ宮内大臣カ御料ヲ保管スルモノナルカ故ニ其部下又ハ財産ヨリ責任原因ヲ生シタルトキハ宮内大臣ヲ組成スル個人ノ責任タルモノナルカ故ニ其個人トシテ當事者タルモノナリ如何ナル場合ニ於テモ天皇カ民事上ノ責任者タルコトナシ

上杉博士(第一三版憲法述義三八五頁)ノ說

御料ナルモノハ私法上ノ意味ニ於ケル財産ヲハアリマセヌ私法ノ適用ヲ受クヘキモノヲハナクシテ唯々便宜上

私法ノ規定ヲ準用スルノテアル

以上説論シタル所ヲ要言スルニ責任ナルモノハ義務違背ニ因リテ生シタル義務ナリ其故ニ責任ハ羈束者ニ對スル義務ナラサルヘカラス統治者ハ道德ニ因リテ統治權ヲ完行セサルヘカラサルモノナレトモ羈束者アルコトナシ從ヒテ統治者ハ國民ニ對シテ統治完行ノ義務ヲ有セサルモノナルカ故ニ國民ニ對シテ其不完行ノ責任ヲ負フモノニ非ス國民ニ對シテ責任ヲ負フモノニ非サルヲ以テ國民ニ對シテハ神聖不可侵ノ地位ニ在ルナリ然レトモ統治者ヲ組成スル個人トシテハ私人行爲ヲ爲スモノナルカ故ニ義務ヲ負フハ勿論責任ヲ負フ道理ナリ乍併個人トシテ責任ヲ負フトキハ一體兩面ノ不可分關係ノ地位ニ在ル統治者ノ尊嚴ヲ冒瀆シテ統治ノ妨害トナルモノナルカ故ニ其私人行爲ニ於テモ一切ノ責任ヲ負ハサルコトト爲スヲ必要トス其統治行爲ニ就テ責任ヲ負ハサルハ統治者本來ノ性質ニシテ其私人行爲ニ就テ責任ヲ負ハサルハ制度ノ結果ナリ



### 第三章 統治權ノ客體

#### 第一節 客體ノ本質

客體 (object, object) トハ如何ナル意義ヲ有スルモノナリヤ諸説區區ニシテ殆ント通説トシテ見ルヘキモノナシ或ハ法律關係ノ受働的地位ニ在ル人ヲ意味シ或ハ權利ノ目的タルヘキ人及物ヲ意味シ又或ハ義務者ヲ意味スル者アリテ客體ノ意義頗ル不得要領ナリ

統治權ノ客體ヲ論スルニ當リテ其客體タルヘキ内容ニ幾多ノ相違アルハ要スルニ客體ノ意義ヲ明カニセサル結果ナリ統治權ノ行使ノ相手方タルヘキ者ヲ客體ト爲スニ在ルトキハ其客體タルヘキ者ハ人格者ナラサルヘカラス從ヒテ國民ハ勿論領土在留ノ人類及外國統治者其他全世界ノ人類ハ皆客體タルモノナリ此場合ニ在リテハ領土其他ノ事物ハ客體タルコトナシ又統治權ニ服従スヘキ者ヲ客體ト爲スニ在ルトキハ國民及領土在留



ノ人類ハ凡テ客體タルモノナリ此場合ニ在リテモ領土其他ノ物ハ客體タルコトナシ又統治權ノ行使ノ目的タルモノヲ客體ト爲スニ在ルトキハ人格者ハ勿論其目的ヲ達スルニ必要ナル物ハ凡テ客體タルモノナリ此場合ニ在リテハ領土其他ノ物ハ盡ク客體タルモノトス然ラハ統治權ノ客體ハ之ヲ如何ナル意義ニ定ムルヲ以テ其正當ナルモノト爲スカ抑モ客體ナル語ハ主體ナル語ニ對シテ用フルモノナルヲ以テ主體ヲ權利者トスレハ客體ヲ義務者ト爲スヘキカ當然ノ道理ナリ然レトモ統治權ハ道德ノ履行即チ國家ヲ維持スル力ナルヲ以テ統治權ノ行使ハ諸種ノ行爲ニ表現スルモノナリ其故ニ統治權ノ客體ハ獨義務者タルノミナラス義務者外ノ人格者ハ勿論物ヲモ併セテ客體ノ内容ト爲スヘキモノナリ其故ニ余ハ統治權ノ客體ヲ斯ノ如キ意味ニ解シテ左ノ如ク定義セントスル者ナリ

統治權ノ客體トハ統治權行使ノ目的タル人格者及物ナリ

ザイテル(巴國國法論第一卷五二七頁)ノ説

領民及領土ハ統治權ノ客體ナリ

プリー(國家聯結論一三頁)ノ説

同論

ラーバンド(獨逸國法論第一卷二二號)ノ説

同論

ホルンハツク(普國國法論第一卷二二四頁)ノ説

同論

ハイムブルゲル(領土高權取得論第一卷二六頁)ノ説

同論

クラウス(國家役務論一七三頁)ノ説

同論

ローシン(公共團體法論四六頁)ノ説

統治權ノ客體ハ人民ナリ領土ハ其客體ニ非ス

アツフォルテル(一般國法學一四頁)ノ説

同論

プロイス(市町村國家及帝國論一七八頁)ノ説

統治權ノ客體タルモノハ奴隸及物ニ限ルナリ

第三章 統治權ノ客體 第一節 客體ノ本質



ゲ、マイヤー(獨逸國法論第七四號)ノ説

統治權ノ客體ハ人及人ノ集合體ナリ

ゲルバー(獨逸國法概論六五頁)ノ説

土地ハ統治權ノ客體ナリ

レオニー(エルサス、ロートヴィンゲン公法論一二頁)ノ説

同論

穂積八束博士(憲法提要二九五頁)ノ説

統治權ノ及フ所之ヲ客體ト云フ國土及國民ハ統治權ノ客體ナリ

織田博士(法學通論一二五頁)ノ説

統治權ノ客體トハ統治權ノ行ハルル限界ニシテ國土及人民(臣民又ハ國民)ナリ

市村博士(憲法要論二四六頁)ノ説

統治權ノ客體ハ人及人ノ集合體ナリ

清水博士(憲法篇一九頁)ノ説

帝國憲法第一條三「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」トアルカ故ニ帝國カ統治ノ客體タルコト明カナリ

三緒博士(法學通論二五頁)ノ説

凡ソ法的關係ハ人格者間ノ關係ナリ人格ナキ物ニ過キサレ領土ニ對シテ力ヲ及ボストハ何ノ謂タルヲ知ラス主權ノ客體ハ人民ナリト答フレハ足ル

## 第二節 國家

國家ハ前ニ論シタル如ク一定ノ土地ニ基在シ統治ノ目的タル人類ノ統合體ナリ統治權ハ此統合體タル國家ヲ維持スル力ナルカ故ニ國家ヲ維持スルコトヲ以テ統治權ノ最大目的ト爲スモノナリ從ヒテ國家ハ統治權ノ客體中ノ客體タルモノナリ

清水博士(憲法篇一九頁)ノ説

憲法第一條三曰「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」ト故ニ統治權客體ノ帝國タルコトハ憲法上明カナリ

同博士(第一〇版憲法篇三八九頁)ノ説

帝國ヲ以テ統治權ノ客體ト爲セルモノニアラス統治權ノ客體ハ領土及ヒ臣民ナリトス

## 第三節 領土

領土 (Staatsgebiet, Territory) ヲ以テ國家組織ノ要素ト爲ス者アレトモ其誤ナルコトハ既ニ説述シタル所ナリ領土ハ統治權ヲ行フ本陣ニシテ土地及河



海等ヨリ成ル一定ノ場所ナリ一ニ之ヲ版圖又ハ國土トモ稱ス其領土ト言フハ統治權ヲ以テ其一定ノ土地及河海等ヲ領有スルカ爲ナリ其領有ト言フハ統治權ニ依リテ領得シ保有スルノ意ナリ諸説多クハ專占セル土地ヲ以テ領土ナリト爲セリ專占セル土地ヲ以テ領土ノ意義ナリトセハ敵國ノ全部又ハ一部分ノ占領ヲ以テ領土ナリト爲スヲ得ヘシ然レトモ敵國ノ全部又ハ一部分ノ占領ハ占有ナルモ領有タルコトナシ又統治權ノ及フヘキ土地ヲ以テ領土ノ意義ナリトセハ右ノ占領地ハ勿論租借地及治外法權ヲ有スル地ハ皆領土ナリト言フコトヲ得ヘキモ其然ラサルモノナルコトハ論ヲ俟タス要スルニ領土タルモノハ統治者カ統治權ニ依リテ領得シ保有スル所ノモノナラサルヘカラス其領得シ保有スト言フハ統治者カ或一定ノ土地ヲ自己ノ統治權ニ歸屬スルモノニシテ他ノ統治權ニ歸屬セサルコトナリ自己ノ統治權ヲ他ノ統治權ニ歸屬スル土地ノ上ニ行フコトアルモ其土地ヲ自己ノ統治權ニ歸屬セサルトキハ之ヲ自己ノ領土ト言フコトヲ

得ス又他ノ領土ニ自己ノ統治權ヲ行フコトノアルカ如ク自己ノ領土ニ他ノ統治權ヲ行フコトナキヲ保セス此場合ニ在リテモ其土地カ他ノ統治權ニ歸屬セサルトキハ自己ノ領土タリ之ヲ以テ領土ハ他ノ統治權ノ入ルコトヲ得サルモノト爲スコトヲ得ス強キ統治權ハ弱キ統治權ニ歸屬セル領土ノ上ニ行ハルルコトハ常ニ見ル所ニシテ事實上又法學上統治權ハ自國外ニ出ツルコトナシト論スルコトヲ得サルモノナリ若シ統治權カ各其自國領土外ニ出ヅルコトナキモノトセハ國際關係ヲ生スルコトナク戰爭ヲ爲スコトナシ

斯ノ如ク領土ハ統治權ニ歸屬シ領得保有スル一定ノ土地及河海等ニシテ統治ノ本陣タル場所ナルカ故ニ統治者カ國家ヲ維持スル爲メ領土ノ上ニ統治權ヲ行使スルモノナルヲ以テ領土ハ統治權ノ客體タルモノナリ

マルテンス(國際法論第一卷第八節)ノ節

版圖トハ地球表面ノ一部即チ陸ト水トカ一國ノ專占の權力ニ歸スルモノナリ

第三卷 統治權ノ客體 第三節 領土



グ、マイヤー(獨逸國法論第七四號)ノ説

領土ハ統治權ノ客體ニ非スシテ國家統治權ノ行ハルル領域タルモノナリ

ローザン(公法組合論四六頁)ノ説

領土ハ統治權ノ行使範圍ヲ定ムル地球ノ一部分ナリ

穂積八束博士(憲法提要一六頁)ノ説

領土トハ民族ノ據リテ以テ國ヲ成ス土地ニシテ他ノ權力ノ侵犯ヲ防キ自己ノ專占スルモノノ義ナリ

寛博士(國家之研究二四二頁)ノ説

領土トハ他人ノ力ヲ排斥シ自己ノ力ヲ行ヒ得ル土地ノ統一的ナル範圍ヲ言フモノニシテ之レ在ルカ爲ニ完全ナル普遍的現實生活ヲ營ミ得ルナリ

上杉博士(憲法述義二二三頁二四頁)ノ説

領土ノ國法上ノ意義ハ統治權外ノ權力ノ領土内ニ存在スルコトノナキコトナリ又領土外ニ於テハ主權ノ行ハレサルコトナリ領土ハ物カ所有權ノ目的ナリト言フカ如ク主權ノ目的ナリト言フニ在ルナリ

同博士(憲法綱領二二頁二三頁)ノ説

領土ハ主權ノ行ハルル範圍ナリ普ネテ領土内ニ行ハレテ行ハサルナク領土外ニ行ハレス領土ハ臣民分限ヲ定ムル根據ナリ

同博士(第一三版憲法述義四九頁)ノ説

國家ノ構成要素トシテ一定ノ土地ヲハ領土ト云フノテアリマス

織田博士(法學通論一二五頁)ノ説

國土ハ統治權ノ及フヘキ一定ノ土地ナリ内ハ一切ノ人民ヲ統治シ外ハ他國主權ノ入ルヲ許ササルニ在リ

市村博士(帝國憲法論三五頁)ノ説

領土ハ當該國家ノ統治權カ當然ニ行ハルル地域範圍ヲ指スモノナリ

遠藤博士(明大講義國法論一二四頁)ノ説

領域トハ一國ノ主權カ行ハルル地球表面上ノ一定ノ區域ナリ

立博士(平時國際公法六四頁)ノ説

領土トハ國家ノ領土權ノ目的タル土地(及水域)ヲ謂フ

三浦博士(法學通論二六頁)ノ説

領土トハ主權カ活動スル舞臺ナリ

### 第四節 租借地

租借地トハ他國領土ノ一部ヲ定期又ハ無期ニ借入レテ統治權ヲ行フ土地ナルカ故ニ自國領土ニ非サレトモ自己統治權ノ客體タルモノナリ



### 第五節 占領地

占領地トハ他國領土ノ一部分又ハ未成國ノ地ヲ一方意思ニ依リ握有スル土地ナルカ故ニ自國領土ニ非サレトモ自己統治權ヲ行フモノナルヲ以テ自己統治權ノ客體タルモノナリ

### 第六節 船舶

船舶ト言フハ軍艦及商船其他一切ノ船艦ヲ總稱スルモノナリ國際法學界ニ於テハ船舶ヲ以テ其所屬國ノ浮動的領土ナリトセリ船舶ハ公海ニ在リテモ他國領域内ニ在リテモ其所屬國ノ統治者ノ支配ヲ受クルコト國民ト異ナルコトナキヲ以テ統治權ノ客體タルモノナリ然レトモ船舶ヲ以テ其所屬國ノ浮動的領土ト爲シ又ハ領土ノ延長ト爲スハ餘リ技巧ニ過キタル說ナリ船舶ヲ以テ統治權ノ客體ト爲スニハ何等カ特別ノ理由ヲ存スルヤ

### 義人格ノ意

ノ威アレトモ船舶ハ形態ノ偉大ナルト交通ノ要具ナルトヲ以テ特ニ客體論ノ組上ニ横ハルノミ其他領土ニ在ル財産ハ勿論領土外ニ在ル統治者又ハ自國民ノ財産殊ニ飛行機及飛行船等ヲ客體論ハ學題タルモノナリ

### 第七節 人格者

統治權ノ客體タル人格者トハ如何ナル者ヲ言フヤト言フニ統治權ノ行使ヲ受クル所ノ受働的身分ヲ有スル者ノ全員ナリ

#### (一) 人格

道德ハ人類(Menschen, Human)ノ生存行爲ノ天則ニシテ統治ハ人類ノ生存行爲ノ天則タル道德ノ厲行ナリ其故ニ道德界ニ在リテハ道德上ノ當事者ナカルヘカラス又統治界ニ在リテモ統治上ノ當事者ナカルヘカラス道德界ニ於ケル道德上ノ當事者タルヘキ者ハ人類ニ限ルナリ其人類タル資格ヲ稱シテ人格(Personality, Persönlichkeit)ト言フ其道德界ニ於ケル道德上ノ當



事者タルヘキ人類ノ資格即チ人格ヲ有スル者ニ限リ統治界ニ於ケル統治上ノ當事者タルコトヲ得ル者ナリ諸學者ノ人格ニ關スル所説ハ未タ完全ナリト言フコトヲ得ス國家ニ對スル個人ノ資格ヲ以テ人格トスルハ僅カニ人格表現ノ一部面ニ過キス權利能力又ハ權利主體ヲ以テ人格トスルモ亦人格ノ全面ヲ言表シ得タルモノニ非ス生存及自主ノ目的ヲ有スル主體ヲ以テ人格ト爲スハ廣キニ失セリ生物體ハ凡テ生存ノ目的ヲ有スル主體ナリ生存ノ目的ヲ有スル主體ハ自主ノ目的ヲ有スル主體ナリ其故ニ生存及自主ノ目的ヲ有スル主體ヲ以テ人格トスルトキハ凡テノ生物體ハ皆人格ヲ有スルコトトナルナリ人類ノミ生存及自主ノ目的ヲ有スル主體ナリト觀念スルハ人類ノ誇狂症ノ發作ニシテ他生體ノ抱腹ニ堪ヘサル所ナルヘシ法學上人格ヲ論スルトキハ統治關係ニ立チ得ル當事者タル人類ノ資格ヲ以テ人格トセサルヘカラス余ハ此意義ニ於テ人格ヲ下ノ如ク定義スル者ナリ

人格トハ天則ノ一節タル人格支配令ナル道德ノ客體タル人類ノ人類タル資格ヲ統治化シテ統治權ノ客體ト爲シタル人類ノ資格ヲ言フモノナリ

人格ハ唯一不可分ナレトモ子ノ出生ナル分體ニ因リテ分割スルコトアリ然レトモ其分體ニ因リテ延長連存シ爾カモ各個主體ノ人格ノ唯一不可分タル原則ハ嚴乎トシテ動クコトナシ

デルンブルヒ(バンテクテン第一卷第四九節)ノ説

人格トハ權利ノ主體タルコトナリ

ギルケー(獨逸私法論第三〇章)ノ説

人格トハ權利ノ主體タル能力ナリ

オ、マイヤー(獨逸行政法論第四卷第五節)ノ説

人格トハ他ノ人ニ對シ法ニ依リテ秩序ヲ保有シ得ル關係ニ立チ得ヘキ能力ナリ

エリネツク(公權論總論第三節第七節)ノ説

人格トハ權利ノ主體タル能力即チ權利能力ヲ言フ……人格トハ理論上個人ノ國家ニ對スル關係ニ付テノ個人ノ資格ナリ



續積入東博士(憲法提要四二頁三六二頁以下)ノ説

人格トハ法ノ認メテ保證スル自主ノ生存ノ主體ナリ

美濃部博士(日本國法學三一頁)ノ説

人格ト云フハ權利能力ト云フニ同シ即チ權利義務ノ主體トナリ得ヘキ能力ヲ云フ

同博士(國家學會雜誌第二六卷第九號國家及政體論)ノ説

法律上ニ於テ人ト云フハ利益ノ主體タリ意思ノ主體タル者ナリ

同博士(國家學會雜誌第三〇卷第七號拙著日本行政法上卷中ノ誤謬ニ就テ)ノ説

權利能力トハ自己ノ生存目的ヲ遂行スル意思ノ力ニシテ法律上ノ人格其モノニ外ナラス

清水博士(行政篇七三三頁)ノ説

人格トハ權利義務ヲ有シ得ル資格ナリ

鷗澤博士(法學通論三五五頁)ノ説

人格ハ人類全部ナリ

同博士(法律ト道徳トノ關係二一七頁)ノ説

天地ノ間ニ生チ享ケタル人ハ即チ人格ナリ

岡博士(行政法論綱五九頁)ノ説

人格トハ意志ノ因リテ發動スル本源ニ對スル名稱ナリ

市村博士(國家及國民論九四頁)ノ説

人カ人トシテ生存スル以上ハ必ス自主生存ノ目的ナカルヘカラス法カ其自主生存ノ目的ヲ認ムルニ依リテ法律上ノ人格トナルナリ

富井博士(民法原論一一七頁)ノ説

公權ハ或年齢ニ達セザレハ之ヲ享有スルコトヲ得サルモノ少カラスト雖モ私法上ノ權利能力ハ出生ト同時ニ發生スルモノトス(著者曰ク博士ハ人格ノ何タルコトヲ直言セザレトモ同書一一六頁ニ於テ權利能力ヲ以テ權利ノ主體ト爲シ又同書人格ノ發生ト言フ題下ニ於テ前記所説ヲ掲ケタルニ由リテ見レハ博士ハ權利能力ヲ以テ人格ト爲スニ在ルモノノ如シ)

仁保博士(京都法學會雜誌第一卷第六號人格權ヲ論ス)ノ説

人格トハ權利ノ主體タルコトヲ云フ

川名博士(日本民法總論三四頁)ノ説

人トハ權利能力ヲ有スル人間ヲ意味ス

松岡博士(民法論總則一四一頁)ノ説

權利主體タルコトヲ得ル資格ヲ有スル者ハ法律上人ニシテ又人タル資格ハ人格ナリ故ニ人格ハ權利タルコトヲ得ル資格ト同一ナリ

清水博士(第一〇版憲法篇二四頁)ノ説

人格トハ法ノ認メテ保護スル自主生存ノ主體タルノ謂ナリ

三浦博士(法學通論三一頁)ノ説



人格トハ權利義務ノ主體タリ得ヘキ資格ヲ謂フ

法學上人格ハ道德ノ客體タル人格ヲ統治化シテ統治權ノ客體ト爲シタル人類ノ資格ヲ言フモノナレトモ統治者カ國家維持即チ人格ノ共同生存ヲ保護スル必要上道德ノ客體タル人格ヲ統治化シテ統治權ノ客體ト爲シタル人格以外二人格者ヲ創設シテ之ヲ統治權ノ客體タル人格者ト爲スコトヲ得ルナリ斯ル人格者ノ實體ハ自然人類ノ集團タルコトヲ要スルモノナレトモ法制上或ハ或物體タルコトアリ或ハ或關係タルコトアリテ創設人格ノ實體ニ制限ヲ爲スコトナシ法學上創設人格ヲ稱シテ法設人又ハ法人ト言フナリ

生人格ノ發  
法產說

斯ノ如ク人格ハ天則ノ一節タル人格支配令ナル道德ノ客體タル人類ノ人類タル資格ヲ統治化シテ統治權ノ客體ト爲シタル人類ノ資格ヲ言ヒ又此人格ヲ維持スル必要上創作シタル法設人ヲ言フモノナルカ故ニ人格ハ之ヲ分チテ自然人類ノ人格ト法設人ノ人格トノ二トスルコトヲ得法設人ノ

人格ハ法ヲ以テ其人格ヲ附與シタルモノナレトモ自然人類ノ人格ハ法ヲ以テ之ヲ附與シタルモノニ非ス天則ニ依リテ具有スル人格ヲ統治化シタルモノナリ然ルニ從來ノ多數學說ニ依レハ人格ハ法ノ附與ニ因リテ始メテ生スルモノナルコトヲ論唱セリ法設人ノ人格カ法ニ依リテ附與セラレテ始メテ生スルモノナルコトハ余モ同見ナリ然レトモ自然人ノ人格カ法ニ依リテ附與セラレテ始メテ生スルモノナルコトハ同意ヲ表スルコトヲ得ス既ニ自然人ト言ヘルハ自然人ノ人格ハ法ニ依リテ附與シタルモノニ非ス自然ニ人格ヲ具備スルモノナルコトヲ認メタルカ爲ナリ或ハ法學上ノ觀念トシテハ自然人ナルモノナシト論スル者アレトモ法學上ノ觀念タリト雖モ法學上ノ資料ハ一モ之ヲ自然ニ仰カサルモノアルコトナキヲ以テ自然ヲ否定スルコトヲ得ス法學ハ自然ヲ基礎トシ自然ノ上ニ築上ケタル學問ナリ自然ヲ離レテ法學アルコトナシ自然人ノ人格ハ天有ナリ之ヲ統治化シテ統治關係上ノ人格ト爲シ法學觀シテ法學色ヲ塗付ケ之



ヲ法學的ニ説クモノナリ

エリネツク(公權論總論第三節第七節)ノ説

人格ハ物實界ニ屬スルモノニ非ス從ヒテ客觀的存在ヲ有セス常ニ法ニ依リテ與ヘラレルモノニシテ自然ニ存スルコトナシ國家カ法ノ保護ヲ求ムヘキ能力ヲ與フルニ因リテ人ハ始メテ人格者トナルカ故ニ國家ハ人格ヲ創作スルモノナリ

寛博士(國家之研究四四頁)ノ説

人格ハ天皇カ法律ヲ以テ認定シテ居ラレルニ依リ吾吾ハ之ヲ有スルモノニシテ生レナカラ當然之ヲ有シテ居ルモノニ非ス若シ御趣意ヲ變更セラレタルトキハ吾吾ハ人間ニ非サルコトトナルナリ

佐々木博士(行政法原論一二二頁)ノ説

人格即チ人トハ常ニ法上ノ觀念ナリ自然ニ存スルモノニ非ス之ヲ人類ノ義ト混同スヘカラス故ニ所謂自然人ナルモノモ全ク法上ノ觀念ニシテ法ニ依リテ生シタルモノナルコト毫モ所謂法人ト異ナルナシ

富井博士(法學志林第三一號法人ノ本性)ノ説

自然人ト雖モ當然人格ヲ有スルモノニ非ス之ヲ法律ニ享クルモノナルコト自自然人ニ異ナルコトナシ要スルニ人格ハ自然人タルト法人タルトチ間ハ法律ノ附與ニ因リテ生スルモノナリ

同博士(民法原論一八六頁一九三頁)ノ説

同論

平沼博士(民法總論一二〇頁)ノ説

人類ハ自然ニ發生スルモノナリ人ハ法律ニ由テ生ス人類カ人トナルハ法律カ是ニ權利享有ノ適格ヲ與フルカ爲ナリ

仁保博士(京都法學會雜誌第一一卷第六號人格權論)ノ説

吾人ハ決シテ法律ノ力ニ依ラスシテ當然權利ノ主格タルコトヲ得ス權利ノ主格即チ人格タルコトハ法律ニ依リテ吾人ニ授附セラレタル法的資格タルコトヲ斷スルニ躊躇セス

松本博士(人法人及物二九三頁)ノ説

人格ハ法律上ノ無形ノ觀念ニシテ法律ノ創設スル所タリ法律ハ法人ノ人格ヲ創設スルト同シク自然人ノ人格ヲモ創設ス此間ニ何等ノ軒輊アルコトナシ若シ法人ヲ以テ擬制ニ依ル人格者ト觀レハ自自然人モ亦然ラサルヲ得ス同博士(帝大民法講義)ノ説

自然ノ人ノ人格モ法人ノ人格モ皆法ノ作出物ナリ

鳩山博士(法學協會雜誌第二六卷第一一號法人論)ノ説

人格ナル觀念ハ法律上ノ觀念ナルカ故ニ法律カ人格ヲ賦與スレハ如何ナル團體如何ナル物ト雖モ法律上ノ人格者タリ

中島博士及川名博士(民法釋義二二〇頁二二二頁)ノ説

自自然人ハ自然ニ人格ヲ有シ法人ハ法律ニ依リ人格ヲ有スト解スヘカラス人格ノ源ハ共ニ法律ニ在リ

三浦博士(法學通論一七九頁)ノ説

自自然人ト雖モ肉體アルノ故ヲ以テ當然法律上ノ人格ヲ有スルノ理ナク法律カ之ヲ認メタルコトニ因リテ始メテ



法認説

權利義務ノ主體タリ得ルニ過キス法律ニ因リテ人格ヲ與ヘラレタル點ニ於テハ自然人モ法人モ別ニ異ナル所アルヲ見ス

人格ハ人類ノ自然ニ之ヲ具有スルモノナレトモ法ノ認知ヲ待チテ統治關係上ノ効果ヲ生スルモノナリト説ク論者アリ人格ノ法認説ハ人格ノ天有ヲ認ムルモノナルカ故ニ正論ナリ然レトモ此説ハ法カ其天有人格ヲ認知スルニ非サレハ法果ヲ生セサルモノト爲スニ在ルヲ以テ人格ヲ認知スル所ノ法ヲ制定セス又ハ其法ノ制定前ニ於ケル人類ハ人格ヲ認知セラレサルカ故ニ統治權ノ客體タルコトヲ得サル結果ヲ生スルニ至ルモノナルヲ以テ誤論ナリト言ハサルヘカラス

デルンブルヒ(パンテクテン第一卷第五九節六三頁)ノ説

社會的組織體ノ權利享有ノ狀態ハ其觀念ニ於テハ全ク自然人ニ同シキモノナリ擬制ニ非ス假設ニ非ス空想ニ非ス必ス之ニ照應スヘキ事實ノ實在セルモノナリ法律ハ其實在セル組織體ノ人格ヲ認知スルモノナリ

穂積八束博士(憲法提要四二頁四三頁三六二頁以下)ノ説

人格トハ法ノ認メテ保護スル自主ノ生存ノ主體タルモノナリ

美濃部博士(國家學會雜誌第二六卷第九號國家及政體論)ノ説

國家ヲ法人ナリト言フハ其實在現象カ法律上ニ認識セラレタルニ外ナラサルコトハ尙各個人カ法律上ニ利益ノ主體トシ意思ノ主體トシテ認識セラレタルト異ナルコトナシ

小野塚博士(政治學大綱上卷六四頁)ノ説

法律ノ眼中ニ於テハ人格ハ凡テ法律ノ認識ニ出ツ其自然人ト否トナ問ハス等シク法上ノ人格ナリ

市村博士(帝國憲法論二三頁)ノ説

人格ハ凡テ法ニ依リテ認メラルルニ至リテ初メテ存在スルモノナリ

岡博士(國家及國民論九四頁)ノ説

人カ人トシテ生存スル以上ハ必ス自主自存ノ目的ナカルヘカラス法カ其自主自存ノ目的ヲ認ムルニ依リテ法律上ノ人格トナルナリ

岡松博士(民法理由七二頁)ノ説

自然人ト雖モ人格アルニ非ス法ノ認ムルニ依リテ人格アリ

國家ハ強者カ多數人格者ノ共同生存ヲ保護スル爲メ其被保護者タル人格者ヲ集結シテ組成シ建立シタルモノナルカ故ニ國家前ニ人格者ナカルヘカラサル道理ナリ然ルニ人格ノ法產論及法認論ニ依ルトキハ法前ニハ人格者ナキヲ以テ國家ハ組成ノ要素タル人格者ヲ存セサルカ爲ニ建立スル

天產説



コトヲ得ス從ヒテ統治者ヲ存セサルカ故ニ法ヲ制定スル者ナク又法ノ存  
在シ得サルモノナルヲ以テ人格ヲ附與スルコトヲ得サルハ勿論人格ヲ認  
知スルコトヲモ得サルコトトナルナリ假ニ人格者ナキモ國家ヲ建立シ得  
ヘク統治者ノ出現アリテ法ヲ制定シ得ルモノトスルモ法ハ人格者ニ對シ  
テ行フ所ノ統治ノ手段ナルヲ以テ人格者ナキニ之ヲ行フノ術アルコトナ  
シ假シヤ自國民ニ對シテハ法ヲ以テ人格ヲ附與又ハ認知スルコトヲ得ト  
スルモ外國人及無國籍者ニ對シテ人格ヲ附與又ハ認知スルコトヲ得サル  
ヘシ又自國領土在留ノ外國人及無國籍者ニ對シテ人格ヲ附與又ハ認知ス  
ルコトヲ得トスルモ自國領土外ニ在ル外國人及無國籍者ニ對シテ人格ヲ  
附與又ハ認知スルハ不可能ノ業ナリ恐ラク何國ニ於テモ斯ル人格附與法  
又ハ人格認知法ヲ存スルモノアラサルヘシ然ルニ凡テノ人類ノ人格ヲ認  
メテ之ヲ否定セサルハ法ニ依リテ其人格ヲ附與シ又ハ認知シタルカ爲ニ  
非スシテ其生物體カ天有セル人格ヲ否認スルコトヲ得サルカ爲ナリ人格

ノ法産論及法認論ニ依ルトキハ法ヲ以テ人格ヲ附與セス又ハ認知セサル  
者ノ行爲ハ恰カモ風火ノ出來事禽獸ノ所爲ト同シク法學ノ祖上ニ登ホス  
ヘキ論材トナラサルモノナリ然ルニ法産論者及法認論者ハ人格ノ附與法  
又ハ認知法ノ存在セサルニ拘ハラズ自國民ヲ人格者トシテ論スルノミナ  
ラス外國人及無國籍者ノ有人格ヲ論シ自國民ト外國人又ハ無國籍者トノ  
間ニ法律行爲及違法行爲ノ起生スルモノナルコトヲ認ムルハ矛盾ノ甚タ  
シキモノナリアリストテレス(政治論第一篇第三章)モ國家前ニ人アルコト  
ナシ若シ在リトセハ其ハ禽獸ナルヘシ否ラサレハ神ナリト論シナカラ人  
類國家ノ建立ヲ認メテ禽獸國家又ハ神國家ノ建立ヲ認メサルハ自家撞着  
ノ謬論タルコトヲ告白シタルモノナリ

宇宙ニ於ケル天則ノ一節タル道德ハ人類ヲ支配スルモノナルカ故ニ道德  
ノ支配ヲ受クル者ハ必ス人類タル資格即チ人格ヲ具有スル者ナラサルヘ  
カラス人格ヲ具有セサル者ハ人類ニ非サルヲ以テ道德界ノ一員タルコト



ヲ得ス人格ハ國家ナキモ猶存在ス道德ノ天在スルハ人格ノ天存スルカ爲ナリ其故ニ道德モ亦國家ノ存否ニ關ハラス存在ス人格者中ノ大強者カ其天在セル道德ヲ厲行シテ被治者ノ天有セル人格ヲ保持スル爲ニ國家ヲ建立シ其統治者トナリテ出現シタルモノナルカ故ニ自國民ハ勿論地球全面ニ生活セル人類ノ外國人タルト無國籍者タルトヲ問ハス其天有セル人格ヲ承認セサルヘカラス否認スルコトヲ得ス換言スレハ大強者ハ全世界ノ人格者ニ對シ道德ヲ實現スル爲ニ其強力即チ道德ヲ厲行スル力ノ及フ域内ノ人格者ヲ統合シテ國家ヲ建立シ之ヲ維持スルモノナルカ故ニ全世界ノ人格ヲ認メサルヘカラス是レ統治者ノ最大義務ニシテ統治者ノ統治者タル所以ナリ之ヲ否認スレハ統治アルコトナシ否認スルハ統治ニ反スル暴虐ナリ昔時非人又ハ奴隷ト稱シテ其人格ヲ認メサルコトアリタル歴史ヲ以テ人格ノ法產物又ハ法認物タル例證ト爲ス者アレトモ其ハ非統治ノ蠻業ナリ法學ノ眼中一點ノ許スヘキ道理ヲ認ムルコトナシ

## 國民ノ意

要スルニ統治權ハ人格ヲ保持スル爲ニ生シタルモノナルカ故ニ人格ハ國家前ニ天存セルモノニシテ法產物ニ非ス又法認物ニ非ス統治權ノ發現及存在ニ因リテ統治化シ統治關係上ノ人格即チ當事者トナルモノナリ統治者ハ其統治化スルコトヲ拒ムノ權利ナク又之ヲ拒ムハ其統治義務ニ違背スルモノナリ

## (二) 國民

國民 (Volk, Nation) トハ國家ヲ組織スル要素ニシテ國民格ヲ有スル人格者ナリ統治權ハ國家ヲ維持スル爲ニ國民ニ對シテ行フモノナルカ故ニ國民ハ統治權ノ客體タリ國民ノ有スル國民格ハ人格ト異ニシテ自然ニ之ヲ具有スルモノニ非ス人類ニシテ何レノ國家ニモ屬セサル者ハ決シテ國民格ヲ具有スルコトナシ強者カ道德ヲ厲行スル爲ニ其力ノ及フ域内ニ在ル一定ノ人格者ヲ統合シテ國家ヲ作りタルトキハ其統合セラレタル人格者ヲ國民ト爲シ以テ國民格ヲ附與ス國家統合力ノ存續スル間ハ其子孫モ連續



國民ノ定住ト基在

シテ國民トナリ國民格ヲ附與セラレモノナリ又國家ノ成立後併領又ハ歸化ニ因リテ或人格者ニ國民格ヲ附與スルコトアリ斯ノ如ク人格者カ國民格ヲ有スルハ統治者ノ附與ニ因ルモノナリ國民格ノ附與ハ或ハ統治者ノ默與タルコトアリ或ハ法ヲ定メテ之ヲ與フルコトアリ建國ノ際ハ勿論法ノ定メナキトキ又ハ併領等ノ場合ニ在リテハ多ク默與スルモノナリ法ニ依リテ國民格ヲ附與スルハ統治諸制度ノ完備シタル國家ニ限ルモノナリ國民ハ國家組織ノ要素ナレトモ必スシモ一定ノ土地即チ領土ニ定住スルモノタルコトヲ要スルモノニ非ス領土ヲ離ルルコトアリト雖モ國民格ヲ失フコトナシ學者往往國民ハ領土ニ定住スルコトヲ要スルモノノ如クニ説クコトアリト雖モ國民ノ領土ニ定住スルコトハ國民格ヲ有スルニ必要ナルコトナシ若シ領土ニ定住スルニ非サレハ國民格ヲ有セストセハ領土外旅行者領土外移住者又ハ領土外出生者ハ國民格ヲ有セサルコトトナルナリ然レトモ領土ヲ以テ統治權行使ノ本陣ト爲スモノナルカ故ニ國家モ

亦領土ヲ本據トシテ存在スルモノナルニ因リ其組織要素タル國民モ領土ヲ本據トシテ存在スルモノナラサルヘカラス從ヒテ領土ニ基在スルコトヲ要ス領土ニ基在スト言フハ身ハ自國領土外ニ在リテモ自國領土ヲ本據トシテ自國領土外ニ假住スルコトヲ意味スルモノナリ其故ニ自國領土外ニ基在シテ自國領土ト相離ルルトキハ國家組織ノ要素タル實ヲ缺クニ至ルヲ以テ國民格ヲ失フモノトナルナリ

エリネツク(公權論總論第三節)ノ説

國家ハ一定ノ領土ニ定住シ統一ノ權力ニ依リテ支配セラレル國民團體ナリ

上杉博士(帝國憲法綱領一頁)ノ説

國家トハ一定ノ土地ニ據在シ一定ノ多數人カ一定ノ主權者ニ依リテ統治セラレル團體ナリ

遠藤博士(國際公法要論五七頁)ノ説

國家ハ一定ノ領域ニ居住シ最高主權ノ下ニ統率セラレタル人類ノ政治的團體ナリ

(三) 臣民要件

憲法第十八條ニ「日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル」ト規定セリ



國籍法ハ憲法第十八條ノ規定ニ依リテ設ケタル臣民要件法ナリ臣民要件法ハ即チ國民格ヲ定ムル法ナリ

憲法ニ於テハ國民ヲ臣民 (Untertan, Subjects) ト稱ス是レ天皇ハ統治者タル君主ナルカ故ニ其國民ハ君主ニ臣從スヘキモノナルヲ以テ之ヲ臣民ト言フナリ然レトモ臣民要件法タル國籍法ニ臣民ノ語ヲ用ヒタルコトノナキハ不用意ナリト謂フヘシ

國籍法ニ依リテ日本人タル國籍ヲ得タル者ハ即チ日本臣民タル要件ヲ具備シタル者ナルカ故ニ日本臣民タリ日本人タル國籍ヲ得ルコトハ日本國家ヲ組成スルモノナルカ故ニ國籍法ハ國家ノ組織法タルモノナリ然レトモ國籍法ハ建國法タル意味ニ於ケル國家ノ組織法タルモノニ非ス即チ國籍法ハ國家ヲ建立スルノ法タルモノニ非スシテ國家ノ組成分子タル者ノ要件ヲ具備スル者ヲ以テ既成國家ニ附加シ其組成分子タル要素ノ一員ニ列セシムルモノニ外ナラス

## 國籍取得

國籍法ニ依ル日本人即チ日本臣民タル要件ハ出生、婚姻、縁組、認知、歸化、附從的身分、國籍ノ回復、勅裁ナリ

## (イ) 出生

出生ヲ以テ國籍ヲ定ムルニ領土主義ト血統主義トノ二主義アリ領土主義トハ血統ノ如何ヲ問ハス領土ニ於テ出生シタル者ハ凡テ之ヲ其領土國ノ國民ト爲スニ在リ血統主義トハ出生地ノ如何ヲ問ハス國籍ヲ有スル者ノ子ハ其親ノ所屬國ノ國民ト爲スニ在ルナリ此主義ノ衝突スル所ノ他國領土ニ於テ出生シタル者ハ同時ニ二個ノ國籍ヲ有スルコトトナルナリ我國籍法ハ原則トシテ血統主義ヲ採レリ

1、出生ノ時父カ日本人ナルトキハ其子ハ日本人タルモノナリ(國籍法第一條)出生前ニ日本人タル父カ死亡シタルトキモ其出生兒ハ日本人タリ(同)出生前ニ父カ離婚又ハ離縁ニ因リテ日本人タル國籍ヲ失ヒタルトキハ懷胎ノ始ニ遡リテ國籍ヲ定ム(同)第二條第一項)然レトモ父母



共ニ其家ヲ去リタル場合ヲ除クモノトス(同條第二項本文)乍併母カ子ノ出生前ニ復籍シタルトキハ此限ニ在ラス(同但書)

2、父カ知レス又ハ國籍ヲ有セサル場合ニ於テハ母カ日本人ナルトキハ其子ハ日本人タルモノト爲ス(同第三條)

3、日本ニ於テ生マレタル子ノ父母カ共ニ知レス又ハ國籍ヲ有セサルトキハ其子ハ日本人タルモノト爲ス(同第四條)

(ロ) 婚姻

外國人又ハ無國籍者カ日本人ノ妻トナリタルトキハ日本人タルモノト爲シ(同第五條第一項第一號)外國人又ハ無國籍者カ日本人ト入夫婚姻ヲ爲シタルトキハ日本人タルモノト爲ス(同第二號)

(ハ) 縁組

外國人又ハ無國籍者カ日本人ノ養子トナリタルトキハ日本人タルモノト爲ス(同第四號)

(ニ) 認知

日本人タル父又ハ母ニ依リテ認知セラレタル者ハ日本人タルモノト爲ス(同第三號)認知ニ因リテ日本人タルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス(同第六條)

1、本國法ニ依リテ未成年者タルコト

2、外國人ノ妻ニ非サルコト

3、父母中先ツ認知ヲ爲シタル者カ日本人ナルコト

4、父母カ同時ニ認知ヲ爲シタルトキハ父カ日本人ナルコト

(ホ) 歸化

歸化ニ因リテ日本國籍ヲ有スルニハ内務大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス(同第七條第一項)内務大臣カ許可ヲ爲スニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

1、引續キ五年以上日本ニ住所ヲ有スルコト

2、滿二十年以上ニシテ本國法ニ依リ能力ヲ有スルコト



3、品行端正ナルコト

4、獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資産又ハ技能アルコト

5、國籍ヲ有セス又ハ日本ノ國籍ノ取得ニ因リテ其國籍ヲ失フヘキコト

外國人ノ妻ハ其夫ト共ニスルニ非サレハ歸化スルコトヲ得ス(同第八條)

日本國籍ヲ取得シタル者ノ妻カ其本國法ニ依リテ夫ト共ニ日本國籍ヲ取得スルコトヲ得サリシトキハ內務大臣ノ許可條件ヲ具備セサルトキト雖モ歸化ヲ爲スコトヲ得(同第一四條第一三條)

引續キ三年以上日本ニ居所ヲ有スル父又ハ母ノ日本人タリシ者引續キ三年以上日本ニ居所ヲ有スル妻ノ日本人タリシ者引續キ三年以上日本ニ居所ヲ有スルカ或ハ日本ニ於テ生レタル父又ハ母ノ子ニシテ日本ニ於テ生レタル者及引續キ十年以上日本ニ居所ヲ有スル者ハ引續キ五年以上日本ニ居所ヲ有セサルモ歸化スルコトヲ得(同第九條)外國人ノ父又ハ母カ日本

人ナル場合ニ於テ其外國人カ現ニ日本ニ居所ヲ有スルトキハ引續キ五年以上日本ニ居所ヲ有セス滿二十年ニ達セス本國法ニ依リテ能力ヲ有セス又獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資産又ハ技能ヲ有セストモ歸化スルコトヲ得(同第一〇條)

歸化ニ制限ヲ設ケタルハ外國人カ歸化ニ因リテ日本國籍ヲ有スルモノナルカ故ニ全然日本ニ因縁ノ無キ者ニ日本國籍ヲ有セシムルハ其理由ナキヲ以テ多少ノ因縁ヲ有スルコトヲ要ス歸化ノ制限ハ畢竟其因縁ヲ有スルコトヲ要スルニ在リ歸化ヲ公法上ノ契約ナリト言フ者アリ歸化ハ合意ニ因リテ成立スルモノナレトモ出願許可ノ形式ニ依ルモノナルヲ以テ契約ニ非ス

(ハ) 附從的身分

夫タル外國人又ハ無國籍者カ日本ノ國籍ヲ取得シタルトキハ妻ハ其夫ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得スルモノナリ(同第一三條第一項)然レトモ妻ノ本國



法ニ於テ反對ノ規定ヲ存スルトキハ之ヲ許サス(同第二項)  
 日本ノ國籍ヲ取得スル者ノ子カ其本國法ニ依リテ未成年者ナルトキハ父  
 又ハ母ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得ス(同第一五條第一項)然レトモ子ノ本國法  
 ニ於テ反對ノ規定ヲ存スルトキハ之ヲ許サス(同第二條)

(ト) 國籍ノ回復

婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ハ婚姻解消後日本ニ住所ヲ有スル  
 トキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得(同第二五條)  
 自己ノ志望ニ依リテ外國ノ國籍ヲ取得シタル爲ニ日本ノ國籍ヲ失ヒタル  
 者又ハ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及子ニシテ其者ノ國籍ヲ取得シタル  
 爲ニ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ日本ニ住所ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許  
 可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復スルコトヲ得ルモノナリ(同第二六條)然レトモ  
 歸化人歸化人ノ子ニシテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者及日本人ノ養子又ハ  
 入夫トナリタル者カ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ハ日本ノ國籍ヲ回復スルコ

トヲ得ス(同但書)日本ノ國籍ヲ取得シタル者ノ妻又ハ日本ノ國籍ヲ有スル  
 者ノ子カ日本國籍ヲ有シタル後ニ日本ノ國籍ヲ失ヒタルモ其夫又ハ其親  
 カ日本ノ國籍ヲ有スルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ヲ回復ス  
 ルコトヲ得(同第二七條)

(チ) 勅 裁

日本ニ特別ノ功勞アル外國人ハ内務大臣ノ許可條件ヲ具有セスト雖モ内  
 務大臣カ勅裁ヲ經テ其歸化ヲ許可スルコトヲ得ルモノト爲セリ(同第一一  
 條)

國籍法ニ規定ナケレトモ無所屬地ノ領得領土ノ併合又ハ領土ノ割讓ヲ受  
 クルニ因リテ其土地ノ上ニ在ル人類ハ國籍ヲ取得スルニ至ルモノナリ憲  
 法ノ規定上本來國籍法ニ規定スヘキモノナレトモ用意ノ足ラサリシ爲メ  
 ニ規定漏トナリタルモノナルヘシ

國籍喪失

臣民タル要件ハ以上説述シタル通ナレトモ臣民要件ヲ具備スル者ニシテ



其要件ヲ缺クニ至ルトキハ臣民タル資格即チ國籍ヲ喪失スルモノナリ國籍喪失ノ原因ハ婚姻離婚離縁外國籍取得附從的身分、認知ナリ

(イ) 婚姻

日本人タル女ハ外國人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ(國籍法第一八條)日本人タル女カ外國人ト婚姻シタル爲ニ日本ノ國籍ヲ失フハ其夫タル外國人ノ屬スル本國ノ國籍ヲ取得スルカ爲ナリ其夫タル者カ無國籍者ナルトキハ其妻トナリタル日本人タル女ハ日本ノ國籍ヲ失フモノニ非ス

(ロ) 離婚又ハ離縁

婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得シタル者ハ離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テ其外國ノ國籍ヲ有スヘキトキニ限リ日本ノ國籍ヲ失フ(同第一九條)

(ハ) 外國籍取得

自己ノ志望ニ因リテ外國ノ國籍ヲ取得シタル者ハ日本臣民タル意思ヲ有スルモノニ非ス又兩全スルコトヲ得ルモノニ非サルヲ以テ日本ノ國籍ヲ失フモノト爲セリ(同第二〇條)

(ニ) 附從的身分

日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及子カ其者ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フモノト爲セリ(同第二一條)然レトモ離婚又ハ離縁ニ因リテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻及子ハ日本ノ國籍ヲ失フコトナシ乍併妻カ夫ノ離縁ノ場合ニ於テ離婚ヲ爲サス又ハ子カ父ニ隨ヒテ其家ヲ去リタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フモノナリ(同第二二條)

(ホ) 認知

日本人タル子カ認知ニ因リテ外國ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ然レトモ日本人ノ妻入夫又ハ養子トナリタル者ハ此限ニ在ラス(同第二三條)



前示ノ場合ニ於テハ日本ノ國籍ヲ喪失スルモノナルヲ以テ日本臣民タル要件ヲ缺キ日本臣民タル資格ヲ失フニ至ルモノナリ然レトモ滿十七年以上ノ男子ハ既ニ陸海軍ノ現役ニ服シタルトキ又ハ之ニ服従スルノ義務ナキトキニ非レハ日本ノ國籍ヲ失ハス(同第二四條第一項)現ニ文武ノ官職ヲ帶フル者ハ其官職ヲ失ヒタル後ニ非サレハ日本ノ國籍ヲ失ハサルモノト爲セリ(同第二項)

(四) 臣民ノ權利

臣民ノ權利ト言フハ如何ナル性質ノモノナルヤヲ説述スルニハ先ツ人格維持權ノ何モノナリヤヲ説論スルヲ以テ必要ノコトナリトス  
人格ハ自觀スレハ我ナリ我ハ自存ナリ自存ハ自力ニ因リテ立ツノ義ナリ自力ニ因リテ立ツハ生存ヲ保有スルモノニシテ生存ノ保有ハ人格ヲ維持スルモノナリ自力ハ之ヲ稱シテ自存力ト言ヒ生存ノ行爲力ト言ヒ又人格ノ維持力トモ言フ余ハ法學上ノ用語トシテハ人格ノ維持力ト呼フヲ以テ

人格維持  
權

最適當ト思考ス人格ノ維持力ハ各人ニ強弱アリテ等量ノモノニ非ス生存ノ競争ハ日日激烈ニシテ其自由ニ放任スルトキハ弱者ノ肉ハ强者ノ食トナリテ敗滅スルニ至ルヘシ正當ノ生存競争ハ進化ニ必要ナル天則ノ實行ナルカ故ニ不用意ノ敗者カ滅亡スルハ已ムヲ得サルコトナレトモ猛暴ナル強者カ不正ノ競争ニ勝利者トナリテ適生者ノ人格ヲ害滅スルハ天則タル道德ノ許ス所ニ非ス其故ニ道德ヲ厲行スル所ノ力ヲ有スル強者アリテ不正競争ヲ禁シ適生者ヲ保護スルニ非サレハ自力ノミニ因リテハ人格ヲ維持スルコトノ頗ル難キモノナリ茲ニ於テ統治者ノ出現ヲ要シ國家ノ建立ヲ缺クヘカラサルモノト爲スナリ即チ統治者ハ道德ヲ厲行シテ不正競争ヲ禁制シ以テ人格ヲ保護ス之レ即チ統治ナリ統治ハ人格ノ維持力ヲ統治化シテ之ヲ權利トシ統治關係上ノ効果ヲ附ス余ハ其權利ヲ稱シテ之ヲ人格維持權ト言フナリ既ニ論シタル如ク權利ハ生存力ヲ統治化シタルモノニシテ生存力其モノハ本來權利タルモノニ非ス生存力ハ人格者タル生



物體ニ内生存有スル所ノ天力ニシテ如何ナル優者又ハ智者ト雖モ此力ハ之ヲ製作スルコトヲ得ルモノニ非ス又此力ヲ其内生存有ノ本體ヨリ取離シテ別所ニ存置スルコトヲ得ルモノニ非ス從ヒテ此力ハ授受ノ目的トナルコトナシ其故ニ此力ヲ製作シテ之ヲ權利ト爲シ以テ之ヲ附與スルモノニ非ス人格者タル生物體ノ天有セル生存力ヲ統治化シテ之ヲ權利ト爲シ是ニ統治關係上ノ効果ヲ附スルモノナリ世ニ權利ハ統治者ノ附與スルモノナリト言フハ統治者ハ權利ナル力ヲ製作シテ之ヲ附與スルニ在リトセハ大ナル誤謬ナリ統治者ハ人格者タル生物體ノ天有セル生存力ヲ認メテ之ヲ統治化シ以テ權利ト爲スコトニ在リ人格者ノ天有セル生存力ハ生存ノ保有即チ人格ヲ維持スル力ナルカ故ニ此力ヲ統治化シテ權利ト爲シタルモノハ人格維持權ナル權利ナリ

上杉博士(第一三版憲法述義四一九頁)ノ説

臣民ハ本來主權ニ對シテ無權利ナル者テアル然レトモ主權ノ目的ヲ達シ臣民ヲシテ其ノ本性ヲ充實發展セシム

ルカ爲メニハ臣民ハ一定ノ主權ニ對スル權利ヲ認ムルコトヲ必要ナリトスルモノカアルノテアル是ニ於テ主權ハ本來無權利ナル臣民ニ一定ノ權利ヲ認メテ居ルノテアル

法設人格ノ維持權モ亦生存力ヲ統治化シテ權利ト爲シタルモノナレトモ法設人格ハ天有ノ生存力ヲ有セサルカ故ニ天有ノ生存力ヲ統治化シテ之ヲ法設人格ノ維持權ト爲スコトヲ得ルニ由ナシ然レトモ法設人格ハ法定ノ生存機關ヲ具備ス其機關ヲ組織スル自然人格ノ天有力ヲ移シテ以テ法設人格ノ生存力ト爲シ之ヲ統治化シテ法設人格ノ維持權ト爲スモノナリ國家法人(統治權ノ主體ニ非ス)ノ有スル權利自治團體ノ有スル自治權其他會社等ノ有スル權利ハ皆法設人格ノ維持權ナリ人格維持權ハ人格ヲ維持スル權利ナルカ故ニ人格ヲ承認シナカラ之ヲ認與セサルコトヲ得ルモノニ非ス人格ノ統治化ト同シク生存力ノ統治化スルコトヲ要ス生存力ハ人格ノ統治化ニ伴ヒ統治化スルモノニシテ其間寸隙アルモノニ非ス人格維持權ノ認與トハ即チ生存力ヲ統治化スルコトヲ



言フモノナリ法ニ依リテ權利ヲ附與スト言フカ如キハ法母主義ノ迷信ト謂フヘシ

余ハ前ニ權利ノ唯一不可分ナルコトヲ論シタリ人格維持權ハ其唯一不可分ノ權利ナリ人格ハ我ナリ我ハ唯一ナリ我ハ唯一ナルカ故ニ我ナル人格ハ唯一ナリ我ナル人格ハ唯一ナルカ故ニ人格ヲ維持スル爲ニ天有セル生存力ハ唯一ナリ人格ヲ維持スル生存力カ唯一ナルカ故ニ其生存力ヲ統治化シテ之ヲ權利ト爲シタル人格維持權ハ唯一ナリ人格維持權ハ唯一ナルカ故ニ不可分ナリ法設人格ノ機關カ單一制タルト複合制タルトヲ問ハス法設人格ノ生存力ハ唯一不可分ナルヲ以テ法設人格ノ維持權モ亦唯一不可分ナル道理ナリ

## 人格權

人格維持權ヲ以テ往往所謂人格權 (Persönlichkeitsrecht, Right of personality) ナルモノト混同スル者アリ其等ノ說ニ依ルトキハ人格權ハ人格權ト言フ權利ノコトトナルナリ然ルニ人格ナルモノハ人類ノ統治界ニ於ケル客體タ

ル資格ナルヲ以テ人格權ハ人類ノ統治界ニ於ケル客體タル資格ヲ權利ト爲シタルモノトナルナリ權利ハ人格ノ維持力タル生存力ヲ統治化シタルモノニシテ資格ノコトニ非ス權利ハ人格アリテ存スルモノナリ人格ナカリセハ權利ノ要アルコトナシ權利ハ人格ヲ維持スル爲ニ必要ナル力ナリ人格ト權利トハ分離スルコトヲ得サル關係ニ在レトモ人格ハ權利ニ非ス權利ハ人格ニ非ス決シテ人格權ナル權利アルコトナシ若シ人格權ナルモノヲ以テ人格ヲ得ルノ權利ナリトセハ其所謂人格權ナルモノハ未タ人格ヲ有セサル前ニ有スル權利ノコトトナリテ人格ヲ有セサル者カ權利ノ主體タルコトヲ得ト言フ珍無類ノ奇觀ヲ呈スルニ至ルヘシ若シ又人格權ナルモノヲ以テ人格ヲ保有スルノ權利ナリトセハ余ノ所論タル人格維持權ト同義ナルヲ以テ余ハ大ニ歡迎スヘシ

法律新聞第一二九號——第一三三號仁保博士ノ人格權論ヲ駁ス參照

ギルケー(獨逸私法論第三〇章)ノ說



法律カ權利ノ主體タル能力ヲ認ムルコトニ因リテ人格權ヲ生ス

仁保博士(京都法學會雜誌第一卷第六號人格權ヲ論ス)ノ說

人格權ハ人格即チ權利ノ主體タルコトヲ得ル權利ナリ

エリネツク(公權論總論第七節)ノ說

人格トハ理論上個人ノ國家ニ對スル關係ニ付テノ個人ノ資格ナリ其故ニ人格ハ狀態ナリ身分ナリ權利ニ非ス人格ハ人ナリ權利ハ人ノ有スルモノナリ

アルンプルヒ(パンテクテン第一卷第二二節)ノ說

人格ハ人ノ固有ノ性格タル氏名尊稱徽章商號等チ一般ニ承認セシメント請求スル權利ナリ

織田博士(法學通論一三七頁一三八頁)ノ說

人格權ト謂フハ人カ一個人タル資格ヲ以テ有スル權利ニシテ生命身體名譽自由等ノ權利ハ皆之ニ屬ス苟モ人類タル者ハ皆此權利ヲ有セサルナシ

松岡博士(民法論總則一〇八頁)ノ說

人格權ハ人格ヲ維持スルニ必要ナル法律貨物ヲ支配スルノ權利ナリ

三濱博士(法學通論三一頁)ノ說

人格權トハ人格ト分離スルコトヲ得ス且之ト終始ヲ共ニスヘキ私權ナリ

公權ト私

世ニ吾人ノ有スル權利ヲ大別シテ公權ト私權トノ二ト爲ス者アレトモ吾

國民權、  
(自由權、  
統治權行  
使要求權  
參政權)

人ノ有スル權利ハ人格維持權ナル唯一不可分ノモノナルカ故ニ之ヲ分別スルコトヲ得ス世ニ公權ト言フハ人格維持權ヲ公的行爲ニ用フル狀態ヲ稱シ其私權ト言フハ私的行爲ニ用フル狀態ヲ稱スルモノナリ吾人ノ有スル權利ニ公權私權ノ區別アルコトナシ

殆ト凡テノ公法學者ハ國民ハ國民權ナル特權ヲ有スルモノナリト論セリ其所謂國民權ナルモノハ自由權統治權行使要求權及參政權ノ三ナルカ如シ參政權ハ兎モ角モ其所謂自由權及統治權行使要求權ナルモノカ國民ノ特權ナリトセハ領土ニ在留セル國民ニ非サル一切ノ人類ハ自由ヲ有セス統治權行使ノ要求ヲ爲シ得サルコトトナルナリ各國ノ憲法ニ國民ノ權利トシテ幾多ノ規定ヲ存スルカ故ニ是等ノ公法學者ハ此權利ハ國民ノ特權ナリト想斷シタルモノナルヘシト雖モ國民タルト非國民タルトヲ問ハス皆自由ヲ有シ統治權行使ノ要求ヲ爲シ得ヘキモノナリ蓋シ人類ハ凡テ人格ヲ有シ人格維持力ヲ有ス統治者ハ國民タルト自國領土ニ在留セル非國



民タルトヲ問ハス其人格ヲ認知シ其維持力ヲ統治化シテ之ヲ權利ト爲シタルモノナルカ故ニ自由及統治權行使ノ要求ハ其維持權ノ行使ナルヲ以テ自由及統治權行使ノ要求ハ獨國民ノ特權ナリト言フコトヲ得ス若シ之ヲ以テ國民ノ特權ナリトセハ國民ニ非サル一切ノ人類ハ自由ヲ有セス又統治權行使ノ要求ヲ爲シ得サルモノナルヲ以テ殆ント人格ヲ否認セラルル結果ヲ生スルナリ之レ豈ニ統治ノ本旨ナランヤ統治ノ必要上國民ト非國民トノ間ニ自由ノ廣狹ヲ作り統治權行使ノ要求ニ大小ノ差ヲ設クルカ如キハ已ムヲ得サルコトナルベシト雖モ特別ノ理由ナキ限りハ平常ニ於テ非國民ノ自由ヲ禁シ統治權行使ノ要求ヲ斷チ自由及統治權行使ノ要求ヲ國民ノ特權即チ國民權ナリト爲スハ大ナル謬見ナリ國民格ハ人格ト異ナリテ特ニ國民格維持權ナル力カ人格維持權ノ外ニ別在スルモノニ非ス人格者カ國家ノ一員トナリタル爲ニ國民格ヲ有スルニ至リタルモノニシテ國民格ハ人格ノ結果ナリ其故ニ國民格ノ維持ハ人格維持權ノ行使ニ因

リテ行ハルルモノナルヲ以テ國民ニ國民權ナル特權ノ存スル理由アルコトナシ

エリホツク(人權及國民權宣言論第一節)ノ說

諸國ノ國法ハ元首ノ權利等族ノ權利個人若クハ特定團體ノ特權ヲ認メタリト雖モ一般公民ノ權利ハ唯國家ノ義務トシテ表ハレタルモ佛蘭西ノ人權及國民宣言ニ因リテ國民權ナルモノヲ認ムルニ至リタルナリ

又論者ハ國民カ選舉權及被選舉權ヲ有スルモノナルカ故ニ參政權ヲ有スルモノナリト爲スモ參政權トハ國家統治ニ參與スル權利ヲ言フモノニシテ國民カ參政權ヲ有ストセハ國民カ國家統治ニ參與スル權利ヲ有スルモノト言ハサルヘカラス果シテ國民ハ國家統治ニ參與スル權利ヲ有スルモノナリヤ抑モ國家ノ統治ハ統治權ノ行使ナルヲ以テ統治權ヲ有スル者ニ非サレハ國家ヲ統治シ得ルモノニ非ス統治ニ參與スト言フコトハ共同統治ヲ行フト言フコトナリ統治者ハ單數タルコトアリ複數タリコトアリ單數統治者ノ國ニ在リテハ統治ノ參與者アルコトナシ複數統治者ノ國ニ在



リテハ其統治者ハ全員參與者ナリ國民カ參政權ヲ有スル者ナリトセハ複數統治者タラサルヘカラス國民カ複數統治者タリトセハ統治ニ參與シテ共同統治ヲ爲スコトハ當然ナリ然レトモ既ニ論シタル如ク國民ハ被治者ニシテ統治者タルコトヲ得ルモノニ非ス統治者タルコトヲ得ルモノニ非サルヲ以テ複數統治者タルコトナシ複數統治者タルモノニ非サルカ故ニ統治ニ參與スルコトナシ從ヒテ國民カ參政權ヲ有スト言フノ誤ナルコト明カナリ國民參政權論ハ民權論即チ國民主體論ニ歸スルモノニシテ其本體ハ共和政治論ナリ其故ニ國民ノ參政權ヲ認ムル者ハ國民主體即チ民主主義ノ國體ヲ前提スルニ非サレハ矛盾ナク論結スルコトヲ得サルモノナリ余ハ國民主體ヲ認メサル者ナルカ故ニ國民參政權ヲ認メサルナリ國民カ官吏トナリ又ハ國會議員トナリテ其行爲ヲ爲スハ國家統治ニ參與スルモノナリト論スル者アレトモ國民カ官吏トナリ國會議員トナリテ統治ノ事務ニ當ルハ統治機關トシテ機關作用ヲ爲スモノナリ國民トシテ行動ス

ルモノニ非サルヲ以テ國民カ參政權ヲ以テ國家統治ニ參與スルモノナリト言フコトヲ得ス

上杉博士(第一三版憲法述義四九八頁)ノ說

人民ハ固ヨリ統治ノ作用ニ參與スヘキ權利ヲ有ツテ居ルモノナリ

## 選舉權

又國民カ國會議員ヲ選舉スルコトヲ以テ權利ノ行使ナリト論スル者アリ然レトモ國會議員ノ選舉(Wahl, Election)ハ國會ヲ組織スル行爲ニシテ國會ハ統治機關ナルカ故ニ國會議員ノ選舉ハ統治機關ヲ組織スル行爲ナリ統治機關ヲ組織スル行爲ハ統治行爲ナリ從ヒテ國會議員ノ選舉ハ國會ナル統治機關ヲ組織スル行爲ナルカ故ニ統治行爲ナリ統治行爲ハ統治者ノ行爲ナリ統治者ニ非サル者ノ統治行爲ナルモノアルコトナシ選舉人ハ統治者ニ非サルヲ以テ統治行爲ヲ爲スコトヲ得ス統治行爲ヲ爲スコトヲ得サルモノナルカ故ニ統治行爲タル選舉ヲ行フコトヲ得サルモノナリ選舉人ナルモノハ國會ナル統治機關ヲ組織スル爲ニ統治者ノ選舉機關即チ國會



ノ組織機關トナリ選舉ナル國會組織ノ機關作用ヲ爲スモノナリ其故ニ國民カ選舉權ヲ有スト爲スハ誤ナシ從ヒテ選舉ヲ以テ選舉權ノ行使ナリトスルハ非ナリ又從ヒテ國民カ選舉權ヲ有スト爲シ之ヲ參政權トシテ國民權ナリトスルハ更ニ非ナリ國民ハ國民格ヲ有スルモ國民權ナルモノヲ有スルコトナシ

立憲政體ニ於テ統治者カ國會ヲ要スル所以ノモノハ統治ニ必要ナル良法ヲ制定シ又適當ナル豫算ヲ制定スルニハ假令統治者ノ智餘リアリト雖モ過誤ナキヲ保セス統治ノ萬全ヲ期スル爲メ廣ク智ヲ天下ニ求ムルヲ良トス廣ク智ヲ天下ニ求ムルニハ漠野ノ賢ヲ集メテ統治機關ヲ作り其機關ニ依リテ良智ヲ容納スルニ在ルナリ漠野ノ賢ヲ集ムルニ統治者ノ直接任命ヲ以テセスシテ國民ノ選舉ナル間接任命ニ俟ツ所以ノモノハ多數ノ眼識ニ依リテ選出シタル者ハ賢タルニ誤ナク統治機關組織ノ適材ナリト爲スニ在リ其國民全部ノ者ヲシテ選舉セシメスシテ或階級又ハ或資格ノ者ノ

ミヲ以テ選舉セシムル所以ノモノハ統治機關ヲ組織スル賢材ヲ選舉スルニハ其鑑識力ヲ具有スル者ナラサルヘカラス全國民カ此鑑識力ヲ具有スルニ於テハ全國民ヲシテ選舉セシムヘキモ國民中此鑑識力ヲ具有スル者ハ文化ノ進歩ニ伴ヒテ其比例ヲ異ニシ現時ニ在リテハ餘リ多カラサルヘシ其故ニ統治者ハ一定ノ標準ヲ定メテ國民中或階級ノ者又ハ或資格ノ者ヲ以テ國會ヲ組織スル組織機關ヲ作り其機關作用ニ依リテ國會議員ノ選舉即チ國會ヲ組織スルモノナリ

選舉ハ選舉人ノ權利ノ行使ナリヤ義務ノ履行ナリヤハ法學界ニ於ケル難問ナリ選舉ヲ以テ國民權ナリトセハ男女老幼ノ區別ナク全國民ニ選舉權ヲ與フルコトヲ要ス然ルニ現時全國民ニ選舉ヲ行ハシムル國ハ全然之レアルコトナシ然ラハ其選舉權ヲ有セサル者ハ國民タル權利ヲ有セサルヲ以テ國民ニ非スト言ハサルヘカラサルニ至ルヘシ選舉ハ國民中ノ或階級又ハ或資格ノ者ノミヲ以テ之ヲ行ハシムル點ヨリ見レハ甚名譽ナルカ故



ニ選舉ハ權利ノ行使ナルカ如キモ名譽アル行爲ハ必スシモ權利ノ行使ニ非ス選舉ハ統治者カ統治機關タル國會ヲ組織スルニ當リ漠野ノ賢ヲ集ムル爲メノ任命ニ代ヘテ或國民ヲシテ選舉セシムルモノナルカ故ニ其者ニ賦課シタル名譽アル義務ナリ一八九三年ノ白耳義改正憲法ニ於テ選舉ハ國民ノ義務ナルコトヲ明カニシ翌年制定シタル選舉法中ニ之ヲ規定シタリ

法律新聞第一二七四號——第一二七九號國會論參照

エリネツク(公權論第一章第一〇節)ノ說

選舉ハ國法學上ノ意義ニ於テハ國家機關ノ任命ナリ任命ノ主體ハ國家統治者ナリ國家ノ選舉ニ參與スルコトハ國家行爲ニシテ機關作用ナリ之ヲ以テ選舉行爲其モノハ決シテ個人權ノ内容トナリ得ルモノニ非ス選舉人ハ選舉區又ハ選舉團體ノ總選舉者ヨリ組織スル選舉會議體ノ部分機關タルモノナリ即チ選舉人ハ選舉ノ瞬間ニ於テ國家行爲ノ行使機關トナルナリ故ニ選舉ハ機關作用ニシテ選舉人ノ權利ニ非ス  
 ラーバンド(獨逸國法論二九二頁)ノ說  
 選舉權ナル權利アルコトナシ  
 ステンゲル(行政法雜誌第三卷一九九頁)ノ說  
 選舉權ハ權利ナリ

ゲ、マイヤー(獨逸國法論九九頁)ノ說

同論

市村博士(行政法原理四五頁)ノ說

選舉權ハ權利ナリ

清水博士(第一〇版憲法篇八〇〇頁)ノ說

多クノ學者ハ選舉權ハ國家ニ對スル國民ノ公權ニシテ參政權ノ一種ニ屬スト説明スト雖モ予輩ハ選舉權ハ權利ニアラスト信スルナリ蓋シ所謂選舉權ノ内容ハラーバンド氏ノ云ヘル如ク投票ヲ行フコトニシテ投票ハ公ノ職務ナルチ以テ毫モ權利ノ性質ヲ有セサレハナリ

上杉博士(第一三版憲法論四二〇頁)ノ說

主權ハ主權ノ行使ノ爲メニ臣民ヲ使用スルノテアル固ヨリ義務トシテ之ヲ命シ公務ニ報セシムルコトヲ得之ニ依ルチ本則トストモ臣民自ラ進ンテ之ニ當ルコトヲ得ルモノトスルニ依リテ更ニ適材ヲ得テ主權ノ目的ヲ達スルコトカ出來ル場合ト關係トカアル、カカル場合ニ參政權ナルモノカ認めラルルノテアル其主ナルハ後ニ述フル所ノ衆議院議員ノ選舉權ノ如キモノテアリマス

國會ヲ以テ統治機關ト爲サス國民ノ代表會ト爲ス制度ノ下ニ在リテハ統會議員ヲ選舉スル行爲及國會議員ノ代表行爲ハ國家統治ニ參與スル行爲ナルノ感ヲ生セシムルコトナリ然レトモ假令國會ヲ以テ國民ノ代表會ト



爲スモ國家統治ハ統治者ノ有スル統治權ノ行使ニシテ國民ハ統治權ヲ有セサルカ故ニ國家統治ニ參與スルモノニ非ス唯國民ハ代表者ヲ選舉シテ統治者ニ對シ利益ノ請求ヲ爲シ其他意見ヲ陳述スルモノニ外ナラス國會カ國民(或ハ選舉人)ノ代表會ナルトキハ國會議員ノ選舉ハ選舉人ノ人格維持權ノ行使タルモノナリ然レトモ我帝國議會ハ後章ニ於テ説論スル所アル如ク國民ノ代表會ニ非スシテ天皇ノ統治機關ナルカ故ニ兩議院議員ノ選舉ハ統治行爲ニシテ天皇カ選舉人ナル選舉機關ノ機關作用ニ依リテ之ヲ行フ所ノ間接任命ナリ又帝國議會(特ニ衆議院)ハ國民(或ハ選舉人)ノ代表行爲ヲ爲スモノニ非スシテ天皇ノ統治機關トシテ機關作用ヲ爲スモノナリ我議員選舉法ニ選舉權ナル語ヲ用ヒタルハ民主思想國ノ選舉法ヲ無意識ニ寫書シテ規定シタルモノナルコトハ憲法ノ規定ニ照合スルトキハ眞ニ明カナルヲ以テ之ヲ國民又ハ選舉人ノ權利ノ行使ナリト爲スヘカラサルハ當然ナリ

## 被選舉權

國民カ國會議員ニ選舉セラレテ統治機關ノ組織分子トナルコトハ名譽タルニ相違ナシ然レトモ其選舉セララルコトハ權利ニ非サルナリ然ルニ之ヲ權利ナリト爲ス者アリ又之ヲ被選舉權トシテ法律ニ規定シタル國アリ我選舉法モ亦之ヲ規定セリ然レトモ權利ハ生存力ナルカ故ニ之ヲ行使シテ實現スルモノナラサルヘカラス國會議員ニ選舉セララルハ選舉人ノ選舉ノ結果ニシテ被選舉人ノ行爲ノ實現ニ非サルカ故ニ其選舉セララルコトヲ以テ權利ト爲スハ權利ノ本質ニ反セリ被選舉權ナルモノヲ以テ資格ナリト論スル者アリ其論必スシモ誤ナリト言フニ非サレトモ其ハ法ヲ以テ被選舉人ヲ限定シタル場合ニ論スヘキモノニシテ被選舉人ヲ限定セサル場合ニハ資格タルコトナシ

ザイアル(巴國國法論第二卷一三〇頁)ノ説

被選舉權ハ資格ニシテ權利ニ非ス

ゲ、マイヤー(獨逸國法論第九九號)ノ説

第三章 統治權ノ客體 第七節 人格者



同論

市村博士(行政法原理四五頁)ノ説

同論

清水博士(第一〇版憲法篇九二頁)ノ説

ゲ、マイヤー、ザイデル其他多數ノ學者カ被選舉權ハ一ノ資格ニシテ權利ニアラスト論シタルハ當テ得タルモノナリ即チ權ナル文字ヲ有スルモ市町村ノ公民權ト同シク其實權利ニ非サルナリ

憲法上ノ權利

憲法ニ臣民ノ權利トシテ掲ケタルモノハ官吏ニ任セラレ其他公務ニ就クコト(憲法第一九條)居住及移轉ノ自由ヲ有スルコト(同第二二條)妄ニ逮捕監禁審問處罰ヲ受ケサルコト(同第二三條)法定裁判官ノ裁判ヲ受クルコト(同第二四條)妄ニ住所ニ侵入セラレ及搜索セラレサルコト(同第二五條)妄ニ信書ノ祕密ヲ侵サレサルコト(同第二六條)妄ニ所有權ヲ侵サレサルコト(同第二七條)信教ノ自由ヲ有スルコト(同第二八條)言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有スルコト(同第二九條)請願ヲ爲スコト(同第三〇條)ノ數種ナリ官吏ニ任セララルルコトノ權利ニ非ス又ハ權利ノ行使ニ非サルコトハ後章ニ於テ

説述スル所ノ如シ其他モ亦權利ヲ列舉シタルモノニ非スシテ唯一不可分ノ人格維持權ノ行使即チ表現方面ヲ舉示シタルモノナリ人格維持權ノ表現方面ハ生存ノ多忙ニ伴ハレテ千態萬様ナルカ故ニ憲法ニ列舉シタル如キ少數ノモノニ非ス然ルニ憲法ニ於テ斯ル少數ノ列舉規定ヲ爲シタルハ歐米諸國ノ憲法ヲ模倣シタルモノニ外ナラス歐羅巴諸國ニ於テハ國王ト國民トノ間ニ衝突斷フル間ナク國王ハ諸民ヲ抑壓シテ其權利ノ自由行使ヲ許サス國民ハ其自由行使ヲ得ン爲メニ努力辛酸ヲ甘メ血ヲ以テ憲法ノ制定ヲ求メ以テ其保障ヲ得ルコトトナリタルモノナリ然ルニ我日本ニ於テハ建國以來君臣ノ間父子ノ如ク親和シテ何等ノ血雨ヲ降ラシタルコトナク又歐羅巴諸國ノ憲法ニ於ケル如ク列舉規定ノ權利ノ行使ヲ禁壓シタルコトノナキヲ以テ歐羅巴諸國ノ憲法ト同形ノ保障規定ヲ設クルノ要ナク又之ヲ設ケタル爲メ權利ノ他方面ニ於ケル行使ヲ保障セサルカノ感ヲ生セシムルノ甚滑稽ナルコトトナレリ



人動モスレハ憲法列舉規定ノ權利ノ行使ヲ以テ憲法ニ依リテ與ヘラレタル權利ナリト言ヘリ若シ憲法列舉規定ノ權利ノ行使ヲ以テ憲法ニ依リテ與ヘラレタル權利ナリトセハ其他ニ權利ヲ附與セラレサルヲ以テ吾人ハ其生存上非常ノ權利不足ナリト言ハサルヘカラサルニ至ルナリ或ハ曰ハシ憲法ノ列舉規定ハ權利ノ例示ニ過キスト例示規定ハ例示ノ意味ヲ明カニスルコトヲ要ス然ルニ之ヲ明カニスルコトナシ又例示ヲ要スル規定ニ非ス前ニ述ヘタル如ク歐羅巴諸國ニ於ケル沿革上ノ規定ヲ舶來崇拜ノ一點張ニテ何等深究スルコトナク探テ以テ規定シタルモノナルカ故ニ例示規定ニ非サルコト明カナリ或ハ曰ハン權利ハ必スシモ憲法ヲ以テ附與スルニ及ハス法律命令ヲ以テモ之ヲ附與スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ權利不足ヲ感スルコトナシト然レトモ法律命令ヲ以テ權利ヲ附與シ得ルモノトスルモ憲法上ノ保障ナキヲ以テ之ヲ憲法ニ照合スルトキハ其權利ノ侵害ヲ禁制スルモノニ非サルモノナルカ故ニ眞ニ不安心ナルモノニシテ

權利不足ト大差アルコトナシ斯ル不通ノ説論ヲ試ミサルヲ得サルハ憲法ヲ以テ權利ヲ附與スルモノト爲ス思考ノ誤謬ナル結果ナリ權利ハ決シテ憲法ヲ以テ附與スルモノニ非ス況ンヤ他ノ法律命令ヲ以テ附與スルモノニ非ス吾人人類ノ天有セル生存力ヲ統治化シテ權利ト爲シタルモノナリ憲法ハ其權利ノ行使方面ヲ規定シタルモノナリ信教ト請願トハ別ニ之ヲ論スルコトトシ其他ノ憲法ニ規定シタル權利ノ行使方面ハ諸多ノ權利ノ行使方面中ニ於テ最重要ナルモノト看做シ其行使ヲ制限スルニハ命令又ハ處分ヲ以テ爲スヘカラス必ス法律ノ規定ヲ待タサルヘカラサルコトヲ定メ以テ之ヲ保障シタルモノニ外ナラス其故ニ憲法ノ規定ニ依ルトキハ吾人人類ノ憲法上ノ權利行使ノ保障ヲ受クルモノハ憲法列示ノ權利ノ行使方面ニ過キス從ヒテ憲法列示外ノ權利ノ行使ニ付テハ憲法上ノ保障ヲ受ケサルコトトナルナリ然レトモ之ヲ立憲ノ本義ニ照合スルトキハ權利ハ法律ヲ以テ制限スルニ非サレハ之ヲ自由ニ行使シ得ルモノナリ從ヒテ



苟モ權利ノ行使タル以上ハ其如何ナル方面タルヲ問ハス之ヲ制限スルニハ法律ヲ以テセサルヘカラス例外トシテ憲法第九條ニ變例立法ノ制ヲ設ケタルカ故ニ該條ニ適合スル事項ハ命令ヲ以テ權利ノ行使ヲ制限シ得ルモノナレトモ本來變例立法ニ依ルモノナルヲ以テ其命令ヲ發スルニハ努メテ其制定區域ヲ狭クシテ普通立法ニ依ルコトト爲ササルヘカラス然レトモ憲法ニ於テ權利ノ行使ヲ制限スルニ法律ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得スト定メタルモノハ其列示シタル事項ニ限ルモノナルヲ以テ法學上之ヲ憲法ニ於ケル要法事項ト稱ス然レトモ要法事項ハ之ニ限ルモノニ非ス憲法上ノ大權事項及憲法第九條ノ命令事項ヲ除キタル他ノ事項ハ立憲ノ本義上當然法律ヲ以テ規定スヘキモノナルカ或ニ要法事項タルモノナリ憲法第九條ノ命令事項ハ命令ヲ以テ規定セサルヘカラサル事項ニ非サルヲ以テ之モ立憲ノ本義ニ照シテ可成法律ヲ以テ規定スルヲ可トス從ヒテ憲法第九條ノ命令事項ハ法律及命令ノ共通立法事項又ハ自由

## 立法事項ト稱スルモノナリ

居住及移轉ノ自由ヲ有スルコト、逮捕監禁審問處罰ヲ受ケサルコト、法定裁判官ノ裁判ヲ受クルコト、住所ニ侵入セラレ及搜索セラレサルコト、信書ノ祕密ヲ侵サレサルコト、所有權ヲ侵サレサルコト及言論著作印行集會結社ノ自由ヲ有スルコトハ學者之ヲ稱シテ國民ノ自由權ト言フナリ其自由權ト稱スルモノハ何レモ人格維持權ヲ自由ニ行使シ得ルコトナレトモ國家統治上必要アルトキハ之ヲ制限スルコトヲ得ルモノナリ之ヲ制限スルニハ法律ヲ以テスルニ非サレハ違憲タル結果ヲ生スルニ在リ其故ニ臣民ハ法律上ノ制限ナキ以上ハ正義ノ生存力タル權利ノ行使ニ因リテ自由ニ居住シ移轉スルコトヲ得逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナク法定裁判官ノ裁判ヲ受クルコトヲ妨ケラルルコトナク住所ニ侵入スルコトヲ防キ搜索スル者ヲ退クルコトヲ得信書ノ祕密ヲ保有シ財産ヲ安全ニ所有シ言論著作印行集會結社ヲ妨ケラルルコトノナキモノナリ然レトモ法律ニ依リテ



制限規定ヲ設クルトキハ其制限ニ從ハサルヘカラス衛生法等ニ依リテ交通ヲ遮斷セラレ旅行ヲ禁セラレ家屋ノ消毒ヲ施行セラレ刑事法ニ依リテ逮捕監禁審問處罰ヲ受ケ住所ニ侵入セラレ搜索セラレ信書ノ祕密ヲ發カルルモ致方ナシ公用徵收法民事訴訟法競賣法等ニ依リテ財産ノ所有ヲ制限セラレ警察法ニ依リテ言論著作印行集會結社ヲ制限セラルルハ已ムヲ得サルコトナリ

國安ヲ害スル國民ニシテ領土外ニ放逐スルノ必要アルトキハ法律ヲ以テスルニ於テハ之ヲ領土外ニ放逐スルコトヲ得ルヤ否ヤト言フニ統治ハ國家ヲ維持スル爲ニ之ヲ行フモノナルカ故ニ國安ヲ害スル國民ヲ領土外ニ驅除放逐スルヲ以テ良策ト爲ストキハ其惡害國民ヲ領土外ニ驅除放逐スルコトヲ得ヘシ然レトモ憲法ノ仕組ハ統治妨害者ニ對シテハ刑罰ヲ以テ其服從義務違反ノ責任ヲ問フコトト爲スニ在ルヲ以テ國民ヲ領土外ニ驅除放逐スルニハ之ヲ刑罰法ニ定ムルヲ以テ順當ト爲スヘキニ似タリ

清水博士(第一〇版憲法第四五八頁)ノ說

憲法上ヨリ之ヲ論スルトキハ法律ヲ以テ絕對ニ臣民ノ領土内ニ居住スルコトヲ禁止スルモ憲法第二二條ニ紙觸スルモノニアラス又之ヲ國法上ヨリ廣ク觀察スルモ其之ヲ國外ニ追放スルハ恰モ之ヲ死刑ニ處スルニ均シク二者共ニ自國ノ國家組織ノ一員タルノ資格ヲ喪ハシメ其領土内ノ存在ヲ許ササルモノタルハ一ナリ唯其生命ヲ奪フト奪ハサルトノ區別ヲ存スルノミ故ニ死刑ニシテ之ヲ認ムル以上ハ到底追放ヲ不可能ナリト爲スコトヲ得サルナリ

居住及移轉ノ自由中ニ營業行爲ヲ含ムモノナルヤ否ヤハ問題ナリ居住及移轉ハ營業上必要ナルニ相違ナシ然レトモ居住及移轉ハ目的ノ如何ヲ問ハス生存ノ必要上此處ニ居住シ彼處ニ移轉スル權利ノ行使ヲ言フモノト解スルヲ至當トス否ラサレハ苟モ生存上ノ行爲ノ全部ヲ含ムモノト爲シ特ニ營業行爲ヲ舉示スルノ要アルコトナキモノナレハナリ

伊藤公爵(憲法義解四二頁)ノ說

維新ノ後廢藩ノ舉ト俱ニ居住及移轉ノ自由ヲ認メ凡ソ日本臣民タル者ハ帝國疆内ニ於テ何レノ地ヲ問ハス定住シ借住シ寄留シ及營業スルノ自由アラシメタリ而シテ憲法ニ其自由ヲ制限スルハ必法律ニ由リ行政處分ノ外ニ在ルコトヲ揭ケタルハ此レヲ貴重スルノ意ヲ明ニスルナリ



清水博士(第一〇版憲法篇五一八頁)ノ説

我憲法ノ明文上營業ノ自由ヲ保障スルコトナク又法律ノ明文ヲ以テシテモ之ヲ保障シタルモノナキニ因リ我國ニテハ其自由ヲ制限スルニ命令ヲ以テスルヲ得ルモノナリ

並杉博士(第一三版憲法述義四四四頁)ノ説

學問ノ自由營業ノ自由結婚ノ自由ノ如キ事ハ憲法ニ列舉シテ居ラヌノテアルカテ所謂自由權タル意味ヲ有セザルモノトシナケレハナラヌ

市村博士(帝國憲法論四〇四頁)ノ説

營業ノ自由ハ居住及移轉ノ自由ノ中ニ包含セス

大正六年九月一日農商務省令第二〇號ヲ以テ發布シタル暴利取締令ハ衆議院ニ於テ違憲ナリトノ論ヲ生シタリシモ立消トナリタリ該令ヲ違憲ナリト言フ理由ノ主ナルモノハ該令ハ商品ノ買占又ハ賣惜ヲ爲ス者ヲ處罰スルハ所有權ヲ害スルモノナリト言フニ在リテ其辯護論ハ該令ハ憲法第九條ノ規定ニ依リ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ發シタルモノナリ又營業ノ自由ヲ制限スルニ法律ヲ要スルコトナシ民法第九十條ニ「公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行爲

ハ無効トス」トアリ其商品買占又ハ賣惜ハ該條ニ所謂公ノ秩序ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行爲ナルカ故ニ民法ニ依リテ既ニ禁制セラレタル行爲ナリ其故ニ該令ヲ以テ其犯禁行爲ニ制裁ヲ附シタルモノニシテ毫モ違憲タルコトナシト言フニ在リ要法事項以外ノ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ憲法第九條ノ命令ヲ發スルコトヲ得ルハ論ナシ營業ノ自由ヲ制限スルニ法律ヲ要セサルコトモ然リ然レトモ民法第九十條ハ公秩ヲ害スル事項ヲ目的トスル法律行爲ヲ禁スルニ在リ商品ノ買占ハ兎モ角賣惜ハ法律行爲ニ非サルヲ以テ民法ノ禁スル所ニ非ス然レトモ財産ノ所有制限ハ法律ニ依ルノ外之ヲ行フヘカラス命令ニ依リ制裁ヲ以テ威嚇シ財産ノ放賣ヲ強フルハ法律ニ依ラスシテ財産ノ所有ヲ制限シ侵害スルモノナルヲ以テ該令ノ違憲タルコト明カナリ

憲法列示ノ權利ト稱スル事項ハ所謂要法事項タルモノニシテ之カ制限ヲ爲スニハ必ス法律ヲ要スルモノナルニ獨信教ト請願トニ關シテハ之ヲ制



限スルニ法律ヲ以テスルコトヲ規定セシメ信教ニ付テハ安寧秩序ヲ妨ケサルコト及臣民タルノ義務ニ背カサルコトヲ以テ其要件ト爲シ請願ニ付テハ相當ノ敬禮ヲ守ルコト及別ニ定ムル所ノ規程ニ從フコトヲ以テ其要件ト爲セリ其故ニ信教ニ付テハ憲法ヲ以テ直接ニ其要件ヲ規定シタルモノナルカ故ニ其要件ヲ具備スルトキハ如何ナル宗教ニテモ自由ニ之ヲ信仰スルコトヲ得ルモノナリ然レトモ其違犯者ヲ取締ルニハ憲法第二十三條ニ該當スル規定ヲ要スルモノハ法律ヲ以テシ同第九條ニ該當スル規定ヲ要スルモノハ命令ヲ以テスルコトヲ得ルモノナリ

憲法ニ信教ノコトヲ規定シテ布教ノコトヲ規定セサルカ故ニ布教ハ憲法上ノ制限ナク自由ニ行フコトヲ得ルモノトモ解シ得ヘク又ハ絕對ニ行フコトヲ得サルモノトモ解シ得ヘシ然レトモ布教カ國家ノ存在ヲ害スルモノナルトキハ之ヲ許スヘカラサルハ統治ノ本義上當然ノコトナリ又布教カ國家ノ存在ヲ害セサルニ於テハ一方ニ信教ヲ認メタルモノナルカ故ニ之ヲ禁スルノ理由ナシ元來信教ト布教トハ宗教ノ兩面ヲ成スモノナルカ故ニ特別ノ除外規定ヲ存セサル以上ハ信教ノ規定ハ其半面ニ於テ布教ノ規定ヲ爲シタルモノト解スルハ其當ヲ得タルモノナリ

請願ニ付テハ憲法ニ於テ二個ノ要件ヲ定メタレトモ其一個ノ要件ハ特別

義務ノ基  
因

規定ニ讓リタルヲ以テ請願ハ結局特別法規ニ依リテ之ヲ爲シ又制限セラ  
ルルモノナリ其特別法規ニ制限ナキカ故ニ法律ヲ以テ規定スルコトヲ得  
ヘク又憲法第九條ニ該當スルトキハ命令ヲ以テモ規定スルコトヲ得ルナ  
リ

(五) 臣民ノ義務

國家ハ強者カ道德ヲ厲行スル爲ニ多數人類ヲ統合シタル團體ナルカ故ニ  
其分子タル人類カ道德ノ厲行ヲ受ケサルヘカラサルヤ明カナリ之ヲ單ニ  
社會ノ出來事トシテ見ルトキハ弱者ハ強者ニ壓セラルルノ形ナルモ其強  
者ハ私慾的強者ニ非スシテ道德ナル人類ノ生存行爲ヲ支配スル天則ニ基  
キテ生シ天則ヲ厲行スルモノナルカ故ニ其厲行セラルル者カ之ニ從フハ  
亦天則ノ當然ノ道理ナリ法學上道德ヲ厲行スル力ヲ統治權ト言ヒ其統治  
權ノ拘束ヲ受ケテ之ニ從フヲ義務ト言フ義務ハ拘束セラレタル負擔ノ義  
ナリ義務ハ拘束者ノ在ルコトアリ拘束者ノ在ラサルコトアリ國民ノ義務



ハ拘束者ニ對シテ負フモノニシテ拘束者ハ統治者ナルカ故ニ國民ノ義務ハ統治者ニ對シテ負フモノナリ

斯ノ如ク國民ノ有スル義務ハ統治者カ道德ナル國民ノ生存行爲ヲ支配スル天則ノ厲行即チ統治行爲ニ因リテ國民ノ生存ヲ保護シ人格ヲ維持スルモノナルヲ以テ其統治ヲ受クルコトカ生存ヲ完クスル所以ナリ其統治ヲ受クルコトカ生存ヲ完クスル所以ナルカ故ニ統治權ニ從ハサルヘカラス統治權ニ從フコトカ生存ヲ完クスルモノナリ統治權ニ從ハサルハ生存ノ規範タル天則ニ背戾スルモノナルヲ以テ生存ヲ完クスルコトヲ得サルモノナリ左レハ統治權ニ從フコトハ天則ヲ奉スルモノニシテ國民ノ義務ナリ國民ハ統治權ノ拘束ヲ受ケ服從ノ負擔ヲ有スルモノナリ其負擔カ即チ義務ナリ此義務ハ國民タル義務ニシテ統治關係上ノ諸般ノ義務ハ此義務アルカ爲ニ生スルモノナリ從ヒテ此義務ハ基本的義務タルモノナリ其基本的義務ハ統治權ノ發現存在ノ爲ニ生スル義務ナルヲ以テ畢竟スルニ國

臣民義務  
ノ區別

民ノ義務ハ統治權ノ發現存在ニ因リテ存在スルモノナリ國民ハ此基本的義務アル爲ニ生存ヲ完クスルモノナリ國民ノ義務ハ單ニ國民ナルカ故ニ負フモノナリト言フノミニテハ其義務ノ存在理由ヲ明カニスルコトナシ又統治者ハ強者ナルカ故ニ弱者ハ之ニ從ハサルヘカラスト言フノミニテモ其義務ノ存在理由ヲ明カニスルコトナシ又統治者ノ保護ヲ受クルカ故ニ義務ヲ負フモノナリト言フモ其義務ノ存在理由ヲ明カニスルモノニ非ス國民ノ義務ハ統治權ノ存在スルハ天則ナルト同シク國民ノ義務ノ存在スルモ亦天則ナリ

上杉博士(第一三版憲法述義一三二頁四〇九頁)ノ説

服從ハ人類カ人タル所以ノ本質ヲ充實シ發展シ永遠ニスル所以ノ最高ノ道德デアリマス

國民ノ義務ハ之ヲ分チテ服從 (Gelorsam, Submission) 及輔成 (Unterstützung, Assistance) ノ二トス服從トハ消極的ノ義務ニシテ退ヒテ統治權ノ行使ヲ妨クルコトナク之ヲ受ケテ從フヲ言ヒ輔成トハ積極的ノ義務ニシテ進ンテ



## 忠君

統治行爲ヲ補助弼成スルコトヲ言フ  
君主國ニ於テハ國民ノ義務ヲ臣民ノ義務ト言ヒ臣民ノ義務ハ凡テ之ヲ忠君 (Unterthanentreue, Anhänglichkeit an den Herrscher, Loyalty) ノ義務ト言フ忠君ノ義務ハ雷ニ服従スルノミナラス統治者タル君主ノ統治行爲ヲ輔成スルコトナリ歐米諸國ニ於テハ忠君ハ文化ニ浴セサル國ノ遺風ニシテ東洋ノ蠻習ナリト嗤笑スル者アリ然レトモ之レ統治者ノ本質ヲ辨セサル者ノ嚙語ナリ未タ文化ニ浴セサル輩ノ痴言ナリ余豈ニ日本ノ忠君ヲ固持セン爲メノ曲辯ヲ弄スル者ナランヤ前ニモ論シタル如ク人類ノ生存カ統治者ニ依リテ完成スルハ天則ナリ從ヒテ統治者ニ服従セサルヘカラサルモ天則ノ結果ナリ其統治者カ君主ナルトキハ君主ヲ守リ君主ヲ健全安泰ニシ以テ統治權ヲ強大ナラシムルハ天則ヲ完行スル所以ニシテ臣民ノ眞ニ必要ナル根本的義務ナリ其故ニ臣民ハ君主ニ服従セサルヘカラサルノミナラス君主ノ統治行爲ヲ輔成セサルヘカラス其服従及輔成ノ義務ヲ稱シテ忠君

ノ義務ト言フハ眞ニ至當ノコトナリ君主ヲ守リ君主ヲ健全安泰ニスルト言フコトハ君主ノ統治行爲ヲ輔成シテ統治ヲ誤ラシメサルニ在リ君主ヲ輔成シテ良統治ヲ爲サシムルハ獨國務大臣ニ限ルモノニ非ス國務大臣カ輔成ノ任務ヲ盡サス君主ヲシテ統治ヲ誤ラシムルコトアルトキハ國務大臣ノ不忠ヲ責メ以テ奏聞スルカ如キハ忠君ノ義務ノ一ナリ  
忠君ノ義務ノ基礎ヲ君恩ニ置キ忠君ヲ以テ報恩ナリトスルハ大ナル誤ナリ報恩ハ人生ノ美ナル行爲ナレトモ忠君ノ義務ハ天則ニ基キテ生シタル統治關係ニ因ル臣民ノ義務ニシテ君恩ノ有無ニ關スルコトナシ若シ忠君ノ義務ノ基礎ヲ以テ君恩ニ在リト爲ストキハ他國ヲ併領シタル場合ニ於テハ其新領民ハ何等ノ君恩ヲ受ケタルモノニ非サルヲ以テ忠君ノ義務ナシト言フコトニナルナリ若シ又君恩ヲ以テ忠君ノ義務ノ基礎ト爲スニト假定スルトキハ其君恩ヲ受ケタル者カ各自其受恩ノ分量ノ異ナルニ從ヒテ忠君ノ義務ニモ差ヲ生スルコトトナルナリ又忠君ノ義務ノ基礎ヲ共